

**StorageTek Automated Cartridge System Library
Software**

メッセージ

リリース 8.4

E68232-01

2015 年 9 月

StorageTek Automated Cartridge System Library Software

メッセージ

E68232-01

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
対象読者	5
ドキュメントのアクセシビリティについて	5
1. イベントログメッセージ	7
メッセージの形式	7
サービスリクエストを開く	8
Oracle Support の診断情報の収集	8
メッセージ	9
2. ステータスコード	221
索引	251

はじめに

StorageTek Automated Cartridge System Library Software (ACSL) は、StorageTek 自動テープライブラリを制御する Oracle の StorageTek UNIX サーバーソフトウェアです。StorageTek ACS 製品ファミリは、完全に自動化されたテープカートリッジベースのデータストレージおよび情報検索システムで構成されます。StorageTek ACSL では、各種オペレーティングシステムで動作するワークステーションからメインフレーム、スーパーコンピュータまでの範囲に及ぶさまざまなクライアントシステムへのネットワークアクセスがサポートされています。

対象読者

このガイドは、StorageTek ACSL の管理を担当する個人向けです。次のことに関して実用的な知識をすでに持っていることが前提となっています。

- UNIX ファイルおよびディレクトリの構造。
- 使用しているプラットフォームに対応した UNIX コマンドおよびユーティリティを使用する方法。
- UNIX システムファイル。
- 一般的な UNIX システム管理者タスク (root としてのログオン、UNIX アプリケーションへのユーザーアクセスの設定など) を実行する方法。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

第1章 イベントログメッセージ

このドキュメントでは、イベントログメッセージが番号順で示されています。メッセージ番号はイベントログに表示されるメッセージの2行目の先頭に表示される番号です。このマニュアルでは、メッセージ番号の後にメッセージテキストが示され、これがイベントログメッセージに表示される最後の行になります。イベントログに表示される完全なメッセージの説明については、「メッセージの形式」を参照してください。

このマニュアルでの各メッセージの説明には、次の情報が含まれます。

- メッセージ番号およびメッセージテキスト
- メッセージの説明
- メッセージに表示される変数の説明
- メッセージに応答するために必要なアクション

メッセージの形式

すべてのイベントログエントリの形式には、一貫性があります。各エントリには、1行の接頭辞が含まれ、モジュール情報と2行以上のメッセージテキストが続きます。

メッセージの最初の行には、次の3つの要素が含まれます。

- *mm-dd-yy hh:mm:ss* はエントリの日付と時間です。
- *component_name* は元のライブラリサーバーコンポーネントの省略形です。たとえば、ACSLM、ACSSA、CSI、ストレージサーバーなどです。
- *nn* は角括弧で囲まれたリクエスト ID です。この ID は有効なリクエストを受信したときに、ACSLMによって生成されます。リクエスト ID で指定されたリクエストのステータスを確認するために照会リクエストコマンドを入力できます。

2行目および後続の行には次の情報が含まれます。

- *message_number* はメッセージ番号です。
- *classification* はメッセージの1文字の分類です。これらの分類は次のとおりです。
 - N - 分類なし

- I - 情報のみ
- W - 警告
- E - エラー
- *mod_id*, *mod_ver*, *mod_line* は、それぞれメッセージ、モジュールバージョン、モジュールの行番号を生成した ACSLS モジュールのファイル名を示します。これらの識別子は Oracle Support の担当者が問題の原因を特定できるように含められています。これらはシステム管理者またはライブラリユーザーが使用することを意図していません。
- *function* はメッセージを生成したコンポーネントの関数です。エラーメッセージ (E) には通常関数が含まれます。情報メッセージ (I) では通常関数は省略されます。(前のページに示されているすべてのエントリの一般的な形式の 3 行目を参照してください)。
- *message text* はメッセージ本体です。メッセージはテキストの 1 行以上を占める場合があります。

サービスリクエストを開く

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細は、<http://www.oracle.com/support/contact.html> にアクセスするか、または聴覚障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/accessibility/support.html> にアクセスしてください。

これらの Web サイトを使用してサービスリクエストを開き、問題を報告したり質問したりします。

Oracle Support の診断情報の収集

開始するにあたり、問題が発生したコンテキストまたは質問について記録します。次の情報を準備しておきます。

- ACSLS で実行されているリリースおよび保守レベル
- ハードウェアプラットフォーム
- オペレーティングシステム (OS) のリリースレベル
- ACSLS がサポートするライブラリ
- 問題が発生したときに ACSLS で実行されていた操作

Oracle Support では、サービスコールの一部として診断ログのセット全体および分析用の他の診断情報を送信するよう依頼することがあります。このすべてのデータは単一のコマンドで収集できます。

```
get_diags
```

メモ:

`get_diags` を実行するには `root` としてログインする必要があります。

このユーティリティーですべての情報が収集されると、データを電子メールで送信するか、手動転送を使用可能にするかを尋ねるプロンプトが表示されます。

データを直接 ACSLS マシンから電子メール送信するように選択する場合は、ACSLS マシンとインターネット間で電子メール通信が可能であることを確認してください。企業によっては、ターゲットマシンとの電子メールの送受信がファイアウォールによってブロックされることがあります。この場合は、情報を社内の自分宛に電子メール送信してから、Oracle に診断データを転送してください。

または、情報は手動で転送することも選択できます。`get_diags` ユーティリティーで、転送待機中の `tar` パッケージが見つかる場所が通知されます。通常、診断データ用のステージング領域は `/export/backup/diag/acsss` にあります。

メッセージ

0 I

message text.

説明: エラーが発生しました。メッセージテキストの変数によって説明が示されます。

変数: *message text* 変数はエラーを説明します。

ユーザーの対応: エラー状態を解決します。サポートが必要な場合は、必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。このエラーメッセージはボリュームが失われた状態を示している可能性があります。詳細は、ACSLS 管理者ガイドのトラブルシューティングにあるエラント (失われた) ボリュームの回復を参照してください。

1 E

unexpected status = status

説明: ACSLS 関数は別の ACSLS 関数から予期しないステータスコードを受け取りました。

変数: *status* 変数は関数の間で渡されるコードです。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

4 N

LSM lsm_id: Access door closed.

説明: LMU は、LSM アクセスタアが閉じられたことを示すメッセージを ACSLS に渡しました。

変数: *lsm_id* 変数はアクセスタアが閉じられた LSM を示します。

ユーザーの対応: なし。

5 N

LSM lsm_id: Access door opened.

説明: LMU は、LSM アクセスタアが開かれたことを示すメッセージを ACSLS に渡しました。

変数: *lsm_id* はアクセスタアが開かれた LSM を示します。

ユーザーの対応: なし。

6 N

ACS Identifier acs_id Invalid.

説明: ACS の識別子または変数は、形式が正しくないか、無効な値が指定されています。

変数: *acs_id* は無効な ACS 識別子です。

ユーザーの対応: 正しい形式を入力します。ACS 識別子の正しい形式については、ACSLs 管理者ガイドのコマンドリファレンスの章にある一般的なコマンド構文の項のコンポーネントのタイプと識別子を参照してください。

9 N

LSM Identifier lsm_id Invalid.

説明: LSM の識別子または変数は、形式が正しくないか、無効な値が指定されています。

変数: *lsm_id* は無効な LSM 識別子です。

ユーザーの対応: 正しい形式 (ACSLs 管理者ガイドのコマンドリファレンスの章にある一般的なコマンド構文の項のコンポーネントのタイプと識別子を参照してください) および正しい識別子の値を入力します。

20 N

Invalid exit status returned from PID process-id.

説明: プロセス ID (PID) から返された終了ステータスは有効な終了ステータスとみなされませんでした。

変数:

- *status* はプロセス ID から返された終了ステータスです。
- *process-id* はプロセス ID の値です。

ユーザーの対応: 必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

37 N

LMU READY received for ACS Identifier acs_id.

説明: LMU がオンラインに設定されました。

変数: *acs_id* は LMU が接続された ACS の識別子です。

ユーザーの対応: なし。

38 N

LSM NOT READY received for LSM Id lsm_id.

説明: LSM がオフラインに設定されました。

変数: *lsm_id* はオフラインに設定された LSM の識別子です。

ユーザーの対応: なし。

40 N

LSM READY received for LSM Identifier lsm_id.

説明: LSM がオンラインに設定されました。

変数: *lsm_id* はオンラインに設定された LSM の識別子です。

ユーザーの対応: なし。

43 N

PORT OFFLINE received for PORT Id port_id.

説明: サーバーシステムと LMU の間のポートがオフラインに設定されました。

変数: *port_id* はオフラインに設定されたポートの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

53 N

cell cell_id - Reserved too long by another process

説明: データベース内のセルレコードは別のプロセスによって予約されています。適切な回数の再試行とタイムアウトを繰り返すと、監査でこのレコードにアクセスできなくなります。続けて次のセルで監査が実行されます。このエラーはシステムが負荷の高い状態にあることを示します。

変数: *cell_id* はセルレコードの識別子です。

ユーザーの対応:

1. *query request all* を発行し、セルに対してアクティブなリクエストがないか確認します。コマンドの発行については、ACSLs 管理者ガイドのコマンドリファレンスの章を参照してください。
2. アクティブなリクエストがない場合は、指定されたセルを含むサブパネルの監査リクエストを発行します。コマンドリファレンスの章を参照してください。
3. 問題が持続する場合、ソフトウェア障害が発生しています。ライブ러리サーバーを再起動する必要があります。コマンドリファレンスの章を参照してください。

54 N

Cell cell_id - Missing cell detected

説明: LSM ロボットが LSM 内のストレージセルを検索できません。原因として L 型のターゲットが取り除かれ、セルまたはセルキャリアが LSM ウォールから切り離されていることが考えられます。これはライブ러リの構成エラーで、ライブ러리サーバーが終了する原因となります。

変数: *cell_id* は失われたセルの場所です。

ユーザーの対応: エラーを修正し、ライブ러리サーバーを再起動した後に、監査を再実行する必要があります。

55 N

Panel panel_id - Audit of panel completed.

説明: ACS、LSM、またはサーバーの監査で、監査が実行された各パネルのイベントログにこのメッセージが書き込まれます。

変数: *panel_id* は監査が実行されたパネルの場所です。

ユーザーの対応: なし。

62 N

Cell cell_id - routine_name returned unexposed status = status_code

説明: 監査中に単一のセルが検証され、呼び出されたルーチンから予期しないステータスが返されました。監査はこのセルの検査を終了します。

変数:

- *cell_id* は検査されたセルです。
- *routine_name* はそのセルに関する情報を検査するルーチンです。
- *status_code* は返された予期しないステータスコードです。ステータスの内容についてはステータスコードの章を参照してください。

ユーザーの対応: このセルのサブパネル監査を発行するか、SLConsole を含むセルを調べます。必要に応じて Oracle Support に連絡します。

65 N

Cartridge vol_id found at location cell_id.

説明: データベースにリストされていないテープカートリッジが ACS に見つかりました。カートリッジがデータベースに追加されます。

変数:

- *vol_id* はテープカートリッジの外部ラベルです。
- *cell_id* はカートリッジが見つかったストレージセルの場所です。

ユーザーの対応: なし。

66 N

Cartridge vol_id, new location cell_id

説明: テープカートリッジがデータベースで定義された場所にありません。カートリッジは ACS では移動されません。代わりに、データベースが新しいストレージの場所を反映するように更新されます。

変数:

- *vol_id* はテープカートリッジの外部ラベルです。
- *cell_id* はカートリッジの割り当てられたストレージセルの場所です。

ユーザーの対応: なし。

67 N

Cartridge vol_id not found.

説明: データベースにリストされているテープカートリッジが ACS で見つかりませんでした。カートリッジがデータベースから削除されました。

変数: *vol_id* はテープカートリッジの外部ラベルです。

ユーザーの対応: なし。

75 N

Unexpected Automatic Enter Request received: discarded.

説明: リクエストキューが空になった時点で CAP が閉じられました。CAP のクローズに関連付けられた一致するリクエストはありませんでした。CAP のクローズは無視されます。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因に関する手掛かりとなる関連するイベントログメッセージを監視します。

81 N

ACS acs_id configuration failed to verify.

説明: ライブラリサーバーデータベースにおける ACS 構成が、LMU で定義された構成と一致しません。回復処理は終了します。

変数: *acs_id* は ACS の一意の識別子です。

ユーザーの対応: 回復処理が終了した後、ライブラリサーバー *acsconfig* プログラムを再実行して、データベース内のライブラリ構成を再定義します。

83 N

Drive drive_id: Configuration failed to verify

説明: 回復プロセスは LMU で定義された構成に照らし合わせてデータベースのドライブ構成を正常に検証できませんでした。この状態は LSM がオフラインであるか、実際の構成に不一致があることが原因である可能性があります。

変数: *drive_id* はドライブの一意の識別子です。

ユーザーの対応: *query lsm* リクエスト発行して LSM の状態を表示します。オンラインの場合、*acsconfig* プログラムを実行し、ライブラリサーバーデータベースの構成を再定義する必要があります。その後、次の手順を実行します。

1. 問題のドライブを確認します。
2. ドライブに問題があれば、それらの問題を修正します。
3. ドライブと LSM をオンラインに変更します。

4. 問題が解決しない場合、またはドライブが新規であるか削除された場合は、`acsconfig` 実行します。ACSL S の再構成の手順については、*ACSL S 管理者ガイド*のライブラリハードウェアの構成の章を参照してください。

85 N

LSM lsm_id: configuration failed to verify.

説明: データベースにおける LSM 構成が、LMU で定義された構成と一致しません。回復処理は終了します。このメッセージの後に、サーバーのシステム回復が失敗ことを示すメッセージが続きます。

変数: `lsm_id` は構成が LMU で定義された構成と一致しない LSM を示します。

ユーザーの対応: この失敗に関する追加の情報がないか前のイベントログエントリを調べます。関連するエラーメッセージの推奨されるアクションに従います。

87 N

ACS acs_id: No ports online: marked offline.

説明: サーバーシステムは指定された ACS のすべてのポートと通信できません。回復は続行されますが、ACS および LSM はデータベースでオフラインとしてマークされます。

変数: `acs_id` は更新された ACS です。

ユーザーの対応: 回復が完了したら、次の手順を実行します。

1. ポートをオンラインに変更します。
2. 問題は解決されましたか。
 - はい - ACS をオンラインに変更します。アクションは完了です。
 - いいえ - この手順の残りのステップに従います。
3. ポートに関する問題を見つけて修正します。その他の状態では、次を確認します。
 - LMU が停止していないか。
 - ケーブルが外れていないか、または間違っ て接続されていないか。
 - ポートが間違っていないか。
4. ポートをオンラインに変更します。
5. 関連付けられた ACS をオンラインに変更します。

メモ:

複数の ACS が存在する場合、追加の ACS ごとに上記の手順を繰り返します。

88 N

No server ports online.

説明: サーバーシステムはすべての ACS と通信できません。回復は続行されますが、すべての ACS および LSM はオフラインとしてマークされます。

ユーザーの対応: ACS をオンラインに変更するには、少なくとも 1 つの ACS への通信ポートをオンラインにする必要があります。回復が完了したら、次の手順を実行します。

1. 適切なポートへのオンライン変更リクエストを発行します。
2. 関連付けられたすべての ACS をオンラインに変更します。

89 N

Port port_id: Failed to go online: marked offline.

説明: サーバーシステムは ACS へのポートと通信できません。ポートはデータベースでオフラインとしてマークされます。

変数: *port_id* はオンラインへの変更に失敗したポートです。

ユーザーの対応: サーバーシステムと LMU の間の通信ラインを確認します。ラインに問題がない場合、指定したポートに対して *vary online* リクエストを発行します。

94 N

Cell cell_id: Corrected cell status to status

説明: セルレコードのステータスは ACSLS 処理に基づいて更新されました。

変数:

- *cell_id* は更新された特定のセルです。
- *status* はセルの新しいステータスを示します。

ユーザーの対応: なし。これは通知のみです。

95 N

Drive drive_id: Corrected drive status to status

説明: ドライブレコードのステータスは ACSLS 処理に基づいて更新されました。

変数:

- *drive_id* は更新された特定のドライブです。
- *status* はドライブの新しいステータスを示します。

ユーザーの対応: なし。これは通知のみです。

96 N

Volume vol_id: Corrected volume status to status.

説明: ボリュームレコードのステータスは ACSLS 処理に基づいて更新されました。

変数:

- *vol_id* は更新された特定のボリュームです。
- *status* はボリュームの新しいステータスを示します。

ユーザーの対応: なし。これは通知のみです。

100 N

LSM lsm_id: Hardware failed to vary offline/online: marked offline

説明: LSM をオフラインに変更するリクエストは完了まで処理されましたが、LSM は LSM をオフラインに変更することに失敗しました。

変数: *lsm_id* はリクエストにおける LSM です。

ユーザーの対応: 問題の原因を特定するのに役立つライブラリ診断を実行します (手順については、適切なハードウェアメンテナンスマニュアルを参照してください)。必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

101 N

LSM lsm_id is full; volume vol_id cannot be recovered and is deleted.

説明: ACSLS は LSM の回復中にプレイグラウンドか移動中のセルまたは PCP セルでこのボリュームを検出しました。この LSM 内の新しいホームセルにボリュームを移動することによってボリュームを回復しようとした。しかし LSM がいっぱいだったためボリュームを回復できませんでした。ボリュームは、データベースで削除済みとしてマークされました。

変数:

- *lsm_id* は回復している LSM を識別します。
- *vol_id* は削除されたボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. LSM からボリュームを取り出します。

2. LSM をオフラインにしてからオンラインに戻し、ボリュームを回復します。

105 N

component component_id: Overridden by another vary request.

説明: 指定したコンポーネントは、リクエストが別の異なるリクエストによってオーバーライドされたため、指定した状態に変更されませんでした。

変数:

- *component* はライブラリコンポーネント (たとえば、ACS) です。
- *component_id* はライブラリコンポーネントの識別子です。

ユーザーの対応: なし。必要に応じて *vary* リクエストを再送信します。

113 N

File file: operation failed on /"%s/" (errno=error_no).

説明: イベントログファイルに対して実行された操作が失敗しました。

変数:

- *file* は操作が失敗したファイルです。
- *operation* は失敗した操作です。
- *error_no* はこのファイル操作の問題に関連付けられたシステムエラー番号です。

ユーザーの対応: 必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

115 N

Volume vol_id: Corrected volume type from media_type1 to media_type2 cartridge.

説明: ACSLS 監査は不正なメディアタイプが使用されているボリュームを検出しました。監査は正しいボリュームメディアタイプで ACSLS データベースを更新しました。

変数:

- *vol_id* はボリューム ID です。
- *media_type1* は不正なボリュームメディアタイプです。
- *media_type2* は正しいボリュームメディアタイプです。

ユーザーの対応: なし。

122 E

surr_main (PID #####): Creating socket SURROGATE failed on "#####".

説明: サロゲートのメインルーチンは、ライブラリ管理ゲートウェイからのリクエストを待機するために `socket()` システムコールを使用してソケットを作成しようとしました。実行中の各サロゲートプロセスには独自の一意のソケットが存在します。システムは応答として、`acsss_daemon` を使用して IPC サロゲートを異常終了し、ACSL S を自動的に再起動 (最大 10 回) します。

変数: ##### は、ソケットを作成しようとするサロゲートのプロセス ID です。

ユーザーの対応:

1. `socket()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。その後、`ps | grep acs` を使用してその他の「ゾンビ」ACSL S プロセスを強制終了します。
3. ACSLS を再起動します。ACSL S ホストをリブートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
4. 問題が解決しない場合は、UNIX システムの制限がソケット、ファイル記述子、またはその他のネットワークリソースで超えていないかどうかを確認します。
5. 問題が続く場合は、必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。[「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

125 N

Volume vol_id: Locked volume deleted, lock was lock_id.

説明: ゼロ以外のロック識別子を含むボリュームが削除されました。

変数:

- `vol_id` はボリューム識別子です。
- `lock_id` はロックの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

126 N

Timed out waiting for message.

説明: プロセスが別のプロセスに内部リクエストを渡しました。後者のプロセスは指定されたタイムアウト期間内に応答しませんでした。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因に関する手掛かりとなる関連するイベントログメッセージを確認します。

130 E

surr_main (PID #####): Environment variable SURROGATE_QUEUE_AGE is not defined or has a null value: exiting.

説明: サロゲートのメインルーチンが *SURROGATE_QUEUE_AGE* 動的環境変数を取得できませんでした。あるいは変数が正しく設定されていません。IPC サロゲートは終了します。

変数: ##### は、エラーを発行するサロゲートのプロセス ID です。

ユーザーの対応: *acsss_config* プログラムで *SURROGATE_QUEUE_AGE* 変数を定義します。

131 E

surr_main (PID #####): Environment variable SURROGATE_TIMEOUT is not defined or has a null value: exiting

説明: サロゲートのメインルーチンが *SURROGATE_TIMEOUT* 動的環境変数を取得できませんでした。あるいは変数が正しく設定されていません。IPC サロゲートは終了します。

変数: ##### は、エラーを発行するサロゲートのプロセス ID です。

ユーザーの対応: *acsss_config* プログラムで *SURROGATE_TIMEOUT* 変数を定義します。

132 E

surr_main (PID #####): Environment variable SURROGATE_PORT is not defined or has a null value: exiting.

説明: サロゲートのメインルーチンが *SURROGATE_PORT* 動的環境変数を取得できませんでした。あるいは変数が正しく設定されていません。IPC サロゲートは終了します。

変数: ##### は、エラーを発行するサロゲートのプロセス ID です。

ユーザーの対応: *acsss_config* プログラムで *SURROGATE_PORT* 変数を定義します。

135 N

Unexpected ACSLH catalog status status detected.

説明: カタログリクエストが ACSLS コンポーネントによって発行された後で応答を受信しましたが、リクエスト元のコンポーネントによって予期されていないステータスコードが含まれていました。

変数: *status* は特定のステータスコードです。

ユーザーの対応: なし。詳細は、イベントログを参照してください。

141 N

Unexpected message detected, IPC identifier is ipc_id

説明: 孤立した応答が 1 つのプロセスから未処理のリクエストに一致しない別のプロセスに返されます。

変数: *ipc_id* はこのメッセージに割り当てられた識別子です。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因に関する手掛かりとなる関連するイベントログメッセージを監視します。

146 N

Unexpected status status detected.

説明: ACSLS 関数は別の ACSLS 関数から予期しないステータスコードを受け取りました。

変数: *status* は関数の間で渡されるコードです。

ユーザーの対応: 必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。[「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

148 N

Volume vol_id Unknown media type detected.

説明: カートリッジ回復の実行中に、ポリリュームレコードがデータベースに記録されていない、読み取り可能なラベルを持つカートリッジが検出されました。ポリリュームレコードを追加するプロセスで、メディアタイプに基づいたポリリュームタイプを決定しようとした。メディアタイプが不明なためその試行が失敗しました。

変数: *vol_id* はカートリッジの特定のポリリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

149 N

Removing file file: failed on cause of failure.

説明: イベントログファイルに対して実行された操作が失敗しました。

変数:

- *file* はイベントのログファイルの名前です。

- *cause of failure* は操作の失敗の原因です。

ユーザーの対応: 必要な情報および関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

152 N

Unsupported version version packet detected: discarded.

説明: ACSLS CSI がリクエストでサポートされていないパケットバージョンを検出しました。

変数: *version* はサポートされていないパケットバージョンです。

ユーザーの対応: サポートされるパケットバージョンを使用するようにクライアントアプリケーションを更新するか、関連する ACSLS データを収集します («[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください)。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

153 W

Volume vol_id: Found in cell/CAP/drive/recovery cell_id/CAP_id/drive_id/cell added.

説明: 間違って配置されたテープが変更処理または CAP 処理によってライブラリで検出された場合に、このメッセージが発行されます。

変数:

- *vol_id* は見つからなかったボリュームの識別子です。
- *cell/CAP/drive/recovery* はボリュームが検出された場所のタイプです。
- *cell_id/CAP_id/drive_id/cell* はボリュームが検出された場所の識別子です。プレイグラウンド領域 (回復) で検出されるボリュームの場合、*cell_id* ではなく *cell* の語句のみが出力されます。

ユーザーの対応: なし。

154 W

Misplaced cartridge detected; volume vol_id cannot be recovered and is deleted.

説明: ACSLS は LSM の回復中にプレイグラウンド/移動中のセルまたは PCP セルでこのボリュームを検出しました。この LSM 内の新しいホームセルにボリュームを移動することによってボリュームを回復しようとしました。しかし、宛先セルにカートリッジが含まれていたため移動は失敗しました。ボリュームは回復されず、データベースで削除済みとしてマークされています。

変数: *vol_id* は削除済みボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. 間違って配置された1つのカートリッジが問題になっていないか確認します。
2. そうでない場合は、LSMを監査して、ライブラリの実際の内容に一致するようにACSLSDデータベースを更新します。
3. LSMをオフラインにしてからオンラインに戻し、ボリュームを回復します。

155 N

Volume vol_id: New home location is cell cell_id.

説明: ストレージセルのチェック中に、カートリッジ回復で間違って配置されたカートリッジがあることが検出されました。そのカートリッジの記録されたホームセルがチェックされ、その他のカートリッジで空またはフルであることが検出されました。

変数:

- *vol_id* はカートリッジの特定のボリューム識別子です。
- *cell_id* はカートリッジが見つかったセルです。

ユーザーの対応: なし。このカートリッジのボリュームレコードは、新しいホームセルの場所を反映するように更新されます。

187 N

Audit started.

説明: 監査処理が開始されました。

ユーザーの対応: なし。

239 N

calling_routine:id_type identifier called_routine() unexpected status = status_code.

説明: 監査のルーチンは、呼び出されたルーチンから失敗のステータスを受け取りました。ルーチンの呼び出しが失敗のステータスコードで終了します。

変数:

- *calling_routine* は呼び出しルーチンです。
- *id_type* は識別子のタイプです (lsm, cap, panel, subpanel など)。

- *identifier* はコンポーネントの識別子です。
- *called_routine* は失敗のステータスコードを返した呼び出されたルーチンです。
- *status_code* は返された失敗のステータスコードです。ステータスの内容についてはステータスコードの章を参照してください。

ユーザーの対応: 前のメッセージに失敗に至った原因に関する説明がある場合があります。必要に応じて Oracle Support に連絡します。

240 E

Cartridge Recovery () unexpected status = STATUS_LIBRARY_NOT_AVAILABLE

説明: ストレージセルのチェック中に、カートリッジ回復はアイドル状態であった LSM を確認できませんでした。

ユーザーの対応: なし。

241 N

audit completed not all cartridges were ejected, messages lost status = audit_completion_status.

説明: 生成された監査プロセスは親の監査プロセスに不完全または解読できないメッセージを送信しました。その結果、一部のエラーカートリッジが取り出されない可能性があります。

変数: *audit_completion_status* は監査の完了時のステータスです。

ユーザーの対応: このメッセージに回答するには、次の手順を実行します。

1. 前のイベントログエントリを確認し、失われたメッセージの理由を特定します。
2. *audit_completion_status* が *Audit canceled* または *Audit failed* である場合、監査を再実行する必要があります。
3. 監査が引き続き失敗する場合、関連する ACSLS データを収集します。[「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

243 N

Audit completed.

説明: 監査処理は正常に完了しました。

ユーザーの対応: なし。

244 N

audit cancelled not all cartridges were ejected, messages lost status = audit_completion_status.

説明: 生成された監査プロセスは親の監査プロセスに不完全または解読できないメッセージを送信しました。その結果、一部のエラーカートリッジが取り出されない可能性があります。

変数: *audit_completion_status* は監査の完了時のステータスです。

ユーザーの対応:

1. 前のイベントログエントリを確認し、失われたメッセージの理由を特定します。
2. *audit_completion_status* が *Audit canceled* または *Audit failed* である場合、監査を再実行する必要があります。
3. 監査が引き続き失敗する場合、関連する ACSLS データを収集します。[「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。
4. *audit_completion_status* が *Audit complete* の場合、監査は正常に完了しているため、必要なアクションはありません。

245 N

Audit cancelled.

説明: 監査処理が取り消されました。データベースに不一致があるか、エラーカートリッジが取り出されなかった可能性があります。

ユーザーの対応: なし。

246 N

Audit failed not all cartridges were ejected, messages loststatus = audit_completion_status.

説明: 生成された監査プロセスは親の監査プロセスに不完全または解読できないメッセージを送信しました。その結果、一部のエラーカートリッジが取り出されない可能性があります。

変数: *audit_completion_status* は監査によって返されたステータスです。

ユーザーの対応: このメッセージに応答するには、次の手順を実行します。

1. 前のイベントログエントリを確認し、失われたメッセージの理由を特定します。

2. `audit_completion_status` が `Audit canceled` または `Audit failed` である場合、監査を再実行する必要があります。
3. 監査が引き続き失敗する場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。
4. `audit_completion_status` が `Audit complete` の場合、監査は正常に完了しているため、必要なアクションはありません。

247 N

Audit failed.

説明: 監査処理は何らかのエラー状態のために終了しました。エラーの説明がコマンド領域に表示されます。データベースに不一致があるか、エラントカートリッジが取り出されなかった可能性があります。

ユーザーの対応: 前のイベントログエントリを調べて、失敗の原因を特定します。関連するメッセージの推奨されるアクションに従います。この手順を実行したら、監査を再実行します。

252 N

Audit failed not all cartridges were ejected, status = status

説明: ACSLS 監査は中断されました (たとえば、idle force コマンドまたはハードウェア障害のため)。

変数: `status` は監査を中断したイベントを示します。

ユーザーの対応: 監査を再送信します。

317 N

Lock request size incorrect.Req = string1,Exp = number1,Rec = number2.

説明: 送信されたロックリクエストのサイズが予期されるバイト数と一致しません。

変数:

- `string1` はロックリクエストの現在のタイプです
- `number1` は現在のロックリクエストの予期されるバイト数です。
- `number2` は現在のロックリクエストの実際のバイト数です。

ユーザーの対応: リクエストに正しい情報を指定してロックリクエストを再送信します。

347 N

Initiation started, acsss_version.

説明: ライブラリサーバーの起動を開始しました。

変数: *acsss_version* は ACSLS のバージョン番号です。

ユーザーの対応: なし。

351 N

Initiation completed (library server).

説明: 製品の起動は正常に完了しました。

ユーザーの対応: なし。

352 N

wait() return invalid PID PID

説明: *wait* によって返された *PID* は期待される *PID* ではありません。

変数: *PID* は *wait()* によって返されるプロセス ID です。

ユーザーの対応: 必要に応じて ACSLS を再起動します。ACSLS の再起動を 3 回試行した後に失敗した場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

354 N

exit status (status_code), status, received from process_name

説明: ライブラリサーバーデーモンはライブラリサーバープロセスから予期しない終了ステータスを受け取りました。

変数:

- *status_code* は終了した結果生成されたライブラリサーバーのステータスコードです。
- *status* はプロセスからの数値終了ステータスです。
- *process_name* はライブラリサーバープロセスです。

ユーザーの対応: ACSLS を停止していない、または *idle force* コマンドを発行していないにもかかわらずこのエラーが発生する場合、次の状態を確認します。

- 処理は続行し、それ以上エラーは発生しない。

アクションなし。メッセージは情報のみ。

- 処理は続行するものの、同じエラーが数日間、数週間、または数ヶ月にわたって継続する。

関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

- 処理が続行しない。

関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

355 N

signal(signal_num) terminated process_name.

説明: ACSLS プロセスは指定されたシグナルから終了しました。ACSLs は、終了したプロセスに応じて、プロセスを再起動するか終了します。このメッセージは、ACSLs の停止時に受信した場合は、情報のみのメッセージです。

変数:

- *signal_num* はプロセスを終了した受信したシグナル番号です。
- *process_name* は終了したライブラリサーバープロセスです。

ユーザーの対応: 必要に応じて ACSLS を再起動します。ACSLs の再起動を 3 回試行した後に失敗した場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

356 N

Termination invoked, termination_status.

説明: ライブラリサーバーの終了を開始しました。

変数: *termination_status* は終了の理由を示すライブラリサーバーのステータスコードです。

ユーザーの対応: 適切な *termination_status* の推奨されるアクションに従います。

- *termination_status* が *STATUS_TERMINATED* である場合、*acsss* ユーザーによってソフトウェアの終了が手動で呼び出されたことを示すため、アクションはありません。
- *termination_status* が *STATUS_DATABASE_ERROR* の場合、次の手順を使用します。
 1. *rc.acsss* コマンドファイルを使用してライブラリサーバーソフトウェアの再起動を試行します。
 2. *acsss* ユーザーのパスワードの入力を求められることがあります。*acsss* または *root* である場合、求められることはありません。

ライブラリサーバーは正常に再起動しましたか。

- はい - ステップ 3 に進みます。
 - いいえ - ステップ 4 に進みます。
3. データベースの回復ユーティリティ `rdb.acsss` を実行します (`acsss` ユーザーとして)。
 - a. `rdb.acsss` コマンドによって、テープの挿入が求められます。このユーティリティは既存のデータベースに書き込むため、ユーザーが持つ最新のバックアップテープを挿入します。(現在のバックアップテープがない場合は、`Control+c` を入力してこの手順を終了します。)
 - b. `rdb.acsss` が正常に完了したら、`rc.acsss` ユーティリティを使用してライブラリサーバーソフトウェアの再起動を試行します。
 4. 監査を実行し、データベースをライブラリの物理コンテンツと一致させます。
 5. 前述の手順がどちらも正常に完了しない場合は、関連する ACSLS データを収集します。
 - `termination_status` が `STATUS_CONFIGURATION_ERROR` の場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。サポートの担当者は、ライブラリの物理構成と一致するように LMU 構成を調整します。この手順を実行したら、ライブラリサーバー構成プログラムを再実行し、データベースのライブラリ構成を再定義します。
 - `termination_status` が `STATUS_RECOVERY_FAILED` の場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

357 N

`wait failed, ret = wait_return_code, errno = error_no.`

説明: UNIX システムコール `wait()` は失敗しました。

変数:

- `wait_return_code` は `wait` によって返されるコードです。
- `error_no` はシステムエラー番号です。

ユーザーの対応: 必要に応じて ACSLS を再起動します。ACSLS の再起動を 3 回試行した後に失敗した場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

361 N

process_name restarted, pid process_id.

説明: ライブラリサーバープロセスは自動的に再起動されました。

変数:

- *process_name* は終了したライブラリサーバープロセスです。
- *process_id* はライブラリサーバープロセスの識別子です。

ユーザーの対応: このメッセージが数日間、数週間、または数ヶ月にわたって繰り返される場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

368 N

Unreadable Label cell_id.

説明: ロボットがボリュームの外部ラベルを解読できませんでした。

変数: *cell_id* はボリュームが存在するストレージセルの場所です。

ユーザーの対応: ボリュームを取り出し、ラベルを調べます。取り出す必要のあるボリュームを特定できない場合は、次のコマンドを送信します。

```
sql.sh "select volid from volumetable where acs=v and lsm=w and panel=x and row=y and column=z."
```

この例の v, w, x, y, および z は、ACS、LSM、パネル、行、および列に対応する値です。

このエラーが問題のないラベルで頻繁に発生する場合は、ロボット視覚システムを検査するために、カスタマーサービスエンジニア (CSE) に連絡します。

371 N

Destination location full: cell_id/drive_id

説明: データベースには空であると示されていますが、カートリッジをマウント解除する予定だったストレージセルがいっぱいです。ロボットは使用可能なセルを検出するまでマウント解除を再試行します。このエラーのもっとも可能性の高い原因として、だれかが LSM を挿入してカートリッジを手動で移動したことが考えられます。

変数:

- *cell_id* はデータベースに示されたストレージセルの場所です。
- *drive_id* はテープドライブの識別子です。

ユーザーの対応: LSM で監査を実行して、データベースを LSM の物理コンテンツと一致させる必要があります。

372 N

Source location empty: cell_id

説明: ロボットが CAP に移動しようとしたときに、取り出しとしてマークが付けられたカートリッジがストレージセルで検出されました。監査は終了します。これはロボットのハードウェア障害による結果である可能性が高いエラーです。

変数: *cell_id* は取り出しとしてマークが付けられているカートリッジが配置されている必要があったセルの識別子です。

ユーザーの対応: エラーに関する追加の情報がないか前のイベントログエントリを調べます。適切な LSM 挿入手順を使用し、移動中のカートリッジがないかロボットのハンドを確認します。そこにカートリッジがあれば除去します。LSM をオンラインに戻した後、監査を繰り返します。

376 N

Drive drive_id: No cleaning cartridge available

説明: 指定されたドライブはクリーニングする必要がありますが、クリーニングカートリッジが使用できません。マウントが開始されます。

変数: *drive_id* はテープドライブの識別子です。

ユーザーの対応: ドライブタイプと互換性があることを確認して、クリーニングカートリッジを追加します。クリーニングカートリッジの追加については、*ACSL5 管理者ガイド*のカートリッジ管理の章にあるトランスポートのクリーニングの項のクリーニングカートリッジの定義を参照してください。

377 N

mc_mo_error: Cleaning failed.Drive drive_id

説明: クリーニングカートリッジを含むマウント操作が失敗しました。

変数: *drive_id* はクリーニング操作をリクエストするドライブの識別子です。

ユーザーの対応: イベントログで関連するエラーメッセージについて調べ、失敗の根本的な原因を特定します。

383 N

Cleaning cartridge vol_id: Usage limit exceeded.

説明: テープドライブのクリーニングを実行したら、クリーニングカートリッジで指定された最大使用回数を超えました。クリーニングカートリッジはこれ以上自動クリーニングに選択できません。

変数: *vol_id* はクリーニングカートリッジの識別子です。

ユーザーの対応: クリーニングカートリッジを取り出します。

386 N

Source location empty: cell_id

説明: LSM ロボットがデータベースによって指定された場所でテープカートリッジを見つけられませんでした。リクエストは失敗します。

変数: *cell_id* はデータベースに示されたストレージセルの場所です。

ユーザーの対応: このエラーのもっとも可能性の高い原因として、だれかが LSM を挿入してカートリッジを手動で移動したことが考えられます。LSM で監査を実行して、データベースをライブラリの物理コンテンツと一致させる必要があります。

387 N

Cartridge in cell_id, unreadable label

説明: LSM ロボットは指定したドライブで見つかったカートリッジのラベルを読み取れませんでした。リクエストは失敗します。

変数: *cell_id* はデータベースに示されたストレージセルの場所です。

ユーザーの対応: カートリッジを取り出します。ラベルの問題を修正して、カートリッジを再度挿入します。

400 N

Volume record created for vol_id

説明: データベースに存在しないテープカートリッジを格納するために予約済みとしてマークされたセルまたはドライブが見つかりました。レコードが新しいボリュームに対して作成されます。このメッセージは通常、読み取り可能なドライブ (*drive_id*) とともに表示され、使用中のメッセージとしてマークされます。

変数: *vol_id* は作成されたボリュームレコードです。

ユーザーの対応: LSM の監査を実行して、データベースをライブラリの物理コンテンツと一致させることをお勧めします。

405 N*Table lookup failure m_id: m_id*

説明: メッセージ処理エラーがマウントリクエストに対して発生しました。マウントは一部の障害のために不完全として識別されます。

変数: *m_id* はマウントリクエスト ID です。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

435 N*Volume: vol_id may be jammed in drive: drive_id*

説明: 指定されたボリュームは、指定されたトランスポートでいっぱいになりました。

変数:

- *vol_id* は、いっぱいになったボリュームです。
- *drive_id* はいっぱいになったボリュームを含むドライブです。

ユーザーの対応: いっぱいになったボリュームをドライブから手動でアンロードする必要があります。必要に応じて Oracle Support に連絡します。

436 N*Cartridge vol_id, new location cell_id.*

説明: このメッセージは ACSLS データベースのカートリッジに関する新しい場所の記録を報告します。

変数:

- *vol_id* は移動されたボリュームのボリューム識別子です。
- *cell_id* は移動されたボリュームの新しい場所です。

ユーザーの対応: なし。

437 N*volume vol_id not in drive drive_id, deleted.*

説明: テープカートリッジを含んでいるとマークされたドライブが空であることが検出されました。ボリュームレコードがデータベースから削除されました。

変数:

- `vol_id` は削除されたボリュームレコードです。
- `drive_id` はデータベースがカートリッジを含んでいたと示したテープドライブです。

ユーザーの対応: LSM の監査を実行して、データベースをライブラリの物理コンテンツと一致させることをお勧めします。

439 N

Unknown packet received, command command, identifier ipc_id

説明: ACSSA はリクエストキューで検出されない IPC 識別子を持つメッセージパケットを受信しました。ACSSA はメッセージを処理できません。

変数:

- `command` は、MESSAGE_HEADER 内のエントリです。
- `ipc_id` はこのメッセージに割り当てられた識別子です (リクエストと応答を同期するために使用されます)。

ユーザーの対応: メッセージが頻繁に発生する場合は、次の手順を使用して、できるだけ早くライブラリサーバーソフトウェアの停止および再起動を実行します。

1. コマンドプロセッサのウィンドウから、ライブラリサーバーを静止状態にする `idle` リクエストを発行します。
2. `acsss` ユーザーとしてログインし、`kill.acsss` ユーティリティを使用してライブラリサーバーを停止します。
3. `rc.acsss` ユーティリティを使用してライブラリサーバーを再起動します。

441 N

cl_ipc_read() byte count < sizeof(REQUEST_HEADER) = bytes

説明: 内部 ACSLS 障害が発生しました。

変数: `bytes` は障害が発生する前に読み取られたバイト数です。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

485 N

ipc_read: shared_block_read failed, errno = error_no

説明: 内部 ACSLS 障害が発生しました。

変数: *error_no* は障害を示します。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

486 N

cl_ipc_read: accept() failed, errno + error_no.

説明: ACSLS プロセス間の通信の確立中に、受信側で送信側からの受信接続を受け入れることができませんでした。

変数: *error_no* はシステムコールから *accept()* に返されるエラーコードです。

ユーザーの対応: なし。イベントログの追加のメッセージは、プロセス間通信 (IPC) での失敗を報告する場合があります。エラーが繰り返される場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

487 N

cl_ipc_read: invalid byte_count detected.

説明: 無効なデータが含まれていると思われるパケットを ACSLS プロセス間の通信中に受信しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。イベントログの追加のメッセージは、プロセス間通信 (IPC) での失敗を報告する場合があります。エラーが繰り返される場合、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

528 N

Invalid type type identifier.

説明: *type* 識別子は、形式が正しくないか、無効な値が指定されています。

変数: *type* 識別子は、ネットワークまたは ACSLS の間の操作によって使用される識別子の無効なタイプを指します。

ユーザーの対応: 正しい形式 (ACSLS 管理者ガイドのコマンドリファレンスの章にある一般的なコマンド構文の項のコンポーネントのタイプと識別子を参照してください) または正しい識別子の値 (あるいは両方) を入力します。

530 N

Invalid tag count file=number1 vs. code=number2.

説明: 正しくないエントリ数が動的変数ファイルで検出されました。

変数:

- *number1* はファイルで検出されたエントリ数です。
- *number2* は ACSLS によって予期されるエントリ数です。

ユーザーの対応:

1. *acs*ss としてログインします。
2. *dv_print > filename* を実行します。
3. Oracle Support に送信するため動的変数ファイルを保存します。
4. 関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

536 N

cl_ipc_read: read() failed, errno = error_no.

説明: 受信側は、ACSL S プロセス間の通信中に、送信側からの入力を正常に読み取れませんでした。

変数: *error_no* はシステムコールから *read()* に返されるエラーコードです。

ユーザーの対応: なし。イベントログの追加のメッセージは、プロセス間通信 (IPC) での失敗を報告する場合があります。この問題が繰り返される場合は、関連する ACSLS データ（「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照）を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

546 N

LH error type = status.

説明: このメッセージは ACSLS がライブラリハードウェアから異常終了のステータスコードを受信したことを示します。

変数: *status* は関数の間で渡されるコードです。

ユーザーの対応: 付随する LH エラータイプを確認して、このメッセージの根本的な原因を特定します。

568 E

```
EXEC SQL Lock timeout: insert into acstable * values (acs, partition_id, acs_state acs_desired_state).
```

説明: テーブルにレコードを挿入しようとして失敗しました。

変数:

- *acs* は ACS 識別子です。
- *partition_id* は ACS のパーティション ID です。
- *acs_state* は ACS の実際の状態です。
- *acs_desired_state* は ACS の期待される状態です。

ユーザーの対応:

1. ACSLS を再起動します。
2. 問題が続く場合は、データベースサーバーを再起動します。

569 E

```
EXEC SQL Error on insert into acstable * values (acs, partition_id, acs_state acs_desired_state).
```

説明: テーブルにレコードを挿入しようとして失敗しました。

変数:

- *acs* は ACS 識別子です。
- *partition_id* は ACS のパーティション ID です。
- *acs_state* は ACS の実際の状態です。
- *acs_desired_state* は ACS の期待される状態です。

ユーザーの対応:

1. ACSLS を再起動します。
2. 問題が続く場合は、データベースサーバーを再起動します。

713 E

```
EXEC SQL unable to delete volume vol_id because of database error.
```

説明: ACSLS はライブラリのボリュームを検出できませんでした。削除済みとしてマークを付けようとしたが、ACSLs データベースインタフェースは *volumetable* 更新に異常ステータスを返しました。データベースの更新に失敗しました。

変数: `vol_id` は存在しないボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. ACSLS を停止します (`kill.acsss`)。
2. データベースを停止します (`db_command stop`)。
3. ハングしている ACSLS プロセスを停止します。
4. ACSLS を再起動します (1 回)。
5. 問題が解決しない場合は、テーブル `volumetable` が存在し、「acsss」ユーザーにそのテーブルを更新するための適切な権限があることを確認する必要があります。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

886 N

byte count(byte_count) too small for min packet size(min_size) ignored.

説明: ACSLM は CSI または ACSSA から小さすぎるメッセージを受け取りました。ACSLM は、十分な情報が含まれていなかったため、メッセージの解釈を試行しませんでした。これは、ネットワークまたはソフトウェアのいずれかに問題がある可能性があります。

変数:

- `byte_count` はメッセージのバイト数です。
- `min_size` は有効な読み取り可能なメッセージの最小サイズです。

ユーザーの対応:

1. ネットワークまたは ACSAPI クライアントが問題の原因ではないことを確認します。
2. ネットワークまたは ACSAPI クライアントに問題がない場合、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

890 N

Severe Error(status), Exiting to ACSSS.

説明: ACSLM で、データベース障害やライブラリ構成における不整合などの致命的エラーが発生しました。ACSLM は可能であれば回復処理を自動的に開始します。回復が失敗し、かつ問題がネットワークまたは ACS API クライアントソフトウェアによって引き起こされていないと判断する場合、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。不完全な回復ステータ

スで回復が完了した場合は、コールする必要はありません。ただし、できるだけ早くライブラリを監査してください。

変数: *status* は重大なエラーの性質を示すメッセージです。

ユーザーの対応: 前のイベントログエントリを調べて、失敗の原因を特定します。関連するメッセージの推奨されるアクションに従います。

923 N

Drive drive_id lookup failed

説明: カートリッジ回復の実行中に、ドライブ、マウント、マウント解除のアクティビティーなどでのドライブの関連性を示すステータスがボリュームレコードで検出されました。ボリュームレコードに記録されていたドライブのデータベースでレコードが見つかりませんでした。

変数: *drive_id* はボリュームレコードに記録された特定のドライブ識別子です。

ユーザーの対応: なし。カートリッジ回復は、ドライブがそのボリュームに記録されていなかったかのように処理を続行します。

928 N

XDR message translation failure.

説明: 1つのバージョン (1、2、3、または 4 パケット) から別のバージョンにデータの packets を変換している間に、XDR (外部データ表現) トランスレータでエラーが検出されました。

変数: なし。

ユーザーの対応:

1. サーバシステムをリブートして、問題が続くか確認します。
2. 問題が続く場合、障害発生時の CSI トレースと CSI トレース中の完全なイベントログを用意して Oracle Support に連絡します。

935 N

Initiation Started.

説明: CSI の初期化が開始されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

936 N

Creation of connect queue failed.

説明: `cl_qm_init()` または `cl_qm_create()` 共通ライブラリ関数のコールが、内部 SSI アドレス接続キューの作成時に失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応:

1. コマンドプロセッサのウィンドウから、ライブラリサーバーを静止状態にするアイドルリクエストを発行します。
2. `acsss` ユーザーとしてログインし、`kill.acsss` ユーティリティを使用してライブラリサーバーを停止します。
3. `rc.acsss` ユーティリティを使用してライブラリサーバーを再起動します。
4. エラーが再度発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

937 N

Creation of network output queue failed

説明: CSI は、CSI と SSI の間のメッセージに使用するネットワーク出力キューを作成できませんでした。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

938 N

Initiation completed.

説明: 指定したプロセスは開始手順を完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

941 N

Undefined message detected: discarded.

説明: CSI で、不正なメッセージフォーマットまたは CSI の障害により ACSLM またはネットワークインタフェース (NI) から配信できないメッセージが発生しました。メッセージは破棄されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

943 N

Cannot delete Q-id queue_id, Member: member_id.

説明: CSI は内部キューのメッセージを削除できません。

変数:

- *queue_id* は CSI 接続キューの識別子です。
- *member_id* は削除しようとしているキューのメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データを収集します。「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照してください。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

945 N

Invalid communications service.

説明: このエントリは 2 つの使用可能な通信サービスのいずれの環境変数も定義されていないことを示している可能性があります。これらの変数は *CSI_TCP_RPCSERVICE* と *CSI_UDP_RPCSERVICE* で、*acsss_config* を介して定義できます。*acsss_config* の使用については、*ACSLS 管理者ガイド* のライブラリハードウェアの構成の章を参照してください。このメッセージは、SSI から受信したリクエストで、正しくない値が *CSI_HEADER* のプロトコルに依存する部分に指定されていることを示す場合もあります。

変数:

- *CSI_TCP_RPCSERVICE* は TCP 通信サービスの変数です。
- *CSI_UDP_RPCSERVICE* は UDP 通信サービスの変数です。
- *acsss_config* は ACSLS 環境を構成するために使用されるプログラムです。
- *CSI_HEADER* は CSI プロトコルと値を指定する変数です。

ユーザーの対応:

1. 通信サービスが *acsss_config* を使用して定義されていることを確認します。
2. 問題が再度発生する場合は、関連する ACSLS データ（「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照）を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

947 N

Cannot send message message: discarded.

説明: CSI はクライアントと通信できません。CSI は、タイムアウトを伴う適切な回数の再試行の後にメッセージを廃棄します。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ (「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

948 N

Cannot get queue status Errno: error_no Q-id: queue_id, Member: member_id.

説明: CSI はステータス情報を取得できません。

変数:

- *error_no* はシステムエラー番号です。
- *queue_id* は CSI 接続キューの識別子です。
- *member_id* は、CSI がステータス *information* を検索するキューのメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ (「[Oracle Support の診断情報の収集](#)」を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

949 N

Queue cleanup Q-id: queue_id, Member: member_id removed.

説明: CSI が接続キューから古いプロセスのページ処理を開始しました。CSI は *CSI _CONNECT_AGETIME* よりも古いプロセスを定期的に検索し、それらをページします。

変数:

- *queue_id* は CSI 接続キューの識別子です。
- *member_id* は削除しようとしているキューのメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

950 N

Cannot locate queue Q-id: queue_id, Member: member_id

説明: CSI は内部キューの特定のメンバーを検出できません。

変数:

- *queue_id* は CSI 接続キューの識別子です。
- *member_id* は検索しようとするキューのメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: キューのメンバーが接続キューのエイジング時間 (*CSI_CONNECT_AGETIME* 環境変数で定義) より古いために削除されている場合は、必要なアクションはありません。接続キューのエイジング時間が経過する前にこのエラーが発生する場合、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

951 N

Queue creation failure.

説明: CSI は接続キューを作成できません。

変数: なし。

ユーザーの対応:

1. ACSLS を再起動します。
2. このエラーが発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

952 N

Cannot add member to queue Q-id: queue_id

説明: CSI はクライアントのリターンアドレスをキューに配置できませんでした。

変数: *queue_id* は CSI 接続キューの識別子です。

ユーザーの対応: このエラーが発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

953 N

Invalid procedure number.

説明: プログラムは CSI を使用しようとしていますが、2 つの有効なプロシージャ番号のいずれかを使用していません。これは、クライアントアプリケーションのプログラミングエラーです。

変数: なし。

ユーザーの対応: このエラーが発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

954 N

Unsupported module type module_type detected:discarded.

説明: ACSLM は、*TYPE_CSI* または *TYPE_SA* に設定されていない *IPC_HEADER module_type* を含むリクエストを検出しました。ACSLM は、CSI を介したクライアントアプリケーションまたは ACSSA を介したユーザーから受信したリクエストのみを処理します。

変数: *module_type* は無効なエントリです。

ユーザーの対応: このエラーが発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

955 N

RPC TCP client connection failed, rpc_error_msg Errno = error_no Remote Internet address: Internet_add, Port: port_id.

説明: 試行した TCP 接続には接続できません。これは、クライアントシステムのネットワークエラーです。

変数:

- *rpc_error_msg* は RPC サービス自体によって生成された詳細なエラーメッセージです。多くの場合、このメッセージは登録されていないプログラム番号になり、CSI または SSI のいずれかが実行していないことを示します。
- *error_no* はシステムエラー番号です。
- *Internet_add* は応答が送信されるクライアントマシンのアドレスです。
- *port_id* はポート識別子です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

956 N

RPC_UDP client connection failed, rpc_error_msg, Remote Internet address: Internet_add, Port: port.

説明: 試行した UDP 接続には接続できません。

変数:

- *rpc_error_msg* は RPC サービス自体によって生成された詳細なエラーメッセージです。多くの場合、このメッセージは登録されていないプログラム番号になり、CSI または SSI が実行していないことを示します。
- *Internet_add* は、クライアントホストのアドレスで、符号なし長整数型として表現されます。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

957 N

Invalid network protocol.

説明: サポートされていないネットワークプロトコルが渡されました。これは、クライアント SSI のプログラミングエラーです。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

960 N

Cannot reply to RPC message.

説明: *svc_sendreply()* 関数のコールが失敗したため、CSI は RPC メッセージに応答できません。これは、クライアントシステムのネットワークエラーです。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

964 N

Unmapped previously registered RPC service.

説明: CSI が開始されました。CSI に以前に割り当てられた RPC 番号が引き続き存在していることを通知します。CSI はこの番号をマップせず、*svctcp_create()* が開始の一部として新しい番号に再マップします。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

965 N

Create of RPC TCP service failed.

説明: *svctcp_create()* 関数の RPC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

966 N

Can't register RPC TCP service.

説明: *svc_register()* 関数のコールが失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

967 N

Create of RPC UDP service failed.

説明: *svctcp_create()* 関数の RPC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

968 N

Cannot register RPC UDP service.

説明: *svc_register()* 関数のコールが失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

969 N

Termination Started.

説明: CSI の終了が開始されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

970 N

Termination Completed.

説明: CSI の終了が正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

971 N

LH error type = LH_ERR_TRANSPORT_BUSY drive_id

説明: 識別されたドライブはビジー状態です。

変数: *drive_id* はビジー状態のドライブを識別します。

ユーザーの対応: なし。

975 N

Invalid command.

説明: CSI は、認識できないコマンドが *CSI_REQUEST_HEADER* の *MESSAGE_HEADER* 部分に指定された SSI からのリクエストパケットを受信しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

976 N

Invalid location type.

説明: CSI は、認識できないタイプがリクエストの *message_data* 部分に指定された SSI からのリクエストパケットを受信しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

977 N

Invalid type

説明: CSI は、*CSI_REQUEST_HEADER* の *IPC_HEADER* 部分に認識できない *TYPE* が指定された、またはメッセージパケットに認識できない *IDENTIFIER* タイプが指定された NI からのパケットを受信しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

980 N

Cannot read message from ACSLM: discarded.

説明: CSI は ACSLM からメッセージを検出しましたが、そのメッセージを読み取れません。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

981 N

Operating system error error_no.

説明: CSI でオペレーティングシステムエラーが発生しました。このメッセージは、CSI またはライブラリサーバーにではなく、オペレーティングシステム自体に問題があることを示しています。

変数: *error_no* はシステムエラー番号です。Oracle OS ドキュメントを参照してください。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

982 N

Duplicate packet from ACSLM detected:discarded.

説明: CSI は重複した IPC パケットを受信しました。重複したパケットを自動的に削除します。

変数: なし。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1005 N

Insufficient packet size = bytes.

説明: 内部 ACSLS 障害が発生しました。

変数: *bytes* はパケットサイズです。

ユーザーの対応: エラーが繰り返される場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1006 N

line line_number, Unknown packet received, command = command.

説明: ACSLM (ライブラリマネージャプロセス) は別の ACSLS プロセスから予期しない IPC パケットを受信しました。これは通常、リクエストコマンドが完全にクリーンアップされる前に未処理のリクエストプロセス (コマンドに関連付けられた) が ACSLM にパケットを送り返したため、コマンドが取り消された場合に発生します。

変数:

- *line_number* はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。
- *command* は受信した ACSLS コマンドパケットのタイプです。

ユーザーの対応: なし。

1017 N

CAP cap_id: Enter succeeded status.

説明: 挿入操作は正常に終了しました。

変数:

- *cap_id* は CAP の識別子です。
- *status* は挿入コマンドの最終ステータスコードです。

ユーザーの対応: なし。

1021 N

Initiation of CSI Failed

説明: CSI の開始に失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1022 N

*Cannot send message to NI:discarded, failure_msg.Errno = error_no (none)
Remote Internet address: Internet_add Port: port_id.*

説明: NI の通信メカニズムは CSI からのメッセージを受け入れられません。CSI は、タイムアウトを伴う適切な回数の再試行の後にメッセージを廃棄します。

変数:

- *failure_msg* は失敗の原因を識別するメッセージテキストです。
- *error_no* はシステムエラー番号です。
- *Internet_add* は、クライアントホストのアドレスで、符号なし長整数型として表現されます。
- *port_id* はポート識別子です。

ユーザーの対応: 説明および推奨アクションについては、対応する *failure_msg* の説明を参照してください。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1024 N

*Cannot send message to NI:discarded status Errno = error_no Remote
Internet Address: Internet_add Port: port_id.*

説明: ACSLS サーバーはクライアントに応答できず、再試行回数の上限に達しました。応答パケットは破棄されます。

変数:

- *status* は関数の最終ステータスコードです。
- *error_no* は障害に関連付けられたシステムエラー番号です (ACSLS エラーには意味がない場合があります)。
- *Internet_add* は応答が送信されるクライアントマシンのアドレスです。
- *port_id* は応答が送信されるクライアントマシンポートです。

ユーザーの対応: クライアント/サーバー通信とリクエストが影響を受けない場合、アクションは必要ありません。それらの通信/リクエストが悪影響を受ける場合、Oracle では次の手順を実行することをお勧めします。

1. ネットワーク担当者に、ローカルネットワークまたはそのネットワーク上のトラフィックのいずれに問題の原因があるかを判別してもらいます。
2. ローカルネットワークに原因がない場合は、クライアントがサーバーから応答パケットを受け入れない理由を判別するため、クライアントシステムのソフトウェアプロバイダに問い合わせてください。

1025 N

Unexpected signal caught, value: signal.

説明: CSI は予期していないシグナルを受け取りました。

変数: *signal* は CSI が受信したシグナル値です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1026 N

Dropping from Queue: Remote Internet Address: Internet_add Port: port_id ssi_identifier: ssid Protocol: protocol_type Connect type: connection_type

説明: ACSLS サーバーはクライアントに応答できず、再試行回数の上限に達しました。応答パケットは破棄されます。

変数:

- *Internet_add* は応答を送信するクライアントマシンのアドレスです。
- *port_id* は応答が送信されるクライアントマシンポートです。
- *ssid* はクライアント側のネットワークインタフェースに関連付けられた識別子です。
- *protocol_type* は使用するネットワークプロトコルです。
- *connection_type* はネットワーク接続タイプです。

ユーザーの対応: クライアント/サーバー通信とリクエストが影響を受けない場合、アクションは必要ありません。それらの通信/リクエストが悪影響を受ける場合、Oracle では次の手順を実行することをお勧めします。

1. ネットワーク担当者に、ローカルネットワークまたはそのネットワーク上のトラフィックのいずれに問題の原因があるかを判別してもらいます。
2. ローカルネットワークに原因がない場合は、クライアントがサーバーから応答パケットを受け入れない理由を判別するため、クライアントシステムのソフトウェアプロバイダに問い合わせてください。

1052 I

Volume vol_id missing, home cell was cell_id, drive was drive_id, unable to examine.

説明: このテープカートリッジは、ACSL S が想定する場所で見つかりませんでした。ホームセルまたはドライブのいずれかを回復プロセス時に検査できませんでした。ACSL S がカートリッジについて記録されたすべての場所を調べ、それらの場所がないことが判明するまで、ボリュームレコードはデータベース内に残ります。

変数:

- *vol_id* は欠落しているカートリッジのボリューム識別子です。
- *cell_id* はデータベースに記録されたこのカートリッジのストレージセルの場所です。
- *drive_id* は、カートリッジが含まれるテープドライブです (データベースに記録されているとおりにある、またはない)。

ユーザーの対応: 必要なアクションはありません。カートリッジは、ホームセルまたは今のところ検査できないドライブ内に記録されます。ACSL S は、LSM がオンラインになる、またはドライブの準備が整いライブラリとの通信が開始されると、カートリッジを回復しようとします。ACSL S がカートリッジを検出しない場合、ユーザーは ACS の監査を実行して失われたボリュームを探すことができます。

1053 I

Volume vol_id was not found and will be deleted.

説明: このテープカートリッジのボリュームレコードはデータベースから削除されます。

変数: *vol_id* は欠落しているカートリッジのボリューム識別子です。

ユーザーの対応: 必要なアクションはありません。

1054 I

Volume vol_id deleted, home cell was cell_id, drive was drive_id

説明: このテープカートリッジのボリュームレコードはデータベースから削除されます。

変数:

- *vol_id* は欠落しているカートリッジのボリューム識別子です。
- *cell_id* はデータベースに記録されたこのカートリッジのストレージセルの場所です。
- *drive_id* は、このカートリッジが含まれるテープドライブです (データベースに記録されているとおりにある、またはない)。

ユーザーの対応: 必要なアクションはありません。ユーザーは ACS の監査を実行して、失われたボリュームを探すことができます。

1139 W

ACS: *acs_id port: port_id Parity error.*

説明: ACSLS サーバーと LMU 間の通信でパリティエラーが発生しました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *port_id* は ACSLS と LMU 間のポートの識別子です。

ユーザーの対応: なし。このメッセージが頻繁に繰り返し発生する、またはライブラリリクエストの完了に悪影響が出る場合、ACSLs と LMU 間のケーブル接続を確認します。

1141 W

ACS: *acs_id port: port_id Read timed out.*

説明: ACSLS サーバーと LMU 間の通信で読み取りがタイムアウトしました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *port_id* は ACSLS と LMU 間のポートの識別子です。

ユーザーの対応: なし。このメッセージが頻繁に繰り返し発生する、またはライブラリリクエストの完了に悪影響が出る場合、ACSLs と LMU 間のケーブル接続を確認します。

1145 W

ACS: *acs_id No queue entry found.*

説明: このメッセージは、応答を LMU からエラーステータスで受け取ったものの、ACSLs が対応するエントリの作業キューを検索した際に、そのキューが見つからなかったことを示しています。この場合、実際の原因を特定できませんが、LMU と ACSLS の間のデータ伝送エラー、場合によっては LMU からの重複リターンメッセージが原因である可能性があります。

変数: *acs_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: 問題が繰り返される場合は、ハードウェアに問題がないか LMU ログを確認し、必要に応じて LMU トレースを取得して、ハードウェアのサービス担当者が問題を診断する際に活用できるようにします。

1154 I

ACS: acs_id Unexpected acknowledge received from the library; ignored.

説明: ACSLS ライブラリハンドラが予期しない確認応答をライブラリから受け取りました。この余分の確認応答は無視されます。

バックグラウンド: ACSLS がホストライブラリインタフェース (HLI) を使用してライブラリと通信する場合、各伝送に確認応答する必要があります。確認応答が 10 秒で受信されない場合、ACSLs は伝送を再送信します。ACSLs が遅延した確認応答を受け取ると、その確認応答は無視されます。HLI ライブラリには SL8500 と SL3000 が含まれます。

変数: *acs_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。ACSLs とライブラリは、タイムアウト時間内に確認応答が行われなない伝送を自動的に再送信します。

1156 N

Invalid character received, line = line_number.

説明: LMU から受け取ったデータパケットに無効な文字が含まれています。有効な文字は A - Z および 0 - 9 です。

変数: *line_number* はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。

ユーザーの対応: 問題が持続し、システムが回復しない場合は、LMU と ACSLS サーバーの間のケーブル接続を確認します。

1159 W

ACS: acs_id port: port_id Failed to connect, line = line_number

説明: ACSLS サーバーと LMU 間の接続で、通信の確立に失敗しました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *port_id* は ACSLS と LMU 間のポートの識別子です。
- *line_number* はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーと LMU の指定したポート間の物理的な接続およびケーブルを確認します。

1178 W

Rp error: Co_4400:Vwrite: ACS acs_id: No connection created yet, line = line_nbr.

説明: ACSLS にライブラリへのアクティブな接続がないときに、ACSLs リクエストプロセスがライブラリにリクエストを送信しようとしていました。

変数:

- *acs_id* は ACSLS がリクエストを送信しようとしたライブラリ (ACS) を識別します。
- *line_nbr* はメッセージを発行したソースコードの行を識別します。

ユーザーの対応: ライブラリにリクエストを送信する前に、ACSLs とライブラリ間で通信を復元します。

1. ライブラリの準備ができていることを確認します。
2. ポートと ACS の両方の状態は、オンラインである必要があります。オンラインでない場合、それらをオンラインに切り替えます。
3. ACSLS とライブラリ間のネットワーク通信に関するすべての問題を解決します。

1185 N

ACS: acs_id port: port_id Resetting port, line = line_number.

説明: ACSLS サーバーと LMU 間の通信エラーが発生しました。通信を再試行するために、ポートはリセットされます。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *port_id* は ACSLS と LMU 間のポートの識別子です。
- *line_number* はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。

ユーザーの対応: 通信が正常に再確立される場合、何もありません。正常に確立しない場合、ACSLs サーバーと LMU 間の物理的な接続と、ACS 通信ポートの *acs_config* 設定を確認します。

1187 N

Invalid or unknown media type found in transaction.Unpack LMU Message Transaction.

説明: LMU は、現在のライブラリ操作のオブジェクトボリュームに関連付けられた不明または無効なメディアタイプを検出しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連するボリュームの物理ラベル上のメディアタイプ文字を確認します。メディアタイプの文字が文字化けしている、または欠落している場合は、新しいラベルをボリュームに付ける必要があります。このエラーの複数のインスタンスが、ロボット視覚システムの問題を指し示している可能性があります。

1292 N

Volume vol_id: Found in cell/CAP/drive/recovery cell_id/CAP_id/drive_id/cell action.

説明: 間違って配置されたテープがライブラリで見つかった場合に、このメッセージが発行されます。

変数:

- *vol_id* は見つからなかったボリュームの識別子です。
- *cell/CAP/drive/recovery* はボリュームが検出された場所のタイプです。
- *cell_id/CAP_id/drive_id/cell* はボリュームが検出された場所の識別子です。プレイグラウンド領域 (回復) で検出されるボリュームの場合、*cell_id* ではなく *cell* の語句のみが出力されます。
- *action* は、ボリュームレコードが作成された場合は追加され、このボリュームにボリュームレコードがすでにある場合は回復されます。

ユーザーの対応: なし。

1328 N

DBMS error.Return code sql_code and message error_message.DI_STATUS = di_status.

説明: ACSLS データベースで無効なトランザクションまたはシステムエラーが検出されました。

変数:

- *sql_code* は ODBC によって返される SQL エラーコードです。
- *error_message* は *sql_code_code* の説明です。
- *di_status* はデータベースインタフェースによって返されるステータスです。

ユーザーの対応: エラー条件を解決します。サポートが必要な場合は、上記のとおり必要な情報を収集し、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1392 N

LSM lsm_id offline.

説明: LSM がオフラインであるため、テープカートリッジを挿入できません。挿入処理時にこのメッセージがログに記録された場合、このメッセージは、CAP が挿入に使用されていたときに、LSM が force オプションでオフラインに変更されたことを意味します。

変数: *lsm_id* は LSM の識別子です。

ユーザーの対応: LSM をオンラインに変更し、挿入リクエストを再発行をします。

1406 N

Transport failure drive_id.

説明: 指定されたトランスポートでハードウェア障害が発生しました。

変数: *drive_id* は失敗したトランスポートです。

ユーザーの対応: Oracle Support に連絡します。

1418 N

Server system idle.

説明: ACSLM はオペレータによってアイドル状態にされたため、ライブラリリソースを使用するリクエストには使用できません。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1419 N

Server system running.

説明: ACSLM は実行状態にされています。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1420 N

CAP cap_id: Cartridges detected in CAP.

説明: オンラインの変更操作中、あるいはライブラリサーバーの起動または回復中に、カートリッジが CAP で検出されました。

変数: *cap_id* は CAP の識別子です。

ユーザーの対応: 挿入リクエストを発行し、指定された CAP のロックを解除します。その後、CAP からカートリッジを取り出します。

1421 N

Drive drive_id: Clean drive.

説明: 指定されたドライブはクリーンアップする必要があります。

変数: *drive_id* はライブラリドライブの識別子です。

ユーザーの対応: 自動クリーニングが FALSE の場合は、指定したドライブにクリーニングカートリッジをマウントします。自動クリーニングが TRUE の場合、このメッセージは情報のみを示します。ドライブの次のマウントの前に、ドライブは自動的にクリーンアップされます。

1422 N

Library configuration error.

説明: データベースで指定されたライブラリ構成は、LMU で定義されている構成と同じではありません。または、コンポーネントはデータベースに表示されますが、LMU コマンドへの応答に失敗します。このエラーによって、ライブラリサーバーは終了します。

変数: なし。

ユーザーの対応: *acsss_config* を再実行します。次に監査を実行します。*acsss_config* および監査の実行については、*ACSLS 管理者ガイド*のライブラリハードウェアの構成の章を参照してください。

1423 N

Database failure.

説明: ACSLS プロセスはデータベースにアクセスできません。失敗の原因を示すデータベースエラーコードはイベントログにも書き込まれます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1427 N

Event log is full.

説明: イベントログがライブラリサーバーのインストール時に定義された最大サイズに達しました。メッセージはイベントログに追加され続けますが、ログのサイズが減らされるまで、このメッセージは 1 分間隔でログに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: アーカイブのために現在のイベントログのコピーを保持する場合は、別のディレクトリへ移動します。イベントログ出力が次のメッセージをログに記録する際に、新しいファイルが自動的に作成されます。イベントログの管理については、*ACSL S 管理者ガイド*のレポート作成およびロギングの章を参照してください。

1428 N

Server system idle is pending.

説明: ACSLM はアイドル保留状態のため、ライブラリリソースを使用したリクエストには使用できません。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1429 N

CAP cap_id: Place cartridges in CAP.

説明: 指定された CAP は、挿入操作の一部としてカートリッジを受け取る準備ができています。CAP ドアが開くまで、このメッセージは約 2 分間隔で繰り返されます。

変数: *cap_id* は CAP の識別子です。

ユーザーの対応: 指定した CAP のドアを開いてカートリッジを CAP に置きます。

1430 N

IPC failure on socket socket_id.

説明: ACSLM または ACSSA は別のライブラリサーバーのソフトウェアコンポーネントと通信できません。

変数: *socket_id* は障害が発生したソケットの識別子です。

ユーザーの対応: *idle force* コマンドを発行しなかったために問題が繰り返し発生する場合は、ライブラリサーバーのソフトウェアを停止してから再起動します。次の手順を使用します。

1. *cmd_proc* ウィンドウからアイドルリクエストを発行し、ライブラリサーバーを静止状態にします。
2. *acsss* ユーザーとしてログインし、*kill.acsss* ユーティリティを使用してライブラリサーバーを停止します。

3. `rc.acsss` ユーティリティを使用してライブラリサーバーを再起動します。
4. 問題が持続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

1431 N

component component_id: Library error, error_type.

説明: ライブラリハードウェアのエラーが ACSLS に報告されました。

変数:

- `component` はライブラリのコンポーネント (たとえば、ポートまたはドライブ) です。
- `component_id` はライブラリコンポーネントの識別子です。
- `error_type` は ACSLS サーバーがライブラリから受信したエラーのタイプ、または ACSLS がライブラリと通信を試みた際に発生したエラーのタイプです

ユーザーの対応: このメッセージやイベントログのその他のメッセージからエラーの原因が判明しない場合は、Oracle Support にエラーを報告します。Oracle Support では、ライブラリおよび関連するハードウェアコンポーネントを確認し、ライブラリの失敗の原因を判断する必要があります。

1432 N

Server System network interface timeout.

説明: クライアントの応答が不足しているため、ネットワークデータの処理中にタイムアウトが発生しました。それより前に挿入したリクエストなどのデータやシステム応答が失われた可能性があります。

ユーザーの対応:

1. サーバーとクライアントの両方のシステムでネットワーク接続を確認します。失われたデータがない場合、エラーはネットワークアクティビティや一時的な負荷に原因がある可能性があります。
2. エラーが続く場合は、ネットワーク操作を確認します。

1433 N

component component_id: Offline.

説明: 指定されたコンポーネントはオフラインに変更されました。

変数:

- *component* はライブラリコンポーネント (たとえば、ACS) です。
- *component_id* はライブラリコンポーネントの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

1434 N

component component_Id: Online.

説明: 指定されたコンポーネントはオンラインに変更されました。

変数:

- *component* はライブラリコンポーネント (たとえば、ACS) です。
- *component_id* はライブラリコンポーネントの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

1435 N

Software process failure.

説明: ライブラリリクエストプロセスが失敗しました。これは、リクエスト処理でのエラー、または予期しないプロセスの終了が原因である可能性があります。*idle force* コマンドを発行しただけの場合は、このエラーを無視できます。

変数: なし。

ユーザーの対応: コマンドを再実行し、同じエラーが発生するかどうか確認します。エラーが発生する場合は、次の手順に従って、ACSL を停止し、再起動します。

1. コマンドプロセッサのウィンドウから、ライブラリサーバーを静止状態にする *idle* リクエストを発行します。
2. *acsss* ユーザーとしてログインし、*kill.acsss* ユーティリティを使用してライブラリサーバーを停止します。
3. *rc.acsss* ユーティリティを使用してライブラリサーバーを再起動します。
4. 監査を実行し、データベースをライブラリの物理コンテンツと一致させることをお勧めします。

1436 N

Server system recovery complete.

説明: ライブラリサーバーの回復は正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1437 N

Server system recovery failed.

説明: ライブラリサーバーの回復が失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: この失敗に関する追加の情報がないか前のイベントログエントリを調べます。関連するエラーメッセージの推奨されるアクションに従います。

1438 N

LSM lsm_id: In-transit cartridge recovery incomplete

説明: ライブラリサーバーの回復中に、指定された LSM で移動中のカートリッジをすべて回復することに失敗しました。

変数: *lsm_id* は移動中のカートリッジが含まれる LSM の識別子です。

ユーザーの対応:

1. LSM を照会し、LSM に空のセルがあることを確認します。
2. LSM に空のセルがない場合、カートリッジを取り出し、セル領域を解放します。カートリッジの取り出しについては、*ACSLS 管理者ガイド*の「カートリッジ管理」の章を参照してください。
3. 指定された LSM の CAP が空であることを確認します。
4. LSM をオフラインにしてからオンラインに戻し、移動中のカートリッジ回復を試行します。
5. この処理で改善されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1439 N

Server system recovery started.

説明: ライブラリサーバーの回復が開始されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1440 N

CAP cap_id: Remove cartridges from CAP.

説明: 指定された CAP にカートリッジが含まれていて、それらを取り外す操作の準備が整いました。CAP ドアが開くまで、このメッセージは約 2 分間隔で繰り返されます。

変数: *cap_id* は CAP の識別子です。

ユーザーの対応: 指定された CAP ドアを開き、カートリッジを取り外します。

1441 N

Server system network interface failure.

説明: CSI で Remote Procedure Call (RPC) エラーが発生しました。それより前に挿入したリクエストなどのデータやシステム応答が失われた可能性があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: この失敗に関する追加の情報がないか前のイベントログエントリを調べます。関連するエラーメッセージの推奨されるアクションに従います。

1442 N

Pool pool_id: high water mark warning.

説明: 指定したスクラッチプール内のボリュームの数がハイウォーターマーク以上になりました。

変数: *pool_id* はプール識別子です。

ユーザーの対応: なし。カートリッジがプールから使用された、またはハイウォーターマークのしきい値がリセットされた場合を除き、ボリュームが指定されたスクラッチプールに追加されるたびにこのメッセージが繰り返し表示されます。スクラッチプールの管理については、*ACSLS 管理者ガイド*の「カートリッジ管理」の章を参照してください。

1443 N

Pool pool_id: low water mark warning.

説明: 指定したスクラッチプール内のボリュームの数がローウォーターマーク以下になりました。

変数: *pool_id* はプール識別子です。

ユーザーの対応: スクラッチボリュームが不足する問題が生じないかぎり、スクラッチボリュームの追加に関する自社の手順に従ってください。スクラッチプールの管理については、*ACSLS 管理者ガイド*の「カートリッジ管理」の章を参照してください。

1444 N

CAP cap_id: No CAP available, waiting.

説明: 監査処理は完了しましたが、CAP はカートリッジの取り出しに使用できません。

変数: *cap_id* は使用できる CAP を持たない ACS を示します。

ユーザーの対応: なし。CAP が使用可能な場合、カートリッジを取り出します。

1445 N

Drive drive_id: Cleaned.

説明: 指定されたドライブがクリーンアップされました。

変数: *drive_id* はライブラリドライブの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

1446 N

CAP cap_id: CAP opened.

説明: CAP が開かれています。

変数: *cap_id* は開かれた CAP の識別子です。

ユーザーの対応: なし。

1447 N

CAP cap_id: CAP is uninstalled, inoperative or it is offline.

説明: CAP がアンインストールされたか、作動不能か、またはオフラインです。

変数: *cap_id* はドアが開かれた CAP の識別子です。

ユーザーの対応: CAP がオフラインの場合、オンラインにします。CAP がアンインストールされたか、作動不能な場合は、その他の使用可能な CAP を使用します。

1448 N

filesystem: Disk usage of current% pct exceeds limit of limit% pct.

説明: 指定されたファイルシステムで使用可能なディスク容量がもう少しくなくなり、このメッセージは通常、イベントログが定期的にはリセットされていないためにディスク容量を使い切ってしまったか、データベースのバックアップが定期的に行われなかったためにデータベースジャーナルファイルがディスク容量を使い切ってしまったことを示します。

変数:

- *filesystem* は容量がもう少しでなくなるディスクサブシステムの名前です。
- *current* はファイルシステムで使用されているディスク容量の現在の割合です。
- *limit* はこのメッセージが定期的に発行されるディスクのしきい値です。

ユーザーの対応:

1. イベントログのサイズおよびロールオーバーファイルの管理については、*ACSL S 管理者ガイド*の付録 B:トラブルシューティングにある ACSLS イベントログを参照してください。
2. データベースのバックアップおよびデータベース REDO ログファイルの管理については、*ACSL S 管理者ガイド*のデータベースのバックアップおよび復元の章を参照してください。

1450 N

Volume identifier vol_id deleted.

説明: 指定されたボリューム識別子は ACSLS データベースから削除されました。これは通常、ボリュームがライブラリから取り出されたときに発生します。また指定されたボリュームがあるべき場所に見つからない場合 (たとえば、ライブラリから手動で削除されたため) にも発生する可能性があります。

変数: *vol_id* は削除されたボリュームのボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。ただし、エラーでボリュームが削除されたと思われる場合は Oracle Support にエラーを報告してください。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。

1453 N

CAP cap_id: Enter operation status.

説明: このメッセージは、進行中であるか完了した挿入操作のステータスを示します。

変数:

- *cap_id* は CAP の識別子です。
- *status* は挿入操作およびメッセージに示された CAP の現在のステータスです。

ユーザーの対応: なし。

1458 N

Server system terminated.

説明: このメッセージは ACSLS サーバーが停止中であり、これ以上リクエストまたはコマンドを受け入れないことを示しています。

変数: なし。

ユーザーの対応: サーバーの停止が完了するのを待ってから、ACSLS サーバーを再起動します。

1459 N

lib_cmpnt cmpnt_id configuration changed.

説明: *cmpnt_id* (LSM 0, 0 など) によって識別されるライブラリコンポーネントの構成が変更されました。

変数:

- *lib_cmpnt* はライブラリコンポーネントのタイプ (LSM, ACS, または CAP) です。
- *cmpnt_id* はライブラリコンポーネントの識別子 (0,0 (*lsm_id*) など) です。

ユーザーの対応: なし。

1460 N

lib_cmpnt cmpnt_id port configuration changed.

説明: *acs_id* によって識別される ACS のポート接続が変更されました。

変数:

- *lib_cmpnt* は ACS などのライブラリコンポーネントです。
- *cmpnt_id* は ACS を識別します。これは *acs_id* (0 など) です。

ユーザーの対応: なし。

1463 N

Unknown media type detected. Not Entered. Validate volumes placed in CAP.

説明: CAP 内に見つかったボリュームのメディアタイプが ACSLS に認識されず、そのボリュームはライブラリに挿入されません。

変数: なし。

ユーザーの対応: CAP からカートリッジを取り外し、ラベルのメディアタイプ文字を確認します。ラベルが読み取り可能であり、ライブラリに接続された有効なテープデバイスに関連付け

られていることを確認します。このエラーの複数のインスタンスが、ロボット視覚システムの問題を指し示している可能性があります。

1571 I

Backing up ACSLS control files.

説明: ACSLS 制御ファイルのバックアップが開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1572 E

Error backing up ACSLS control files control_file.

説明: ACSLS 制御ファイル *control_file* のバックアップ中にエラーが発生しました。

変数: *control_file* は *\$ACS_HOME/data* または *\$ACS_HOME/data/external* のファイルです。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因の手掛かりとなる関連するエラーメッセージを監視します。

1573 I

ACSLs control files control_files successfully backed up to device.

説明: バックアップデバイスへの ACSLS 制御ファイルのバックアップが成功しました。

変数: *control_files* はテープデバイスのデバイス *\$ACS_HOME/data* または *\$ACS_HOME/data/external* のファイル、またはユーザーがバックアップを取ろうとしているファイルです。

ユーザーの対応: なし。

1575 I

Restoring ACSLS control files.

説明: ACSLS 制御ファイルの復元が開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1577 I

ACSLs control files control_files have been restored.

説明: ACSLS 制御ファイルの復元が正常に完了しました。

変数: *control_files* は *\$ACS_HOME/data* または *\$ACS_HOME/data/external* のファイルです。

ユーザーの対応: なし。

1578 E

Cannot extract ACSLS control files from restore_file.

説明: *restore_file* からの ACSLS 制御ファイルの抽出中にエラーが発生しました。

変数: *restore_file* は ACSLS の復元に使用されるファイルです。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因の手掛かりとなる関連するエラーメッセージを監視します。

1580 E

Cannot rename source_file to destination_file.

説明: *source_file* の *destination_file* への移動中にエラーが発生しました。

変数:

- *source_file* は移動するファイルです。
- *destination_file* はターゲットの場所です。

ユーザーの対応: 操作を実行するユーザーに必要な権限があるかどうかを確認します。

1597 E

Exiting Library configuration program because ACSLS services are currently running. To modify the library configuration, first 'idle' the library server and then run the command, 'acsss disable'.

説明: *acsss_config* ルーチンは、ACSLs が実行中であることを検出しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: *acsss_config* を実行する前に ACSLS サービスを停止する必要があります。停止するには、*acsss disable* を実行します。

1616 W

ACSL control files export failed.Database export was successful though.

説明: ACSLS 制御ファイルのエクスポート中にエラーが発生しました。ただし、ACSLS データベースのエクスポートは正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因に関する手掛かりとなる関連するイベントログメッセージを監視します。

1617 W

An export file of the ACSLS control files matching the exported database table data in import_file is not found.If ACSLS has been newly installed (or re-installed), this import will not be able to restore any previous product customization, such as access control or scratch preferences.

説明: ACSLS 5.2 プレリリースからエクスポートを実行した場合、ACSLS 制御ファイルは *import_file* の一部ではなくなります。

ユーザーの対応: なし。

1619 W

ACSL control files import failed.Database import was successful though.

説明: ACSLS 制御ファイルのインポート中にエラーが発生しました。ただし、ACSLS データベースのインポートは正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: この状況の考えられる原因に関する手掛かりとなる関連するイベントログメッセージを監視します。

1626 I

Please place the ACSLS export cartridge in the tape drive.

説明: テープデバイスを使用する操作が開始されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: エクスポートされた ACSLS データベースファイルを含む適切なテープをテープドライブに配置します。

1627 W

Check Tape Device tape_device: Problems with the ACSLS export tape.

説明: テープデバイスを使用する操作が開始されました。

変数: *tape_device* は ACSLS データのエクスポートに使用するテープデバイスです。

ユーザーの対応: テープドライブで確認される問題を修正します。

1651 I

Beginning database export phase.

説明: ACSLS データベースのエクスポートが開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1656 W

ACSLs must not be running to facilitate database imports and exports .Execute the ACSLS server shutdown script (kill.acsss).

説明: ACSLS の実行中にデータベースを停止しようとする時、このエラーがログに記録されます。アプリケーションがそのデータベースとかなりの頻度で通信するため、この操作は許可されません。データベースを停止する前に、ACSLs アプリケーションを停止する必要があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: コマンド *idle* および *kill.acsss* を実行して ACSLS を停止します。*db_command stop* を使用してデータベースサーバーを停止します。

1657 I

Beginning database import phase.

説明: ACSLS データベースのエクスポートが開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1662 W

ACSSS services must not be running while managing database imports and exports.Bring down non-database services with acsss disable.

説明: インポートまたはエクスポートユーティリティーは ACSLS サービスが実行されていることを検出しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS データベースをインポートまたはエクスポートするには、最初に ACSLS サービスを停止する必要があります。停止するには、`acsss disable` を使用します。

1663 I

Extracting ACSLS control files.

説明: ACSLS 制御ファイルの抽出が開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1698 E

Unable to start ACSLS database.

説明: ACSLS データベースの起動中にエラーが発生しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS データベースのログファイルを確認します。サポートが必要な場合は、上記のとおり必要な情報を収集し、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1726 I

ACSLS database recovery started.

説明: このメッセージは ACSLS データベースの回復が開始されるときにログに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1727 I

ACSLS recovery successfully completed.

説明: ACSLS の復元が正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1732 I

ACSLS database recovery successfully completed.Database has been restored to the point of the last backup plus any subsequent transactions recorded on the current disk.

説明: このメッセージは、実行した回復が完了したことを示します。メッセージの 2 つ目の部分は、次の状況でなければ、すべてのトランザクションが回復されたことを意味します。

- プライマリディスクのみで 2 つ目のディスクがない。
- プライマリディスクが破損し、回復を実行した。
- これらの状況では、回復を実行したあとにすべてのトランザクションファイルが回復されていない可能性があります。復元が必要とされた問題と同じ問題で *redo* ログが破損したため、そのログが適用されなかった可能性があります。
- 2 番目のディスクがある、またはプライマリディスクしかないもののクラッシュしていない場合は、すべてのトランザクションが復元された可能性があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

1765 E

The backup media (in device) does not appear to have been generated by ACSLS database export.Please check and retry the operation with a valid tape or file.

説明: 間違った入力ファイルまたは *tape_device* が指定されたため、ACSLS データベースのインポートは失敗しました。

変数: *device* はユーザーがインポートしようとしたテープデバイスまたはファイルです。

ユーザーの対応: 正しいファイルまたは *tape_device* を使用します。

1775 E

Failed to add necessary CRON entry for PostGres log management.

説明: PostgreSQL ログ管理の *cron* エントリの追加中にエラーが発生しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: *cron* エントリを追加するために必要な権限がユーザーにあるかどうかを確認します。

1820 E

Unable to kill scsilh.im, PID PID.

説明: 製品を起動したときに、*scsilh* プロセス (*scsilh.im*) が実行されていました。製品を起動する前に、*scsilh.im* プロセスを終了する必要があります。

変数: *PID* は実行中の *scsilh.im* イメージのプロセス ID です。

ユーザーの対応:

1. *acsss* として *stopSCSILH.sh* を実行し、*scsilh.im* を終了します。
2. *acsss* として実行したときに *stopSCSILH.sh* が機能しない場合、*root* として *stopSCSILH.sh* を実行します。
3. *root* として実行した場合に *stopSCSILH.sh* が失敗する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1822 E

Killing SCSILH process PID with SIGTERM failed on error_desc, errno= error_no.

説明: 製品を起動または停止したときに *scsilh.im* が実行されていました。製品を起動する前に、*scsilh.im* プロセスを終了する必要があります。

変数:

- *process* はエラーが検出されたプロセスです。
- *PID* は終了するプロセスのプロセス ID です。
- *error_desc* は *kill* によって返される *error_no* に関連付けられた Unix エラーの説明です。
- *error_no* は Unix システムのエラー番号の値です。

ユーザーの対応:

1. *acsss* として *stopSCSILH.sh* を実行し、*scsilh.im* を終了します。
2. *acsss* として実行したときに *stopSCSILH.sh* が機能しない場合、*root* として *stopSCSILH.sh* を実行します。
3. *root* として実行した場合に *stopSCSILH.sh* が失敗する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1824 E

Invalid driver_state state for Connect/Vary request ACS ACS_id port_name.

説明: このエラーメッセージは ACSLS ソフトウェアエラーを示します。

変数:

- *state* はドライバの状態で STATE_<NAME_OF_STATE> という形式になります。
- *acs_id* は、リクエストを受信した ACS の識別子です。
- *port_name* は接続/変更リクエストでのポートの名前です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1826 E

Cleanup of SCSILH failed, rerun stopSCSILH.sh manually, errno error_desc

説明: 製品を起動または停止したときに *scsilh* プロセスが実行されていました。製品を起動する前に、この *scsilh* プロセスを終了する必要があります。

変数: *error_desc* は、UNIX、システムコール、システムによって返される *errno* に関連付けられた Unix エラーの説明です。

ユーザーの対応:

1. *acsss* として *stopSCSILH.sh* を実行し、*scsilh* を終了します。
2. *acsss* として実行したときに *stopSCSILH.sh* が機能しない場合、*root* として *stopSCSILH.sh* を実行します。
3. *root* として実行したときに *stopSCSILH.sh* が失敗する場合、Oracle Support に連絡します。

1827 E

Cleanup of SCSILH failed, rerun stopSCSILH.sh manually, return code return_code.

説明: 製品を起動または停止したときに *scsilh* プロセスが実行されていました。製品を起動する前に、この *scsilh* プロセスを終了する必要があります。

変数: *return_code* は ACSLS シェルスクリプト *stopSCSILH.sh* からのリターンコードです。

ユーザーの対応:

1. `acs`として `stopSCSILH.sh` を実行し、`scsilh` を終了します。
2. `acs`として実行したときに `stopSCSILH.sh` が機能しない場合、`root`として `stopSCSILH.sh` を実行します。
3. `root`として実行したときに `stopSCSILH.sh` が失敗する場合、関連データを収集して Oracle Support に連絡します。

1828 E

`ACS acs_id: fork of SCSILH failed errno (error_no) error_desc`

説明: UNIX システムコールフォークでエラーが発生しました。

変数:

- `acs_id` は ACS 識別子です。
- `error_no` は UNIX フォークシステムコールによって返される UNIX システムのエラー番号の値です。
- `error_desc` は、UNIX、システムコール、フォークによって返されるエラー番号に関連付けられた UNIX エラーの説明です。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動しても問題が続く場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1829 E

`exec1 (program) failed, errno=error_desc`

説明: UNIX システムコール `exec1` はプログラムの実行に失敗しました。

変数:

- `program` は `exec1` が実行を試行したプログラムです。
- `error_desc` は UNIX `exec1` システムコールによって返される `errno` に関連付けられた UNIX エラーの説明です。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動しても問題が続く場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1830 E

SCSILH did not start, acslh exiting.

説明: このメッセージは ACSLS、SCSILH、または UNIX システムのいずれかで発生した致命的エラーを示します。製品はこのメッセージの一部として停止します。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動しても問題が続く場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1831 E

return code (return_code) terminated scsilh.im.

説明: SCSILH はシグナルを出さずに終了しました。このメッセージが ACSLS の停止中に発生した場合は、情報のみを示します。それ以外の場合は、次の必要なアクションを参照してください。

変数: *return_code* は SCSILH によって返されるコードです。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動します。3 回試行しても ACSLS が再起動しない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。リターンコードを使用できるようにしてください。

1880 E

Drive drive_id: Unable to position on the drive, status: loaded.

説明: ドライブがロードされました。ロボットはドライブをターゲットにできませんでした。

変数: *drive_id* はドライブの識別子です。

ユーザーの対応: ドライブが問題を報告します。これは、ドライブまたはロボットに原因がある可能性があります。次を実行します。

1. スタックテープのドライブを確認します。
2. ドライブに問題がない場合は、詳細について LMU および LSM のエラーログを確認します。

1907 E

Unable to create filename file.

説明: ACSLS ユーティリティーは必要なファイルを作成できませんでした。

変数: *filename* は作成するファイルの名前です。

ユーザーの対応: `/tmp` ディレクトリにすべてのユーザーの書き込み権限があることを確認し、バックアップを再実行します。

1908 E

Unable to read files from backup device, dev.

説明: `rdb.acsss` ユーティリティーは指定されたバックアップデバイスからバックアップファイルを読み取れません。

変数: `dev` は指定したバックアップデバイスです。

ユーザーの対応: `bdb.acsss` ユーティリティーによって作成された有効なバックアップファイルとともに有効なデバイスを指定して、復元操作を再実行します。

1909 E

The backup device dev is not a good bdb backup from ACSLS release.Please try again specifying a valid bdb backup

説明: `rdb.acsss` ユーティリティーは、指定されたバックアップファイルが有効であることを確認できません。

変数:

- `dev` は指定したバックアップデバイスです。
- `release` は実行中の ACSLS リリースです。

ユーザーの対応: 実行している同じバージョンの ACSLS (release) から `bdb.acsss` ユーティリティーによって作成されたバックアップでデータベースを復元する必要があります。`bdb.acsss` ユーティリティーのリリースバージョンによって作成された有効なバックアップファイルとともに有効なデバイスを指定して、復元操作を再実行します。

1918 N

Too many processes.With the current settings specified through acsss_config, ACSLS requires no_req_pro processes to be running simultaneously.Currently, your system limit allows only sys_limit_no_pro_user processes per user.Either lower the number of mount processes, persistent query processes or transient processes, or else raise this system limit.

説明: メッセージに記載のとおりです。

変数:

- `no_req_pro` は必要なプロセスの数です。

- `sys_limit_no_pro_user` はユーザーごとのプロセス数に関するシステム制限です。

ユーザーの対応: 次の 1 つ以上を実行します。

- `acsss_config` を使用して持続照会プロセスの数を少なくします。
- `acsss_config` を使用してマウントプロセスの数を少なくします。
- `acsss_config` を使用して一時プロセスの最大数を少なくします。
- ユーザーごとの許容可能なプロセスの最大数を増やします。(これはシステムに依存します。)

1951 W

<this_mem> is insufficient memory. <recommended_mem> is recommended.

説明: 十分なメモリー領域があるかのチェックは ACCLS のインストール時に実行されます。サーバーに十分なメモリーが不足している場合、このメッセージには実際の (インストール済み) 値と物理メモリーの推奨値が表示されます。

変数:

- `this_mem` はインストールされている実際の物理メモリーです。
- `recommended_mem` は ACCLS のこのバージョンに対して推奨されるメモリーの量です。

ユーザーの対応: 動作が遅くなることや ACCLS に関するその他の操作上の問題を回避するには、物理メモリーの推奨される最小量を使用してマシンを装備してください。

1952 W

<current_swap> is insufficient swap. <min_swap> is recommended.

説明: 十分なスワップ領域があるかのチェックは ACCLS のインストール時に実行されます。サーバーに十分なスワップが不足している場合、このメッセージには現在構成されている値とスワップ領域の推奨値が表示されます。

変数:

- `current_swap` は現在構成されているスワップ領域の量です。
- `min_swap` は ACCLS のこのバージョンに対して推奨されるスワップ領域の量です。

ユーザーの対応: 動作が遅くなることや ACCLS に関するさまざまな操作上の問題を回避するには、スワップ領域の推奨される量を使用してシステムを構成する必要があります。

1970 W

Rptimeout value for keyword is not numeric.

説明: `$ACS_HOME/data/internal/Rptimeout` ファイルの `keyword` の値で、すべてが数値データではありませんでした。このメッセージには、メッセージ 1974 が続きます。

変数: `keyword` は対応するタイムアウト値を持つ操作を表します。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1971 W

Rptimeout value for keyword is not in range

説明: `$ACS_HOME/data/internal/Rptimeout` ファイルの `keyword` の値が 1 秒から 24 時間の範囲ではありませんでした。このメッセージには、メッセージ 1974 が続きます。`keyword` のデフォルト値が使用されます。

変数: `keyword` は対応するタイムアウト値を持つ操作を表します。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1972 W

Unable to find keyword in Rptimeout file.

説明: ACSLS はファイル内に `keyword` を見つけられませんでした。このメッセージには、`keyword` を指定するメッセージ 1974 が続きます。

変数: `keyword` は対応するタイムアウト値を持つ操作を表します。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1973 W

Unable to open Rptimeout file.

説明: ACSLS は `$ACS_HOME/data/internal/Rptimeout` を開こうとしましたが、開けませんでした。デフォルト値が使用されます。このメッセージには、`keyword` を指定するメッセージ 1974 が続きます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

1974 W

Using default timeout value for keyword.

説明: このメッセージは、メッセージ 1970、1971、1972、または 1973 の後に続き、デフォルトのタイムアウト値が LH リクエストタイプ *keyword* に使用されたことを通知します。

変数: *keyword* は対応するタイムアウト値を持つ操作を表します。

ユーザーの対応: なし。アクションはこのメッセージの前に表示されるメッセージに適用されます。

2000 E

Failed to get queue member.

説明: 削除用のメッセージキューからメッセージを取得できませんでした。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2001 E

Do not have read permission.

説明: CSI に *csi_ip_switch.dat* ファイルの読み取り権限がありません。

変数: なし。

ユーザーの対応: *chmod* を使用して、ユーザーの読み取りおよび書き込みアクセスについて *csc_ip_switch.dat* ファイルに権限を設定します。

2002 E

Cannot open file errno=error_no.

説明: タイプ *errno* の失敗は、*csi_ip_switch.dat* ファイルを開こうとしたときに発生しました。

変数: *error_no* はこのファイルのオープンに関連付けられたシステムエラー番号です。

ユーザーの対応: ファイル *csc_ip_switch.dat* が存在していること、また適切な場所 (*\$ACSL_HOME/data/internal/client_config/*) に配置されていることを確認します。これらの両方の条件を満たしていて、問題が続く場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集して、Oracle Support に連絡します。デュアル

LAN クライアント構成の管理についての詳細は、ACSLs 管理者ガイドのライブラリ管理の章にあるデュアル LAN クライアント構成の管理を参照してください。

2003 E

Invalid entry displayed_line - line ignored.

説明: 表示されている行は無効なエントリで、行は無視されます。

変数: *displayed_line* は修正する必要がある無効な行です。

ユーザーの対応: 表示されている行を修正して、ACSLs を再起動します。

2004 E

Duplicate addresses displayed_line - line ignored.

説明: *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入された重複するプライマリおよびセカンダリのアドレス。

変数: *displayed_line* は修正する必要がある無効な行です。

ユーザーの対応: 表示されている行を修正して、ACSLs を再起動します。

2005 E

Max number of (max_no_allowed) dual clients exceeded.

説明: 許容可能な最大数より多くのデュアルクライアントが *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入されました。最大数のデュアルクライアントのみが許可されます。

変数: *max_no_allowed* は *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入できる許容可能なデュアルクライアントの最大数です。

ユーザーの対応: *csc_ip_switch.dat* ファイルで許容可能なデュアルクライアントの最大数を超えないようにします。より多くのクライアントが必要な場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2006 E

Bad primary addr - bad conversion: displayed_addr.

説明: *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入したプライマリアドレスは IP アドレスの形式ではありません。

変数: *displayed_addr* は誤って表示されたプライマリアドレスです。

ユーザーの対応: *csc_ip_switch.dat* ファイルに表示されているアドレスを修正し、ACSL S を再起動します。

2007 E

Bad primary addr - not digital: displayed_addr.

説明: *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入したプライマリアドレスは IP アドレスの形式ではありません。

変数: *displayed_addr* は誤って表示されたプライマリアドレスです。

ユーザーの対応: *csc_ip_switch.dat* ファイルに表示されているアドレスを修正し、ACSL S を再起動します。

2008 E

Bad secondary addr - bad conversion: displayed_addr.

説明: *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入したセカンダリアドレスは IP アドレスの形式ではありません。

変数: *displayed_addr* は誤って表示されたセカンダリアドレスです。

ユーザーの対応: *csc_ip_switch.dat* ファイルに表示されているアドレスを修正し、ACSL S を再起動します。

2009 E

Bad secondary addr - not digital: displayed_addr.

説明: *csc_ip_switch.dat* ファイルに挿入したセカンダリアドレスは IP アドレスの形式ではありません。アドレスが数値ではありません。

変数: *displayed_addr* は誤って表示されたセカンダリアドレスです。

ユーザーの対応: *csc_ip_switch.dat* ファイルに表示されているアドレスを修正し、ACSL S を再起動します。

2010 I

path opened - DUAL PATH OPTION ACTIVATED.

説明: ファイル (*csc_ip_switch.dat*) を開き、読み取りに成功しました。デュアルパス機能がアクティブになりました。

変数: *path* は、*csc_ip_switch.dat* ファイルへのフルパスです。

ユーザーの対応: なし。

2011 E

path opened - Dual Option Process Failure.

説明: プライマリアドレスのパケットをキューから出そうとしたときに、メジャープロセス障害が発生しました。

変数: *path* は、*csc_ip_switch.dat* ファイルへのフルパスです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2012 N

LMU error: ACS: acs_id Invalid value found in transmission, value = character.

説明: ACSLS (ライブラリハンドラプロセス) が LMU から受け取った伝送内で無効な文字を検出しました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *character* は伝送内で検出された無効な文字です。

ユーザーの対応: リクエストが失敗した場合は、リクエストを再発行します。

2014 N

LMU error: ACS: acs_id Invalid lmu_mode lmu_mode.

説明: ACSLS (ライブラリハンドラプロセス) が LMU から受信した応答パケットの *lmu_mode* に、認識できない LMU コードが指定されています。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *lmu_mode* は、応答を受信した LMU モードです。このモードは、*active*、*standby*、*standalone* のいずれかです。

ユーザーの対応: なし。

2018 N

LMU error: ACS: acs_id Invalid compatibility level compat_level line = line_number.

説明: 無効な LMU 互換レベルが検出されました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *compat_level* は検出された無効な互換レベルです。
- *line_number* はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。

ユーザーの対応: なし。

2027 N

ACS: acs_id Library Recovery Complete.

説明: ACSLH (ライブラリハンドラプロセス) が LMU の切り替えまたはライブラリの IPL に起因するライブラリリクエストの処理を完了したか、ライブラリとの失われた通信を再確立するときのライブラリリクエストの処理を完了しました。

変数: *acs_id* は ACS を識別します。

ユーザーの対応: なし。このメッセージは情報のみを示します。

2028 N

ACS: acs_id New Active LMU.

説明: ACSLS (ライブラリハンドラプロセス) は新しいアクティブ LMU の存在を示す要求外メッセージを LMU から受信しました。

変数: *acs_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2029 N

LMU error: ACS: acs_id Invalid lmu_name lmu_name.

説明: ACSLS (ライブラリハンドラプロセス) が LMU から受信したパケットの *lmu_name* の部分に、認識できない LMU 名が指定されています。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *lmu_name* はパケットを受信した LMU の名前です。A、B、standalone のいずれかです。

ユーザーの対応: なし。

2030 N

LMU error: ACS: acs_id Invalid standby_status standby_status.

説明: *query lmu* リクエストに対する応答で、スタンバイ LMU の予期しないステータスが返されました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *standby_status* は受信した予期しない値です。

ユーザーの対応: 指定の ACS のスタンバイ LMU と通信するときに ACSLS が使用する、ポートのステータスを確認します。*vary port* コマンドで LMU のステータスを修正できる場合があります。エラーが存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2031 N

ACS: acs_id Standby LMU now communicating.

説明: スタンバイ LMU は指定の ACS と通信しています。

変数: *acs_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2032 N

ACS: acs_id Standby LMU not communicating.

説明: ACSLH (ライブラリハンドラプロセス) はスタンバイ LMU が ACSLS サーバーと通信していないことを示す要求外メッセージを LMU から受信しました。

変数: *acs_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2034 N

ACSLH: Request Recoverer: message.

説明: このメッセージが表示されるのは通常、デュアル LMU のスイッチオーバー回復の実行中またはスタンドアロン LMU の IPL 後の回復期間中にソフトウェアエラーが発生した場合です。

変数: *message* はエラーの詳細な説明です。

ユーザーの対応: メッセージ内のエラーの説明を提供できるように準備し、関連する ACSLS データを収集します ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照)。Oracle Support に問い合わせてください。

2035 N

status = port_status: Cannot vary last Active port offline, leaving port online.

説明: アクティブな最後のオンラインポートに対する *vary port offline* コマンドの発行が許可されませんでした。

変数: *port_status* はポートのステータスです。

ユーザーの対応: なし。

2036 N

Standalone LMU, cannot initiate switch.

説明: スタンドアロン LMU に対する LMU 切り替えコマンドの発行が許可されませんでした。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2037 N

Standby LMU not communicating, cannot initiate switch.

説明: スタンバイ LMU が通信していないときには、LMU 切り替えコマンドの発行は許可されません。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2038 N

ACS acs_id has no LSMs configured; you may want to verify hardware configuration.

説明: このメッセージは次のいずれかの状態のときに表示されることがあります。

- 実際は別の ACS に接続されているポートを使用してこの ACS が構成された場合
- デュアル LMU 構成で *acsss_config* 中にスイッチオーバーが発生した場合、*acsss_config* 中のいずれかの LMU の IPL 時にこのメッセージが表示されることがあります。

変数: *acs_id* は LSM が構成されていない ACS です。

ユーザーの対応:

- 製品の構成時にこのメッセージが表示される場合は、すべてのハードウェア構成とすべてのハードウェア接続を確認します。この接続には、サーバーとの接続、LMU から LSM への接続、デュアル LMU 構成の場合は LMU 間の接続が含まれます。
- すべてのハードウェア接続が正しく、その状態でも *acsss_config* で空の ACS が検出される場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。
- このメッセージが *acsss_config* 中の LMU スイッチオーバーで発生する場合は、*acsss_config* を再実行します。

2041 W

Could not find text text in file filename.

説明: 指定のファイル内で予期していた一部のテキストが見つかりませんでした。ファイルが破損している可能性があります。

変数:

- *text* はファイルに含まれていることを予期していたテキストです。
- *filename* はファイルです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2050 W

Error processing command: command - error.

説明: ACSLS 内で受信したコマンドの処理中にエラーが発生した場合、このメッセージが表示されます。

変数:

- *command* はエラーの原因となったコマンドです。
- *error* は発生した特定のエラーです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2051 W

Ipcc error reading command: error.

説明: 処理するコマンドの読み取り中に内部通信エラーが発生しました。

変数: IPC 中に *error* が発生しました。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2052 W

Unable to get value for TRACE_VOLUME dynamic variable.

説明: *TRACE_VOLUME* 動的変数の値の取得中にエラーが発生しました。これによりボリュームのトレースに関する動作に一貫性がなくなる可能性があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2053 W

Error trying to create volume statistics entry.error_desc.

説明: *LIB_VOL_STSTS* ファイル内でエントリの作成中に問題が発生しました。

変数: *error_desc* は問題を説明する詳細なエラーメッセージです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2054 W

Move to cell_id failed cartridge recovery needed.Volume vol_id may be stuck intransit.

説明: LSM 内の元の場所と宛先の場所の間のどこかでボリュームが動かなくなっています。

変数:

- *cell_id* は宛先セルのアドレスです。
- *vol_id* は動かなくなっているボリュームのボリューム識別子です。

ユーザーの対応: 次のいずれかを実行します。

- LSM からテープを手動で取り出し、セルを監査してからテープを挿入します。

- ボリュームのある LSM に *vary offline force* を実行したあと、LSM をオンラインに変更し、移動中回復を強制します。

2055 W

Error updating cell cell_id state to full.

説明: セルの状態をフルに設定するときにエラーが発生しました。これにより、ACSL S データベースの整合性が失われた可能性があります。

変数: *cell_id* はエラーが発生したセルのアドレスです。

ユーザーの対応: 指定のセルのサブパネル監査を実行し、データベースを整合させます。

2056 W

Error updating cell cell_id state to empty.

説明: セルの状態を空に設定するときにエラーが発生しました。これにより、ACSL S データベースの整合性が失われた可能性があります。

変数: *cell_id* はエラーが発生したセルのアドレスです。

ユーザーの対応: 指定のセルのサブパネル監査を実行し、データベースを整合させます。

2057 W

Error updating cell cell_id state to reserved.

説明: セルの状態を予約済みに設定するときにエラーが発生しました。これにより、ACSL S データベースの整合性が失われた可能性があります。

変数: *cell_id* はエラーが発生したセルのアドレスです。

ユーザーの対応: 指定のセルのサブパネル監査を実行し、データベースを整合させます。

2058 W

Idle command failed information.

説明: ACSLS サーバーを部分的にアイドルにしようとしたのですが、失敗しました。

変数: *information* はエラーに関する詳細情報です。

ユーザーの対応: サーバーは機能し続けますが、大きな問題の兆候を示している場合もあるので、この問題を報告する必要があります。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2059 W

Failed to close accept socket.Error: error.

説明: 内部 ACSLS 通信メカニズムを閉じようとしたときにエラーが発生しました。

変数: *error* は障害の原因になった特定のエラーです。

ユーザーの対応: このエラーは単発的な異常を示している場合と、根本的な大きな問題の兆候を示している場合があります。このメッセージがほかのメッセージを伴わずに一度だけ発生した場合、このエラーは無視できます。このメッセージが複数回発生したり、ほかのエラーメッセージを伴って表示される場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2060 W

Database Error: error.

説明: ACSLS が使用するデータベースでトランザクションを処理しているときにエラーが発生しました。

変数: *error* はデータベースで発生した特定のエラーです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2061 W

Invalid data found in command: information.

説明: ACSLS が内部コマンド構造内で無効なデータを検出しました。

変数: *information* は無効なデータの詳細な説明です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2062 W

Unexpected ACSLH result received by move: information.

説明: ACSLS コンポーネント間の通信で内部エラーが発生しました。

変数: *information* はエラーに関する詳細情報です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2063 E

Internal error in processing the move command: information.

説明: 移動リクエストの処理中に内部エラーが発生しました。

変数: *information* はエラーに関する詳細情報です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2064 E

Error getting LIB_VOL_STATS value: explanation.

説明: ACSLS は *LIB_VOL_STATS* 動的変数の値を読み取れませんでした。これにより、ボリューム統計エントリを記録できないことがあります。

変数: *explanation* はエラーに関する詳細情報です。

ユーザーの対応: *acsss_config* を再実行して *LIB_VOL_STATS* をオンにしてから、リクエストを再実行します。エラーが存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2065 E

Error creating record for Volume vol_id: information.

説明: 指定の *vol_id* の ACSLS 内部データベースレコードの更新中に内部エラーが発生しました。

変数:

- *vol_id* は作成できなかったボリュームのボリューム識別子です。
- *information* はエラーに関する詳細情報です。

ユーザーの対応: ボリュームを予期していた場所を監査します。これに失敗した場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2066 E

Unable to update status for Volume vol_id: information.

説明: 指定の *vol_id* の ACSLS 内部データベースレコードを更新しようとしたときに内部エラーが発生しました。

変数:

- *vol_id* は作成できなかったボリュームのボリューム識別子です。
- *information* はエラーに関する詳細情報です。

ユーザーの対応: ボリュームを予期していた場所を監査します。これに失敗した場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2068 N

move: volume (vol_id) not found in cell (cell_id), deleted.

説明: ボリュームを移動しようとしたのですが、そのホームセル内でボリュームが見つかりませんでした。ボリュームレコードがデータベースから削除されました。

変数:

- *vol_id* は見つからなかったボリュームのボリューム識別子です。
- *cell_id* はセルの場所です。

ユーザーの対応: LSM を監査して、ACSLS データベースを LSM の内容と整合させます。

2069 N

cl_vol_write failed: vol_id.

説明: データベース内のボリュームレコードを更新するプロセスに失敗しました。

変数: *vol_id* はデータベースで更新できなかったボリュームレコードのボリューム ID です。

ユーザーの対応: ボリュームを表示します。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2077 N

Attempting to log an invalid message (message_number) from a client thread.

説明: CSI クライアントスレッドが、サポートされていないメッセージ番号をメイン CSI スレッドに返しました。メッセージは無視されます。

変数: *message_number* はサポートされていないメッセージ番号です。

ユーザーの対応: なし。CSI の処理は問題なく続行されます。必要であれば、このメッセージを Oracle Support に報告します。

2078 E

XDR translation failed.

説明: 応答の XDR 変換に失敗しました。これより前に発生したメッセージから問題を特定できる可能性があります。CSI はこの応答をネットワーククライアントに返すことができません。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連するログ、特に `acsss_event.log` を収集し、この問題を Oracle Support に報告します

2079 I

Sending first response to client ip_address.

説明: このメッセージは最初の応答がネットワーククライアントに送信されたときに表示されます。

変数: `ip_address` はネットワーククライアントの IP アドレスです。

ユーザーの対応: なし。

2080 E

Unable to allocate shared queue for client ip_address.

説明: 指定のネットワーククライアントに対する応答に対し、CSI は共有キューを割り当てることができませんでした。この問題が解決されるまで、このクライアントに応答は返されません。

変数: `ip_address` はネットワーククライアントの IP アドレスです。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーのメモリーが不足していないか確認します。`vmstat` または `vmstat -s` を使用して、スワップアウトされたページがないか確認します。ACSLS サーバーのメモリーが足りている場合は、診断情報を収集し、Oracle Support に連絡します。

2081 I

Unable to add entry to shared queue for client ip_address.

説明: CSI は指定のネットワーククライアントへの応答を共有キューに追加できませんでした。この応答は削除されます。

変数: `ip_address` はネットワーククライアントの IP アドレスです。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーのメモリーが不足していないか確認します。`vmstat` または `vmstat -s` を使用して、スワップアウトされたページがないか確認します。ACSLS サーバーのメモリーが足りている場合は、診断情報を収集し、Oracle Support に連絡します。

2082 E

Unable to create thread for client ip_address.

説明: CSI は指定のネットワーククライアントへの応答を送信するためのスレッドを作成できませんでした。問題が解決されるまで、このクライアントに応答は返りません。

変数: *ip_address* はネットワーククライアントの IP アドレスです。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーのメモリーが不足していないか確認します。*vmstat* または *vmstat -s* を使用して、スワップアウトされたページがないか確認します。ACSL S サーバーのメモリーが足りている場合は、診断情報を収集し、Oracle Support に連絡します。

2083 E

Unable to create clients queue.

説明: CSI は全ネットワーククライアントのリストを作成できませんでした。このリストを作成できるようになるまでは、クライアントに応答を返せません。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーのメモリーが不足していないか確認します。*vmstat* または *vmstat -s* を使用して、スワップアウトされたページがないか確認します。ACSL S サーバーのメモリーが足りている場合は、診断情報を収集し、Oracle Support に連絡します。

2084 E

Unable to create response queue.

説明: CSI はクライアントスレッドからメイン CSI スレッドへの応答に使用するキューを作成できませんでした。応答キューを作成できるようになるまで、クライアントに応答を返すときに CSI で問題が発生する可能性があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーのメモリーが不足していないか確認します。*vmstat* または *vmstat -s* を使用して、スワップアウトされたページがないか確認します。ACSL S サーバーのメモリーが足りている場合は、診断情報を収集し、Oracle Support に連絡します。

2085 N

Discarding packet for client ip_address with SSI identifier of request_id.

説明: ネットワーククライアントからのリクエストに対する応答が破棄されました。応答はクライアントからのリクエストに対する確認応答、またはリクエストに対する応答のいずれかでした。ネットワーク問題により、または ACSLS が停止していたため、送信されなかった可能性

があります。ACSL S が停止していない場合は、CSI はほかの応答を引き続き返そうと試みます。

変数:

- *ip_address* はネットワーククライアントの IP アドレスです。
- *request_id* は、SSI (ネットワーククライアント上) によって割り当てられた、このリクエストを一意に識別します。

ユーザーの対応: 詳細は関連するメッセージを参照してください。ACSL S が停止していない場合は、クライアントと ACSL S サーバー間でネットワーク問題が発生しているかどうかを確認します。

2086 E

Pthread function failed with return code return_code.

説明: 指定のスレッド関数が指定のリターンコードで失敗しました。ACSL S CSI が正常に動作していません。

変数: *return_code* は割り当てられたリクエストを一意に識別します。

ユーザーの対応: 関連するログ、特に *acsss_event.log* を収集し、この問題を Oracle Support に報告します。

2087 N

Resetting bad RPC file descriptor rpc_fd.

説明: このメッセージは RPC エラーからの回復を記録したものです。CSI は自動的に RPC ファイル記述子をリセットし、処理を続行します。

変数: *rpc_fd* はリセットされた RPC ファイル記述子です。

ユーザーの対応: なし。CSI は自動的に RPC ファイル記述子をリセットし、処理を続行します。

2088 E

Unable to shift transaction log file on secondary disk.

説明: セカンダリディスクマネージャーはセカンダリディスクにトランザクションログファイルを作成できません。これはデータベースエラーです。

ユーザーの対応: セカンダリディスクマネージャー (*sd_mgr.sh*) を再実行します。

2107 N

Cannot allocate environment handle.

説明: 環境ハンドルを割り当てる ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションを再起動する必要があります。システム管理者に連絡します。

2108 N

Cannot allocate database handle.

説明: データベースハンドルを割り当てる ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションを再起動する必要があります。システム管理者に連絡します。

2109 N

Cannot allocate statement handle.

説明: SQL 文ハンドルを割り当てる ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションを再起動する必要があります。システム管理者に連絡します。

2111 N

Cannot free connection handle.

説明: データベース接続ハンドルを解放する ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2112 N

Cannot free environment handle

説明: 環境ハンドルを解放する ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2113 N

Cannot fetch. Return code return_code

説明: クエリー結果セットから行をフェッチする ODBC コールに失敗しました。

変数: *return_code* は ODBC から返されたエラーコード番号です。

ユーザーの対応: アプリケーションを再実行する必要があります。システム管理者に連絡します。

2114 N

Error in preparing statement.

説明: 実行する SQL 文を準備する ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションを再実行する必要があります。システム管理者に連絡します。

2115 N

Cannot reset auto commit option.

説明: すべてのデータベーストランザクションに自動コミットオプションを設定、またはリセットする ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションを再実行する必要があります。システム管理者に連絡します。

2116 N

Attempt to database recovery was aborted by the user.

説明: データベースの回復中、警告メッセージによってユーザーは現在のデータベースを上書きすることを促されます。いったん開始したデータベース回復は中断できません。このメッセージが表示された場合、ユーザーはデータベース回復プロセスの中止を選択しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2118 E

Could not create the filename file.

説明: ファイル作成コマンドに失敗しました。このメッセージはインストールプログラムが `odbc.ini` ファイルを作成できない場合に記録されます。次の環境変数がすべて設定されていないと、インストールプログラムはこのファイルの作成に失敗します:

`$ACS_HOME`、`$INFORMIXDIR`、`$HW_PLATFORM`

変数: `filename` は `odbc.ini` ファイルです。

ユーザーの対応: 上記の変数が設定されていることを確認します。これらが設定されていない場合は、ACSL S を再インストールしてください。

2125 E

ACSL S database gentle shutdown did not succeed.

説明: データベースの安全な停止に失敗しました。このエラーはコマンドが 10 回再試行されたときに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応:

- このエラーが最初のインストール中に発生した場合は、製品を再インストールして再試行します。
- 既存のデータベースが破損している場合、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2126 E

ACSL S database forced shutdown did not succeed.

説明: 強制停止に失敗しました。

ユーザーの対応:

- このエラーが最初のインストール中に発生した場合は、製品を再インストールして再試行します。
- 既存のデータベースが破損している場合、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2128 E

ACSL S database fast shutdown did not succeed.

説明: 高速停止に失敗しました。

ユーザーの対応:

- このエラーが初期インストール中に発生した場合は、製品を再インストールして再試行します。
- 既存のデータベースが破損している場合、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2130 N

There remains only %MB of free space for ACSLS database space.

説明: ACSLS データベースの容量が不足しています。

変数: % は空き容量のパーセンテージです。

ユーザーの対応: Oracle Support に連絡します。

2131 N

ACS: acs_id Standby LMU now communicating with active.

説明: 指定の ACS のスタンバイ LMU が同 ACS のアクティブ LMU との内部接続をとおした通信を再開しました。ACSLS とスタンバイ LMU の通信ステータスは別に追跡され、これは `query lmu` コマンドを使用して表示できます。

変数: `acs_id` は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。このメッセージは情報のみを示すもので、メッセージ番号 2031 の代わりとなるものです。

2132 N

ACS: acs_id Standby LMU not communicating with active.

説明: 指定の ACS のスタンバイ LMU が同 ACS のアクティブ LMU との内部接続をとおした通信を停止しました。ACSLS とスタンバイ LMU の通信ステータスは別に追跡され、これは `query lmu` コマンドを使用して表示できます。

変数: `acs_id` は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: ACSLS に対するアクションは不要です。アクティブ LMU との通信が続行されます。このメッセージは情報のみを示すもので、メッセージ番号 2032 の代わりとなるものです。このメッセージは通常スタンバイ LMU の IPL が実行されたときに表示されます。IPL が完了すると、LMU 間の内部通信が再開されたことを示すメッセージ 2131 が表示されます。そうでない場合、問題が発生している可能性があります。両方の LMU を確認し、両方が動作できる状態で LAN ケーブルで相互に正しく接続されていることを確認します。

2133 N

LMU error: ACS: acs_id Invalid active_status active_status.

説明: *query lmu* リクエストに対する応答で、アクティブ LMU の予期しないステータスが返されました。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *active_status* は受信した予期しない値です。

ユーザーの対応:

- 指定の ACS のアクティブ LMU と通信するときに ACSLS が使用する、ポートのステータスを確認します。*vary port* コマンドで LMU のステータスを修正できる場合があります。
- エラーが存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2134 I

Module: Selecting another volume because scratch or cleaning volume vol_id may be in use.

説明: スクラッチのマウントリクエストまたは自動クリーニングリクエストに応じて ACSLS がカートリッジを選択し、データベースを更新しようとした。しかし、カートリッジのホームセルがすでに予約されていました。ACSLS はカートリッジ回復をコールしてセルとボリュームを調査し、別のスクラッチカートリッジまたはクリーニングカートリッジを選択しようとしています。

変数:

- *Module* はこのメッセージを表示した ACSLS モジュールです。
- *vol_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2135 E

Cannot cancel automatic enter at CAP cap_id

説明: 自動挿入リクエストを取り消そうとしたが、許可されませんでした。

変数: 自動挿入の取り消しができなかった CAP の *cap_id* 識別子。

ユーザーの対応: なし。

2136 E

Cannot cancel this request type: request_type

説明: リクエストタイプ *request_type* を取り消そうとしましたが、許可されませんでした。

変数: *request_type* は許可されなかったリクエストタイプです。

ユーザーの対応: なし。

2137 E

CAP proc_id: CAP cap_id is in a partitioned library, but the CAP is not dedicated to this partition. Therefore, it cannot be set to automatic mode

説明: CAP *cap_id* を自動モードに設定しようとしたのですが、CAP がこのパーティション専用になっている場合を除き、パーティション分割されたライブラリで自動モードは許可されません。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *cap_id* は CAP を識別します。

ユーザーの対応: なし。

2138 E

CAP cap_id is already reserved in partition partition_num by host host_id.

説明: CAP *cap_id* の使用を試みましたが、別のパーティションが先に CAP を予約していたため失敗しました。

変数:

- *cap_id* は使用を試みた CAP です。
- *partition_num* は現在 CAP を保持しているパーティションです。
- *host_id* は CAP を予約しているパーティションを使用しているホストの識別子です。

ユーザーの対応: CAP 操作を完了させるには、CAP を使用可能にする必要があります。これを行うには、現在 CAP を使用しているホストの処理を終了します。これができない場合は、ライブラリの手順を参照し、CAP 予約をオーバーライドします。

2139 E

CAP cap_id received an unexpected CAP door opened message; ignoring.

説明: CAP ドアの開扉イベントに関する予期しないメッセージを ACSLM が受信しました。

変数: *cap_id* は使用を試みた CAP です。

ユーザーの対応: なし。

2140 E

CAP cap_id received an unexpected CAP door closed message; ignoring.

説明: CAP ドアの閉扉イベントに関する予期しないメッセージを ACSLM が受信しました。

変数: *cap_id* は使用を試みた CAP です。

ユーザーの対応: なし。

2141 I

CAP cap_id has been set to manual mode because the CAP is now shared; it is no longer dedicated to this partition.

説明: CAP はこのパーティション専用ではなくなったため、自動モードにすることはできません。CAP を共有する場合は手動モードにする必要があります。

変数: *cap_id* は CAP を識別します。

ユーザーの対応: なし。

2142 W

CAP cap_id is in a partitioned library, and the CAP is dedicated to another partition. Please run Dynamic Config or acsss_config to remove the CAP from the configuration for this ACS. The CAP will be varied offline.

説明: このパーティションからこの CAP にアクセスできなくなりました。この CAP を構成から削除する必要があります。

変数: *cap_id* は CAP を識別します。

ユーザーの対応: 動的構成ユーティリティーを実行して ACS の構成を更新するか (*config acs acs_id*)、ACSLS を停止し *acsss_config* を実行して ACS を再構成します。

2143 W

The library reports CAP cap_id as not installed. Please run Dynamic Config or acsss_config to remove the CAP from the configuration. The CAP will be varied offline.

説明: CAP はライブラリ内にもう取り付けられていないため、構成から削除する必要があります。

変数: *cap_id* は CAP を識別します。

ユーザーの対応: 動的構成ユーティリティを実行して ACS の構成を更新するか (*config acs acs_id*)、ACSL S を停止し *acsss_config* を実行して ACS を再構成します。

2144 I

Intermediate dismount response not received when dismounting volume vol_id from drive drive_id.

説明: マウント解除時に ACSLS が情報提供のみの応答をライブラリから受信しませんでした。

変数:

- *vol_id* はボリュームを識別します。
- *drive_id* はドライブを識別します。

ユーザーの対応: なし。

2145 E

proc_id: Maintenance required for component component_id.

説明: 指定のコンポーネントについてライブラリが問題を報告しました。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *component* はコンポーネントタイプを識別します (ボリュームまたはドライブ)。
- *component_id* はコンポーネントを識別します。

ユーザーの対応: Oracle Support に連絡し、コンポーネントを点検してもらいます。

2146 I

Fault Symptom Code (FSC) fsc reported when dismounting volume vol_id from drive drive_id.

説明: マウント解除時にドライブが障害症状コード (FSC) を報告しました。

変数:

- *fsc* は 4 桁の障害症状コードです。
- *vol_id* はボリュームを識別します。
- *drive_id* はドライブを識別します。

ユーザーの対応: なし。このメッセージは情報のみを示します。ドライブまたはカートリッジで引き続き問題が発生する場合は、問題の診断に役立つように、この FSC を Oracle Support に提供します。

2147 E

Duplicate label vol_id, with media domain and type media_domain_type, reported in the library in component component_id.

説明: 同じラベルのカートリッジが複数含まれていることをライブラリが報告しました。

変数:

- *vol_id* は重複するボリュームラベルを識別します。
- *media_domain_type* はメディアドメインで、直後にメディアタイプが続きます。
- *component* はコンポーネントタイプを識別します (ACS、CAP、セル、またはドライブ)。
- *component_id* はコンポーネントを識別します。

ユーザーの対応: メッセージ 2148 を参照してください。

2148 E

Please eject the duplicate volumes with label vol_id via SLConsole and re-enter the correct volume.

説明: 同じラベルのカートリッジが複数含まれていることをライブラリが報告しました。ACSLs では一意のラベル (ボリュームのシリアル番号) しかサポートされないため、重複するものは取り出す必要があります。

変数: *vol_id* は重複するボリュームラベルを識別します。

ユーザーの対応: SLConsole の回復移動機能を使用して、メッセージ 2147 で報告されたすべてのボリュームを取り出します。点検後、正しいボリュームを再挿入します。

2149 E

proc_id: The configuration for ACS acs_id is out of date. The current configuration does not include component component_id with volume vol_id. Please update the configuration using Dynamic Config or acsss_config.

説明: ACS の構成が古く、すでに構成から外されているコンポーネント内にボリュームがあるため、アクセスできません。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。

- *acs_id* は ACS を識別します。
- *component* はコンポーネントタイプを識別します (セルまたはドライブ)。
- *component_id* はコンポーネントを識別します。
- *vol_id* はボリュームを識別します。

ユーザーの対応: 動的構成ユーティリティーを実行して ACS の構成を更新するか (*config acs acs_id*)、ACSL を停止し *acsss_config* を実行して ACS を再構成します。

2150 E

Lh error: proc_id: ACS acs_id configured to ACSLS with partition ID = partition_id, but the library is NOT partitioned.

説明: ACS がパーティション分割されたライブラリに接続しようとしたが、ライブラリはパーティション分割されていません。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *acs_id* は ACS を識別します。
- *partition_id* は ACS が構成されているパーティションです。

ユーザーの対応: パーティションが無効化されている可能性がある場合は、*acsss_config* を実行し ACS をパーティション分割されていないライブラリに再構成するか、ACS を削除します。または、定義されているパーティション *partition_id* を使用してライブラリでパーティション分割を有効にし、再接続します。

2151 E

Lh error: proc_id: ACS acs_id configured to ACSLS as NOT partitioned, but the library reports that this ACS is partitioned.

説明: ACS がパーティション分割されていないライブラリに接続しようとしたが、ライブラリはパーティション分割されています。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *acs_id* は ACS を識別します。

ユーザーの対応: パーティションが有効化されている可能性がある場合は、*acsss_config* を実行し、定義されているパーティションに ACS を再構成するか、ACS を削除します。または、ライブラリのパーティション分割を無効化し、再接続します。

2152 E

Lh error: proc_id: ACS acs_id configured to ACSLS with partition ID = partition_id, but the library reports that this partition is not defined.

説明: ACS のパーティション ID は、ライブラリに定義されているパーティション ID ではありません。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *acs_id* は ACS を識別します。
- *partition_id* は ACS が構成されているパーティションです。

ユーザーの対応: パーティション分割が有効になっていて、ライブラリにパーティション ID が定義されていることを確認します。パーティションが有効で、パーティション ID が定義されていない場合は、*acsss_config* を実行し ACS を正しいパーティションに再構成します。

2153 E

Lh error: proc_id: HLI Transmission header invalid for host/library compatibility level = compat_level.

説明: ACSLS サーバーとライブラリ間の通信エラーが発生しました。ACSLs が Host/Library Interface (HLI) を介してライブラリと通信する場合、伝送の互換レベルが一致している必要があります。HLI ライブラリには SL3000 と SL8500 が含まれます。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *compat_level* は伝送の HLI 互換レベルです。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動します。エラーが再度発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2154 E

Lh error: proc_id: ACS acs_id already defined to partition defined_id; attempt to connect to partition new_id rejected.

説明: ACSLS ライブラリハンドラは、ACS にすでに定義されているパーティション ID とは異なるパーティション ID との接続リクエストを受信しました。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *acs_id* は ACS を識別します。
- *defined_id* は ACS との接続用にすでに定義されているパーティション ID です。
- *new_id* は、ACS の却下された新しいパーティション ID です。

ユーザーの対応: 問題の影響が大きい場合は、次を実行します。

1. ACS をオフラインに変更します。
2. ACS 用のすべてのポートをオフラインに変更します。
3. ACS 用のすべてのポートを再度オンラインに戻します。
4. ACS をオンラインに変更します。
5. それでも問題が続く場合は、ACSL S を再起動します。
6. 問題が再度発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2155 E

Lh error: proc_id: Port port_id already defined with port-name defined_name; attempt to connect to port-name new_name rejected.

説明: ACSLS ライブラリハンドラは、ポートにすでに定義されているポート名とは異なるポート名との接続リクエストを受信しました。

変数:

- *proc_id* はエラーメッセージを発行したプロシージャ名です。
- *port_id* はポートを識別します。
- *defined_name* はポートにすでに定義されているポート名です。
- *new_name* は、ポートの却下された新しいポート名です。

ユーザーの対応:

1. ACS をオフラインに変更します。
2. ACS 用のすべてのポートをオフラインに変更します。
3. ACS 用のすべてのポートを再度オンラインに戻します。
4. ACS をオンラインに変更します。
5. それでも問題が続く場合は、ACSL S を再起動します。
6. それでも問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2156

The reservation on CAP cap_id was overridden by the library's CLI or SLConsole.

説明: パーティション分割されたライブラリの CAP について、ACSLs が保持していた CAP 予約をオペレータがオーバーライドしたことを、ライブラリが ACSLS に通知しました。

変数: *cap_id* は CAP を識別します。

ユーザーの対応: CAP 予約がオーバーライドされたため、実行中の挿入または取り出しは終了されました。CAP にまだカートリッジが残っている場合は、それらを取り出し、ほかのパーティションがその CAP を使用できるようにする必要があります。これらのカートリッジに、挿入または取り出し操作が行われていたパーティションのラベルを付けてください。

2157 I

ACS acs_id is affected by a configuration, capacity, or partition change. Please run dynamic config to update the configuration of this ACS, and audit it.

説明: この ACS が構成、容量、またはパーティションの変更の影響を受けることを、ライブラリが ACSLS に通知しました。

変数:

- *acs_id* は ACS を識別します。
- *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応:

1. 動的構成ユーティリティを実行して、構成を更新します。
2. ライブラリの構成または容量が変更された場合は、ACS (*config acs acs_id*) または LSM (*config lsm_id*) の構成を更新します。
3. 影響を受けた ACS を監査します。
4. メディア検証プールに対してテープドライブの追加または削除を行なった場合は、*config drive <panel_id>* を使用してドライブ構成を更新します。

2158 I

Re-trying the mount of volume vol_id on drive drive_id using the volumes' new home cell.

説明: ボリュームがホームセルになかったため、元のボリュームのマウントは失敗しました。しかし ACSLS が別のセル内でボリュームを発見できたため、マウントを再試行しています。

変数:

- *vol_id* はボリュームを識別します。
- *drive_id* はドライブを識別します。

ユーザーの対応: なし。

2159 I

ACS acs_id: Library Recovery Started.

説明: ACSLH (ライブラリハンドラプロセス) が LMU の切り替えまたはライブラリの IPL に起因するライブラリリクエストの処理を開始したか、ライブラリとの失われた通信を再確立するときのライブラリリクエストの処理を開始しました。

変数: *acs_id* は ACS を識別します。

ユーザーの対応: なし。

2160 W

Port port_id lost communication with the library and has been varied offline. If communication is reestablished, the port will automatically be varied online.

説明: ACSLS はポートを介してライブラリと正常に通信できません。ポートは継続して通信の再確立を試み、成功するとポートはオンラインに戻ります。

変数: *port_id* はポートを識別します。

ユーザーの対応:

1. ポートで使用されているすべてのケーブルが正しく接続され、動作していることを確認します。
2. ハブ、スイッチ、ルータなど、ポートで使用されているものすべてが動作していることを確認します。
3. ACSLS とライブラリの両方で物理デバイスが動作していることを確認します。
4. これらすべてを確認してもポートが自動的にオンラインに戻らない場合は、ポートをオフラインにしてからオンラインに戻します。

それでもポートがオンラインにならない場合:

1. ACS をオフラインに変更します。
2. ACS 用のすべてのポートをオフラインに変更します。

3. ACS 用のすべてのポートを再度オンラインに戻します。
4. ACS をオンラインに戻します。
5. ポートがオフラインのままの場合は、ACSL S を再起動します。
6. ポートがオンラインにならない場合は、ライブラリを再起動します。
7. 問題が再度発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2161 W

ACS acs_id lost control of the library and has been varied offline. If control is reestablished, the ACS will automatically be varied to its previous state (previous_state).

説明: ACSLS でライブラリを制御できなくなりました。ライブラリを制御できるすべてのポート (スタンバイでないポート) がオフラインに変更されたか、ライブラリとの通信を失いました。制御ポートがオンラインに変更されるか通信が再確立されると、ACS は自動的に以前の状態に戻ります。デュアル LMU 構成の場合、スタンバイポートがまだオンラインで通信を続けている場合があります。ただし、スタンバイポートはライブラリを制御できないため、ACS はオフラインに変更されました。

変数:

- *acs_id* は ACS を識別します。
- *previous_state* は、制御を失う前の ACS の適切な状態です。

ユーザーの対応: 制御ポートがオフラインに変更された場合、ポートをオンラインに変更します。すべての制御ポートを再接続する場合は、メッセージ 2160 の必要なアクションのセクションに従ってポートを再接続します。制御ポートをオンラインにしたあとに、ACS が自動的に元の状態に戻らない場合:

1. ACS をオフラインに変更します。
2. ACS 用のすべてのポートをオフラインに変更します。
3. ACS 用のすべてのポートを再度オンラインに戻します。
4. ACS をオンラインまたは診断に変更します。
5. ACS がオフラインのままの場合は、ACSL S を再起動します。
6. ACS がオンラインにならない場合は、ライブラリを再起動します。
7. 問題が再度発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2162 I

Port port_id has reestablished communication with the library and has been varied online.

説明: ACSLS がポートを介してライブラリとの通信を正常に再確立しました。ポートは現在オンラインで動作しています。

変数: *port_id* はポートを識別します。

ユーザーの対応: なし。

2163 I

ACS acs_id has reestablished control of the library and has been varied to its previous state (previous_state).

説明: ACSLS がライブラリの制御を再確立し、ACS は制御を失う前の適切な状態に戻りました。これは、ライブラリを制御できるポート (スタンバイでないポート) がライブラリとの通信の再確立に成功したか、ポートがオンラインに変更されたために発生します。

変数:

- *acs_id* は ACS を識別します。
- *previous_state* は、制御を失う前の ACS の適切な状態です。

ユーザーの対応: なし。

2164 E

Port port_id cannot be varied offline because the desired state for ACS acs_id is acs_state. Please vary ACS acs_id offline first.

説明: このポートが最後のオンラインポート、または適切なオンライン状態の最後のポートであり、ACS をオンラインまたは診断 (以前の *acs_state*) にしておく必要があるという理由から、ポートをオフラインに変更できませんでした。ACS のオンライン状態または診断状態を維持しなければならないときに、ACS の全ポートをオフラインに変更することはできません。

変数:

- *port_id* はポートを識別します。
- *acs_id* は ACS を識別します。
- *acs_state* は ACS の適切な状態です。

ユーザーの対応: ポートをオフラインに変更するには、ACS のほかのポートをオンラインに変更するか、ACS をオフラインに変更します。

2165 E

Cannot vary ACS acs_id new_state because no ports for this ACS have a desired state of online. Please vary a port for ACS acs_id online first.

説明: オンライン状態になっているポートが ACS がないため、ACS をオンラインまたは診断に変更できません。オンライン状態のポートがない場合、ACS をオンラインまたは診断に変更できません。

変数:

- *acs_id* は ACS を識別します。
- *new_state* はリクエストされた ACS の状態です。

ユーザーの対応: ACS をオンラインまたは診断に変更するには、ACS のポートをオンラインに変更します。

2166 I

Desired state for component component_id set to new_state.

説明: コンポーネントの適切な状態が正常に更新され、データベース内で *new_state* に設定されました。

変数:

- *component* はコンポーネントタイプ (ACS またはポート) を識別します。
- *component_id* はコンポーネントを識別します。
- *new_state* はコンポーネントの適切な状態です。

ユーザーの対応: なし。

2167 I

Module: CAP cap_id is an Access Expansion Module (AEM) and should not be used for small enters and ejects. Therefore maximum CAP priority is one.

説明: AEM に 1 より大きい CAP 優先順位を設定しようとしていました。AEM は少数のカートリッジの挿入または取り出しを意図したものではありません。CAP ID がアスタリスクでワイルドカード化されていたり、LSM ID が指定されているときに、AEM が自動的に選択されるのを防ぐため、AEM には 1 より大きな優先順位を設定できないようになっています。

変数:

- *Module* はこのメッセージを表示した ACSLS モジュールです。

- *cap_id* は *set cap priority* コマンドで指定された AEM です。

ユーザーの対応: AEM の優先順位をゼロまたは 1 に設定します。少数のカートリッジの挿入または取り出しに AEM は使用しないでください。

2168 E

Limit of max_value variable_name exceeded.

説明: 一部のプログラム設定または変数で許可されている最大値を超える値を ACSLS が検出しました。ACSLS の処理は継続します。

変数:

- *max_value* は許可される最大値です。
- *variable_name* はプログラムの設定または変数です。

ユーザーの対応: Oracle Support に報告します。(ACSLS の処理は継続しますが、このイベントを報告してください。)

2169 W

operation of volser on drive drive_id failed due to component status, and the time of timeout minutes was exceeded.

説明: ライブラリコンポーネント (ACS、LSM、またはドライブ) が使用不能で、自動再試行の制限時間を超えたため、ACSLS はマウントまたはマウント解除操作を実行できませんでした。

変数:

- *operation* は失敗したリクエストタイプ (マウントまたはマウント解除) です。
- *drive_id* はドライブ識別子です。
- *component* はリクエストの失敗の原因となったライブラリコンポーネントです。
- *status* はライブラリコンポーネントのステータス (現在はオフラインまたは回復中) です。
- *timeout* は、超過した時間制限 (分単位) です。(MOUNT_RETRY_TIME_LIMIT 動的変数を参照。)

ユーザーの対応: なし。操作を再試行するには、オフラインのライブラリコンポーネント (ACS、LSM、およびドライブ) を準備し使用可能な状態にして、オンラインにします。

2170 W

Volume vol_id, not in drive drive_id.ACSLS will recover cartridge automatically.

説明: ボリュームをマウント解除しようとしたのですが、ボリュームがドライブにありませんでした。ACSLs は自動的にライブラリ内でカートリッジを探します。

変数:

- `vol_id` はボリュームのボリューム識別子です。
- `drive_id` はドライブ識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2171 W

switch lmu for ACS acs_id not allowed because more than one SL8500 in ACS.

説明: ACS に対して `switch lmu` コマンドが発行されました。ただし、ACS にはパススルーポートで接続された SL8500 ライブラリが複数あります。SL8500 ライブラリの場合、`switch lmu` コマンドがサポートされるのは単一のスタンドアロン SL8500 のみです。

変数: `acs_id` は、`switch lmu` コマンドの発行先の ACS です。

ユーザーの対応: なし。

2172 W

switch lmu for ACS acs_id not allowed because ACS is partitioned.

説明: ACSLS と同じようにホストからの `switch lmu` リクエストは、パーティション分割されたライブラリではサポートされません。切り替えにより、ほかのパーティションから使用できなくなってしまうためです。

変数: `acs_id` は、`switch lmu` コマンドの発行先の ACS です。

ユーザーの対応: ライブラリを切り替える必要がある場合は、SLConsole を使用します。

2173 E

More than max of max_drives_in_acsls drives in database, cannot re-configure.

説明: `acsss_config` を使用してライブラリのハードウェア構成を定義または変更しようとしたとき、この ACSLS システムが管理しているすべての ACS の合計のテープドライブ数が最大数を超過していました。これだけ多くのテープドライブはサポートできないため、`acsss_config` は終了します。

変数: `max_drives_in_acsls` は `acsss_config` でサポートされる最大テープドライブ数です。

ユーザーの対応: このハードウェア構成は次のいずれかの方法でサポートできます。

- 別の ACSLS サーバーを使用する ACS (ライブラリコンプレックス) を別途管理します。*max_drives_in_acsls* は少なくとも 1500 台 (20 台を超える SL8500 ライブラリに取り付け可能な数を上回る) のテープドライブをサポートします。
- *config acs new* ユーティリティーを使用して新しい ACS を構成し、*config acs acs_id* を使用して ACS を再構成します。
- *max_drives_in_acsls* の制限値を引き上げるため、この問題を Oracle Support に報告します。

2174 I

Restarting auto-enter for CAP cap_id.

説明: 指定の CAP の自動挿入が再開されました。

変数: *cap_id* は自動挿入が再開された CAP です。

ユーザーの対応: この CAP を使用した自動挿入モードでのカートリッジ挿入を実行できません。

2175 W

Volume vol_id too long for Volume Access Control.

説明: ボリュームがボリュームアクセス制御の下でクライアントに所有されているかどうかを ACSLS が確認しようとしていました。しかし、指定のボリュームのボリューム ID は長さが 6 文字を超えています。ボリュームアクセス制御でサポートされるのは 6 文字の *vol_ids* のみです。

変数: *vol_id* は 6 文字を超えるボリューム ID を持つボリュームです。

ユーザーの対応: 診断情報を収集し、これを Oracle Support に報告してください。

2176 W

CAP cap_id: Not reserved for automatic enter.

説明: CAP を閉じたあと、その CAP が自動挿入用に予約されていないことが判明しました。自動挿入リクエストは終了しました。

変数: *cap_id* は自動挿入が開始された CAP です。

ユーザーの対応: CAP を *offline force* に変更し、オンラインに戻してから、*set cap mode automatic* を使用して CAP のモードとステータスをクリーンアップします。

2177 W

CAP cap_id: cap_size db_cap_size invalid for automatic enter.

説明: CAP を閉じたあと、データベースに記録されている CAP のサイズが無効であることが判明しました。自動挿入リクエストは終了しました。

変数:

- *cap_id* は自動挿入が開始された CAP です。
- *db_cap_size* はデータベースに記録されている CAP のサイズです。これがゼロ以下、または最大 CAP よりも大きい値でした。

ユーザーの対応: データベースで CAP の構成を更新し、CAP のサイズをリセットします。

1. すべてのライブラリコンポーネントの準備が完了し、オンラインになっていることを確認します。
2. ACSLS が稼働しているときに動的 *config* ユーティリティーを使用するか、ACSL S を停止してから *acsss_config* を使用します。
3. *dynamic config* を使用する場合、SL8500 の再構成には *config acs acs_id* を、SL3000 または 9310 の再構成には *config lsm lsm_id* を使用します。

2180 E

ACS acs_id: Called for circuit to standby or unknown LC.

説明: スタンバイ LC (ライブラリコントローラ) または不明な LC に接続されている回路に、アクティブ LC に対するリクエストを選択しようとして失敗しました。

変数: *acs_id* は関連する ACS を識別します。

ユーザーの対応: これは発生してはならない内部エラーです。診断データを収集し、これを Oracle Support に報告します。

2181 E

Delete of current Xmit_active_q queue member failed.

説明: ライブラリに送信するリクエストを選択したあとに、アクティブリクエストのキューからそのリクエストを削除することはできません。

変数: なし。

ユーザーの対応: これは発生してはならない内部エラーです。診断データを収集し、これを Oracle Support に報告してください。

2182 E

Get of Xmit_active_q queue member_id queue_member_id failed.

説明: アクティブリクエストのキューからアクティブ LC (ライブラリコントローラ) 宛てのリクエストを取得しようとしたのですが、キューからこのキューメンバーを取得できませんでした。

変数: *queue_member_id* は内部キューメンバー ID を識別します。

ユーザーの対応: これは発生してはならない内部エラーです。診断データを収集し、これを Oracle Support に報告してください。

2183 E

Delete of Xmit_active_q queue member_id queue_member_id failed.

説明: アクティブリクエストのキューからアクティブ LC (ライブラリコントローラ) 宛てのリクエストを削除しようとしたのですが、キューからこのキューメンバーを削除できませんでした。

変数: *queue_member_id* は内部キューメンバー ID を識別します。

ユーザーの対応: これは発生してはならない内部エラーです。診断データを収集し、これを Oracle Support に報告してください。

2185 E

Module: Selected vol_type volume vol_id is an incompatible media type for drive drive_id.

説明: 選択したクリーニングボリュームまたはスクラッチボリュームにはテープドライブとの互換性がないことを、ライブラリが報告しました。これは発生してはいけません。ACSL5 は自動的に別のクリーニングまたはスクラッチのカートリッジを選択してマウントを試みます。

変数:

- *vol_type* はクリーニングまたはスクラッチです。
- *vol_id* はボリュームのボリューム識別子です。
- *drive_id* はドライブ識別子です。

ユーザーの対応: メッセージで報告されたカートリッジを取り出し、問題がないかどうか点検します。これにはカートリッジのラベルとバーコードの点検も含まれます。ライブラリファームウェアがメディアとテープドライブをサポートしていることを確認します。

2200E

Cannot create group acsdb.

説明: このエラーは AIX オペレーティングシステムに製品をインストールしているときにのみ発生します。インストールプログラムによって *acsdb* という名前の Unix グループが作成されます。これは Unix コマンド *mkgroup* をコールしてグループを作成します。このエラーは *mkgroup* コマンドが失敗した場合に記録されます。グループ ID # 106 を使用できるようにする必要があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: 問題を解決したあとに、ACSL S を再インストールします。

2202 E

Cannot create acsdb user.

説明: このエラーは AIX オペレーティングシステムに製品をインストールしているときにのみ発生します。インストールプログラムによって *acsdb* という名前の UNIX ユーザーが作成されます。これは UNIX コマンド *mkuser* をコールしてグループを作成します。このエラーは *mkuser* コマンドが失敗した場合に記録されます。ユーザー ID # 11 を使用できるようにする必要があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: 問題を解決したあとに、ACSL S を再インストールします。

2205 E

Group file update (acsdb) failed: updates discarded.

説明: このエラーは Oracle の Solaris オペレーティングシステムに製品をインストールしているときにのみ発生します。インストールプログラムによって *acsdb* という名前の UNIX グループが作成されます。グループ名がすでに存在する場合は、エントリの更新が試行されません。このエラーは更新に失敗した場合に記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 問題を解決したあとに、ACSL S を再インストールします。

2206 E

Group file move (acsdb) failed: updates discarded.

説明: このエラーは Solaris オペレーティングシステムに製品をインストールしているときにのみ発生します。インストールプログラムによって *acsdb* という名前の UNIX グループが作成されます。以前のバージョンのグループファイルの移動が試行されます。このエラーは移動に失敗した場合に記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 問題を解決したあとに、ACSL S を再インストールします。

2207 E

Insufficient disk space available in disk.Need needed_space KB.Have available_space KB.You must make at least needed_space KB available in disk before installing ACSLS database.

説明: インストールプログラムはインストールの開始前に使用可能なディスク領域を確認します。このメッセージは、ACSL S ディスクのインストール先に ACSLS データベースソフトウェアをインストールできる十分な領域がない場合に記録されます。

変数:

- *disk* は ACSLS 製品のインストール先です。
- *needed_space* は ACSLS データベースのインストールに必要なディスク領域です。
- *available_space* はディスク上の使用可能領域です。

ユーザーの対応: 選択したディレクトリ内のファイルを削除して領域を確保します。より大きなディスク領域のある別のディレクトリを選択して ACSLS を再インストールするか、より大きなディスクをインストールします。

2208 E

ACSL S database installation failed.

説明: このエラーは、ACSL S データベースソフトウェアのインストールに失敗した場合に記録されます。これは、次の 1 つまたはいくつかの原因で発生します。

- *acsdb* のインストール先として選択されたディレクトリが書き込み不能です。
- 指定されたバックアップ用ディスクに十分な領域がありません。
- 共有メモリーの初期化に失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応:

- ACSLS データベースのインストール先として選択されたディレクトリが書き込み不能です。書き込みアクセスできるディレクトリを選択し、ACSL S を再インストールします。
- テープを使用してインストールを実行している場合、テープが不良で抽出に失敗しました。メディアを交換し、ACSL S を再インストールします。

- 指定されたバックアップ用ディスクに十分な領域がない場合は、ディスクの使用可能領域を増やして ACSLS を再インストールします。
- 共有メモリーの初期化に失敗した場合は、ACSLS を再インストールします。

変数: *dev* はバックアップデバイスとして登録されるバックアップディレクトリです。

ユーザーの対応: ディレクトリが存在するかどうかを確認します。存在しない場合は、同じ名前を使用して作成し、インストールを再試行します。存在する場合は、権限が 664 である必要があります。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)) を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2217 E

Error in labelling dev.

説明: インストール中、インストールプログラムによってバックアップボリュームが作成されます。このプロセスに失敗すると、このメッセージが記録されます。これは同じ名前のボリュームが存在する場合に発生することがあります。

変数: *dev* はバックアップボリュームに関連付けられているバックアップディレクトリです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)) を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2218 E

Error in mounting dev.

説明: インストール中、インストールプログラムによってバックアップボリュームが作成され、マウントされます。バックアップデバイスのマウントに失敗すると、このメッセージが記録されます。これは、デバイスが存在しない、またはデバイスに関連付けられているバックアップボリュームが存在しないなどの理由で発生することがあります。

変数: *dev* はマウントされるディレクトリです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)) を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2220 E

Error in creating new devices.

説明: 2 台目のディスクのインストール中、バックアップディレクトリが 2 台目のディスクのディレクトリに移ります。このプロセスに失敗すると、このメッセージが記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 障害の正確な理由を確認するには、`sd_event.log` で、このエラー番号より前に記録されたエラーメッセージ番号を参照してください。次のエラーのいずれかが障害の原因になっている場合があります。詳細は、次のエラー番号を参照してください。1581、1516、1569、2227、2229、2230、2216、2217、2218。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2221 I

Secondary disk already installed.

説明: このメッセージは、セカンダリディスクがすでにインストールされている状態で 2 台目のディスクのインストールを実行したときに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: このエラーが発生した場合 2 台目のディスクはすでにインストールされているため、必要なアクションはありません。

2222 I

ACSLS control files backup successfully completed.

説明: ACSLS 制御ファイルのバックアップに成功しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2225 E

Error in turning mirror off for rootdbs.

説明: このメッセージは 2 台目のディスクをアンインストールするときに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: システム管理者に連絡するか、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

2226 I

Second disk de-installation completed successfully.

説明: このメッセージは、2 台目のディスクのアンインストールが正常に終了したときに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: このメッセージはインストールに失敗した場合は表示されません。

2227 E

Error in unmounting dev.

説明: このメッセージは、2 台目のディスクのインストールまたはアンインストール中にエラーが発生したときに記録されます。また、バックアップまたは復元セッションでバックアップデバイスが使用されている場合もマウント解除に失敗します。

変数: *dev* はマウント解除されるディレクトリです。

ユーザーの対応:

- 実行中のバックアッププロセスがないことを確認します。ある場合は、バックアップが完了するまで待ちます。
- 2 台目のディスクオプションのインストール中にエラーが発生した場合、*sd_mgr.sh* を再インストールします。
- 2 台目のディスクオプションのアンインストール中にエラーが発生した場合、*sd_mgr.sh* を再インストールします。

2228 E

Unable to mirror dbspace on Secondary disk.

説明: 2 台目のディスクのインストールで ACSLS は、データの耐障害性を高めるために、2 台目のディスクにデータベースをミラー化します。このメッセージは、ミラー化のプロセスに失敗した場合に記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 指定した 2 台目のディスクへのパスが有効なパスであることを確認します。2 台目のディスクのミラー *dbspace* に適切な権限 (667) が設定されていることを確認します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2230 E

Unable to remove the device dev.

説明: 2 台目のディスクのインストール中、バックアップディレクトリが 2 台目のディスクのディレクトリに移ります。このプロセスでは、プライマリディスクで使用されていたデバイスが削除されます。このプロセスに失敗すると、このメッセージが記録されます。

変数: *dev* は削除されるディレクトリです。

ユーザーの対応:

- 実行中のバックアッププロセスがないことを確認します。ある場合は、バックアップが完了するまで待ちます。
- 2 台目のディスクオプションのインストール中にエラーが発生した場合、`sd_mgr.sh` を再インストールします。
- 2 台目のディスクオプションのアンインストール中にエラーが発生した場合、`sd_mgr.sh` を再インストールします。

2233 N

program: Cannot set ODBC driver version. Status code (error_code).

説明: ACSLS がデータベースに接続しようとしたときに内部エラーが発生しました。

変数:

- `program` はエラーが発生したソースファイルの名前です。
- `error_code` は `SQLSetEnvAttr` ODBC 関数から戻ったときにアプリケーションで発生したエラーコードです。

ユーザーの対応: サーバーをリブートし、再試行します (メモリーに問題があることを想定)。

2234 I

ACSL database backup started.

説明: データベースのバックアッププロセスが開始されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2236 I

ACSL database backup successfully completed.

説明: データベースのバックアップが正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2237 E

EXEC SQL delete from auditable.

説明: 監査表からの行の削除に失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2240 E

Unable to configure volume backup data_volume.

説明: 手動バックアップの一環で、バックアップファイルは tar ファイルにアーカイブされず。このプロセスの実行中、アーカイブが終わるまでの間バックアップが行われないようバックアップデバイスが構成されます。このメッセージは、バックアップデバイスの構成中にエラーが発生した場合に記録されます。

変数: バックアップ *data_volume* は、構成できなかったバックアップボリュームです。接尾辞 *pri_* の付いたボリューム名は、そのボリュームがプライマリディスクボリュームであることを示しています。同様に、接尾辞 *sec_* の付いたボリューム名は、そのボリュームがセカンダリディスクボリュームであることを示しています。

ユーザーの対応: ログアウトしてから *acsss* としてログインし、2 台目のディスクのインストールまたはアンインストールを再試行してください。

2243 E

Cannot remove the directory directory.

説明: アクセス権限の問題でディレクトリの削除に失敗した可能性があります。

変数: *directory* は削除されるディレクトリです。

ユーザーの対応: このユーティリティーを実行できる適切なユーザーとしてログインしていることを確認します。ディレクトリの *access* 権限を確認します。

2246 E

Failed to add necessary CRON entry for automatic backup.

説明: 自動バックアップ構成スクリプトはオペレーティングシステムスケジューラに定期的なバックアップイベントを登録します。このエラーは登録に失敗したときに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: システム管理者に連絡するか、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2250 I

ACSL database recovery successfully completed. Database has been restored to the point of the specified backup.

説明: このメッセージは、以前のローカルディスクバックアップからの復元が正常に終了したあとに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2255 I

ACSL control files backup failed.

説明: ACSLS 制御ファイルのバックアップに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2256 I

Disk is percentage full, please decrease the database backup retention period to free disk space.

説明: バックアップに使用するディスクの領域不足です。期限切れボリュームを除去しないと、バックアップディスクがオーバーフローする可能性があります。その結果、自動バックアップでデータをバックアップできないことがあります。

変数: *percentage* は使用中のディスク容量を示すパーセンテージです。

ユーザーの対応:

1. *acsss_config* スクリプトを実行し、オプション「5: Set automatic backup parameters」を選択します。
2. 「*Would you like to modify the automatic backup settings? (y or n):*」というプロンプトが表示されたら *n* と応答します。
3. 次のプロンプトで、保持期間に小さい値を設定します。この設定は期限切れのバックアップを自動的に削除することで、ロックされているディスク領域を解放します。

2257 E

Unexpected error occurred in automatic configuration settings.

説明: 自動バックアップのパラメータを構成するためのスクリプトが失敗しました。失敗の原因として、次の理由が考えられます。

- 変数 `$ACS_HOME` が間違っただイレクトリを指しています。
- このスクリプトが別のスクリプトである `$ACS_HOME/.acsss_env` に依存しています。このスクリプトがありません。
- スクリプト `fix_autobkup_cron.sh` が見つかりませんでした。
- 構成プログラムは自動バックアップの設定をオペレーティングシステムスケジューラに登録します。このプロセスが失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: セッションからログアウトして、再度ログインしてください。ACSL S がすべての変数をリロードします。環境変数が誤って変更されたことが原因でエラーが発生した場合、リロードによって変数が正しく設定されます。製品ファイルが欠落している場合は、ACSL S を再インストールします。スクリプト `acsss_config` を実行し、自動バックアップパラメータを構成します。

2258 E

Expired backup files could not be removed.

説明: バックアップディスクがいっぱいになるのを避けるため、ACSL S は、バックアップを開始する前に期限切れのバックアップファイルを削除します。このメッセージは期限切れファイルのリサイクルが正常に完了しなかったことを示しています。

これは、次の場合に発生します。

- 環境ファイル `$ACS_HOME/.acsss_env` が見つかりません。
- 環境変数 `RETENTION_PERIOD` が設定されていません。
- 変数 `$ACSDB_BACKUP_DIR` が変更されたか削除されました。
- 変数 `$ACSDB_BACKUP_DIR` が間違っただイレクトリを指しています。
- `$ACSDB_BACKUP_DIR` が指すディレクトリ内のファイルを削除する権限がありません。

ユーザーの対応:

- セッションからログアウトし、正しいユーザー ID で再度ログインします。ACSL S がすべての変数をリロードします。環境変数が誤って変更されたことが原因でエラーが発生した場合、リロードによって変数が正しく設定されます。
- 製品ファイルが欠落している場合は、ACSL S を再インストールします。
- システム管理者に連絡するか、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2259 I

Recycle of expired files completed.

説明: バックアップディスクがいっぱいになるのを避けるため、ACSLS は、バックアップを開始する前に期限切れバックアップファイルを削除します。このメッセージは期限切れファイルのリサイクルが正常に完了したことを示しています。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2260 I

ACSLS backup completed successfully.

説明: ACSLS のバックアップが正常に完了しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2261 I

ACSLS control files backup started.

説明: ACSLS 製品で使用される制御ファイルのバックアップが開始されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2262 W

Failed to recycle expired files.

説明: 期限切れバックアップファイルのリサイクル中に内部エラーが発生しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2264 I

Writing ACSLS backup file to target location.

説明: バックアップする最終の tar を作成しています。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2270 E

Cartridge stuck in the in-transit cell. Please vary LSM lsm_id offline and back online again to recover the cartridge.

説明: 識別子 *lsm_id* の LSM の移動中セル内でカートリッジが動かなくなっています。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応: メッセージで指摘された LSM をオフラインに変更し、オンラインに戻してカートリッジを回復します。

2271 E

LSM lsm_id in maintenance mode.

説明: 指定の *lsm_id* の LSM は保守モードです。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応: ライブラリに表示されたステータス情報をすべて記録します。LSM の IPL を実行します。ACSL S で LSM をオンラインに変更します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2272 I

Micro-code had been changed in LSM lsm_id.

説明: LSM (識別子 *lsm_id*) のマイクロコードレベルが変更されました。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2273 E

Pass-thru port inoperative in LSM lsm_id.

説明: 識別子 *lsm_id* の LSM のパススルーポートが動作していません。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応: ライブラリに表示されたステータス情報をすべて記録します。LSM の IPL を実行します。ACSL S で LSM をオンラインに変更します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2274 E

LSM lsm_id Not Ready.Manual Intervention Required.

説明: 識別子 *lsm_id* の LSM の準備ができていません。ドアが開いている、カートリッジが LSM ハンドで動かなくなっているなどの理由が考えられます。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応: LSM ハンドを確認し、カートリッジを手動で取り出します。LSM のドアが閉じていることを確認します。

2275 E

Cartridge stuck in pass-thru port.Please vary any LSM in ACS acs_id offline and back online again to recover the cartridge.

説明: カートリッジが ACS *acs_id* のパススルーポートで動かなくなっています。メッセージで指摘された ACS の LSM をオフラインに変更し、オンラインに戻してカートリッジを回復します。

変数: *acs_id* は ACS 識別子です。

ユーザーの対応: メッセージで指定された ACS の LSM をオフラインに変更し、オンラインに戻してカートリッジを回復します。

2276 W

LSM lsm_id could not recover volume vol_id.

説明: LSM の 1 つがカートリッジを回復できませんでした。

変数:

- *lsm_id* は LSM 識別子です。
- *vol_id* はカートリッジのボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。オンラインに戻るときに L700e ペアのもう一方の LSM によって、カートリッジを回復できる可能性があります。

2777 I

LSM lsm_id received Unit Attention Sense: sense_code (sense_desc).

説明: SCSI デバイスが LSM *lsm_id* に対してセンスコードを返しました。

変数:

- *lsm_id* は LSM 識別子です。

- *sense_code* は SCSI デバイスから返されたセンスコードです。
- *sense_desc* は返されたセンスコードの簡単な説明です。

ユーザーの対応: なし。

2278 W

LSM lsm_id received Sense: sense_code (sense_desc).

説明: SCSI デバイスが LSM *lsm_id* に対してセンスコードを返しました。

変数:

- *lsm_id* は LSM 識別子です。
- *sense_code* は SCSI デバイスから返されたセンスコードです。
- *sense_desc* は返されたセンスコードの簡単な説明です。

ユーザーの対応: ライブラリに表示されたステータス情報をすべて記録します。LSM の IPL を実行します。ACSLs で LSM をオンラインに変更します。問題が存続する場合は、Oracle Support に連絡します

2280 E

DB status [err_num] detected on delete from clienttable.

説明: データベースからクライアントレコードを削除しようとしたが失敗しました。

変数: *err_num* はエラー番号です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2281 E

Exec SQL lock timeout on delete from clienttable.

説明: ロックされたクライアントレコードをデータベースから削除しようとしたが失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。問題

が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2283 E

Unexpected resource type rsc_type and resource status rsc_status.

説明: リソースタイプとリソースステータスの予期しない一致を検出しました。

変数:

- *rsc_type* はリソースタイプの値です。
- *rsc_status* はリソースステータスの値です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2284 I

Status of lib_cmpnt cmpnt_id is changed to status.

説明: 0,0 (*lsm_id*), 0,0,0 (*cap_id*), 0,0,7,1 (*drive_id*) などの識別子 *cmpnt_id* を持つ LSM、CAP、または DRIVE などのライブラリコンポーネントのステータスが、*status* に変更されました。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、0,0 (*lsm_id*), 0,0,0 (*cap_id*), 0,0,7,1 (*drive_id*) などのライブラリコンポーネント識別子です。
- *status* は新しいステータス値です。

ユーザーの対応: なし。

2285 E

Invalid lib_cmpnt cmpnt_id received in a message from module_type; dropping message.

説明: このメッセージは、無効なコンポーネント識別子を含むメッセージを *acsmon* が受信したことを示しています。メッセージは削除され、通常の処理が継続されます。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。

- *cmpnt_id* は、0,0 (*lsm_id*)、0,0,0 (*cap_id*)、0,0,7,1 (*drive_id*) などのライブラリコンポーネント識別子です。
- *module_type* はメッセージを送信したモジュールの名前です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2287 I

Serial number of lib_cmpnt cmpnt_id changed to serial_num.

説明: このメッセージは、LSM や DRIVE などのライブラリコンポーネントで、0,0 (*lsm_id*) や 0,0,7,1 (*drive_id*) などの識別子 *cmpnt_id* を持つコンポーネントのシリアル番号が変更されたことを示しています。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、0,0 (*lsm_id*) や 0,0,7,1 (*drive_id*) などのライブラリコンポーネント識別子です。
- *serial_num* は新しいシリアル番号です。

ユーザーの対応: なし。

2288 E

EXEC SQL failed to create table_name, error = err_num

説明: 表 *table_name* を作成する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数:

- *table_name* は作成される表の名前です。
- *err_num* は ODBC によって返されたエラー番号です。

ユーザーの対応: データベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合は、システム管理者に連絡します。

2289 E

DB status [err_num] detected on delete for client id client_id

説明: データベースからクライアントレコードを削除しようとしたことが失敗しました。

変数:

- `err_num` はエラー番号です。
- `client_id` は削除されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2290 E

EXEC SQL lock timeout on delete from clienttable where client_id = cInt_id

説明: `clienttable` からクライアントレコードを削除する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数: `cInt_id` は削除されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。そうである場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2291 E

EXEC SQL delete from clienttable failed, where client_id = cInt_id

説明: ロックされているクライアントレコードを `clienttable` から削除しようとしたのですが、失敗しました。

変数: `cInt_id` は削除されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。そうである場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2292 E

EXEC SQL select client_id cInt_id from clienttable failed.

説明: `clienttable` からクライアントレコードを選択する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数: `cInt_id` は選択されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。そうである場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2293 E

EXEC SQL failed to open cursor.

説明: カーソルをオープンする SQL 文を準備する ODBC コールに失敗しました。

変数: *cursor* は SQL 文を実行するためのデータベースハンドルです。

ユーザーの対応: アプリケーションを再起動する必要があります。システム管理者に連絡します。

2295 I

Starting automatic backup to local disk.

説明: *rdm.acsss* の終了時にバックアップをテープに作成しないことを選択した場合、このメッセージが表示されます。この場合、ローカルディスクへの自動バックアップがトリガーされます。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2297 I

ACSSS services are running.To restore the database you must first shutdown ACSLS by running 'acsss db'.

説明: ACSSS サービスが実行中であることをデータベース復元ユーティリティーが発見しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS データベースを復元する前に、*acsdb* を除くすべての ACSLS サービスを終了する必要があります。これを行うには、*acsss db* を実行します。

2298 W

ACSLs is running.To stop the database, ACSLS must first be shutdown using 'idle' and 'kill.acsss'.Exiting.

説明: ACSLS の実行中にデータベースを停止しようとする、このエラーがログに記録されます。アプリケーションがそのデータベースとかなりの頻度で通信するため、この操作は許可

されません。データベースを停止する前に、ACSL S アプリケーションを停止する必要があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: コマンド `idle` および `kill.acsss` を実行して ACSLS を停止します。`db_command stop` を使用してデータベースサーバーを停止します。

2299 W

ACSL S is running.To run rdb.acsss, ACSLS must first be shutdown using 'idle' and 'kill.acsss'.Exiting.

説明: このメッセージは、ACSL S アプリケーションの実行中に `rdb.acsss` を使用してデータベースを回復しようとしたときに記録されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: コマンド `idle` および `kill.acsss` を実行して ACSLS を停止します。`db_command stop` を使用してデータベースサーバーを停止します。

2303 E

getenv failed for /"LSPID_FILE/" in mod_id at line line_number.

説明: 環境変数 `LSPID_FILE` (ACSL S が実行中であることを示す) の取得に失敗しました。

変数:

- `mod_id` はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- `line_number` はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2304 E

stat failed for \${LSPID_FILE} in mod_id at line line_number.errno is error_no: error

説明: `/tmp/acsss.pid` ファイルを見つけようとしたましたが、失敗しました。このプロセスがないと ACSLS は正常に実行できません。

変数:

- `mod_id` はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- `line_number` はエラーが検出された ACSLS コード内の場所です。

- `error_no` は `/tmp/acsss.pid` ファイルが存在しない場合に返されるエラー番号です。
- `error` は `error_no` のエラーメッセージのテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2305 I

ACSLs must be running to execute command

説明: 入力したコマンドは、アクティブな ACSLS セッションがないと実行できません。

変数: `command` はユーザーが入力したコマンドです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2306 I

Volume found in the library. Unable to delete, use EJECT.

説明: 削除対象のボリュームはカートリッジ回復コンポーネントで見つかったボリュームであるため、手動のボリューム削除リクエストは失敗しました。アクティブ LSM 内の検証可能なボリュームを削除するのに、手動のボリューム削除は使用できません。このような場合は、EJECT を使用して LSM からテープを取り出してください。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2307 W

Cartridge Recovery could not examine all recorded locations for this volume.

説明: カートリッジ回復コンポーネントは、リクエストされたボリュームがあるライブラリの場所のカタログを作成できませんでした。オフラインの LSM または通信していないドライブが原因である可能性があります。これらのボリュームを削除するにはユーザーの確認が必要になります。このメッセージは次の MSG 2308 とともに発行されます。元の手動ボリューム削除メッセージに `-n (no_confirm フラグ)` が含まれていた場合、このメッセージは抑制され確認されたものと見なされます。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2308 I

Do you really want to delete volume vol_id from the database? [yes|no]

説明: ボリュームが存在する可能性のあるすべてのライブラリの場所をカートリッジ回復コンポーネントが確認できない場合は常に、ユーザーの確認を求めるリクエストが発行されます (MSG 2307 を参照)。元の手動ボリューム削除メッセージに *-n* (no confirm フラグ) が含まれていた場合、このメッセージは抑制され確認されたものと見なされます。

変数: *vol_id* は削除がリクエストされたボリュームのシリアル番号です。

ユーザーの対応: なし。

2309 E

md_proc_init failure: status = status.

説明: エラーロギングのためにこのプロセスを登録する関数が失敗しました。

変数:

- *md_proc_init* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_ipc_create()* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2310 E

mod_id: atexit failure: errno = error_no: error_msg.

説明: 手動ボリューム削除プロセスの終了時にデータベースの切断関数または ipc 破棄ラッパー関数を実行するための登録に失敗すると、このメッセージが発行されます。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *error_no* は */tmp/acsss.pid* ファイルが存在しない場合に返されるエラー番号です。
- *error_msg* は *error_no* に対応するエラーメッセージのテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2311 E

mod_id: cl_db_connect failure: status = status.

説明: プログラムがデータベースの接続に失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_db_connect()* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2312 E

mod_id: c1_vol_read failure: status = status

説明: データベースからボリュームレコードを読み取ろうとしましたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_vol_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2313 E

mod_id: c1_cel_read failure: status = status.

説明: データベースからセルレコードを読み取ろうとしましたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_cel_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2314 E

mod_id: c1_lsm_read failure: status = status

説明: データベースから LSM レコードを読み取ろうとしましたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_lsm_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2315 E

mod_id: c1_drv_read failure: status = status.

説明: データベースからドライブレコードを読み取ろうとしましたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_drv_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2316 E

mod_id: c1_loc_read failure: status = status.

説明: データベースからロックレコードを読み取ろうとしましたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_loc_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2317 E

mod_id: c1_vac_read failure: status = status.

説明: データベースからボリュームアクセス制御レコードを読み取ろうとしましたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_vac_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2318 E

mod_id: c1_cel_destroy failure: status = status.

説明: データベースからボリュームレコードを削除しようとしたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *c1_cel_destroy* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2319 E

mod_id: c1_cel_write failure: status = status.

説明: データベース上のセルレコードを更新しようとしたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_cel_write* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2320 E

mod_id: cl_db_disconnect failure: status = status.

説明: データベースから切断しようとしたが失敗しました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_db_disconnect* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2321 E

mod_id: Cartridge Recovery failure: status = status

説明: カートリッジ回復 (ACSCR) コンポーネントからエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* はカートリッジ回復コンポーネント (ACSCR) から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2322 E

mod_id: cl_ipc_write failure: status = status.

説明: *cl_ipc_write* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_ipc_write* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2323 E

mod_id: cl_ipc_read failure: status = status.

説明: *cl_ipc_read* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_ipc_read* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2324 E

mod_id: cl_ipc_destroy failure: status = status.

説明: *cl_ipc_destroy* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_ipc_destroy* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2325 E

mod_id: cl_qm_init failure: status = status.

説明: *cl_qm_init* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *status* は *cl_qm_init* から返されたステータス値のテキストです。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2326 E

mod_id: cl_qm_qcreate failure: queue = queue_name

説明: *cl_qm_create* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *queue_name* は障害が発生した内部キューの名前です。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2327 E

mod_id: cl_qm_mcreate failure: queue = queue_name

説明: *cl_qm_mcreate* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *queue_name* は障害が発生した内部キューの名前です。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2328 E

mod_id: cl_qm_maccess failure: member = member_id

説明: *cl_qm_maccess* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *member_id* は障害が発生したキューメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2329 E

mod_id: cl_qm_mlocate failure: member = member_id

説明: *cl_qm_mlocate* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *member_id* は障害が発生したキューメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2330 E

mod_id: cl_qm_mdelete failure: member = member_id.

説明: *cl_qm_delete* 関数からエラーが返されました。

変数:

- *mod_id* はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- *member_id* は障害が発生したキューメンバーの識別子です。

ユーザーの対応: なし。メッセージの発行後プログラムは終了します。

2331 I

Unreadable label found in location_type location_id: logged as vol_id

説明: カートリッジ回復の実行中に、ラベルを読み取れないカートリッジが見つかりました。仮想ラベルを使用するカートリッジはこの場所で記録されませんでした。

変数:

- *location_type* は読み取れないラベルが検出された場所のタイプ (セル、ドライブ) です。
- *location_id* は場所固有の識別子 (*cell_id* または *drive_id*) です。
- *vol_id* は *UL@nnn* という形式で生成されるボリューム識別子で、*nnn* はカートリッジ回復の初期化時に 001 に設定され、読み取れないカートリッジを報告するたびインクリメントされます。場所がドライブの場合、このボリューム識別子がドライブレコードに記録されます。

ユーザーの対応: 読み取れないカートリッジはカートリッジ回復では取り出せません。この場所がドライブの場合、マウント解除時にカートリッジが処理されます。この場所がセルの場合、読み取れないカートリッジの物理的な取り出しが必要になります。監査を使用してセルを確認し、取り出しを完了できることがあります。

2332 I

Duplicate label found in location_type location_id: label=vol_id logged as dup_id

説明: カートリッジ回復の実行中に、重複が疑われるカートリッジが見つかりました。ほかのカートリッジを見つけているときに予期せずそのカートリッジが見つかり、その予期していなかったカートリッジの記録上のホームセルを確認すると、元のカートリッジと思われるカートリッジが含まれていました。

変数:

- *location_type* は読み取れないラベルが検出された場所のタイプ (セル、ドライブ) です。

- `location_id` は場所固有の識別子 (`cell_id` または `drive_id`) です。
- `vol_id` は重複が見つかったカートリッジのボリューム識別子です。見つかったラベルを読み取れない場合、これは仮想ラベルであることがあります。
- `dup_id` は `DL@nnn` という形式で生成されるボリューム識別子で、`nnn` はカートリッジ回復の初期化時に 001 に設定され、重複するカートリッジを報告するたびインクリメントされます。場所がドライブの場合、このボリューム識別子がドライブレコードに記録されます。

ユーザーの対応: 重複するカートリッジはカートリッジ回復では取り出せません。この場所がドライブの場合、マウント解除時にカートリッジが処理されます。この場所がセルの場合、重複するカートリッジの物理的な取り出しが必要になります。

メモ:

このカートリッジの取り出しに `eject` コマンドは使用できません。このコマンドでは重複するカートリッジではなく本来のカートリッジが取り出されてしまい、生成されたボリューム識別子のレコードは存在しないからです。

2334 I

Found volume vol_id in location will check home_cell_id when lsm lsm_id comes online.

説明: カートリッジ回復の実行中に、ストレージセルで予期しないカートリッジが見つかりました。そのカートリッジの記録上のホームセルを確認しようとしたところ、ホーム LSM がオフラインであるかアクセスできない状態であることが判明しました。このカートリッジは重複の可能性がありますが、重複であるかどうかは現時点では判定できませんでした。記録されているホームセルは予約済みになっているため、LSM がオンラインになったときにチェックされず。ボリュームレコードはそのボリュームが見つかった新しい場所を反映して更新されます。

変数:

- `vol_id` はカートリッジのボリューム識別子です。
- `location` はカートリッジが見つかった場所です。
- `home_cell_id` はそのカートリッジの記録上のホームセルです。
- `lsm_id` は記録上のホームセルが含まれている LSM の識別子です。

ユーザーの対応: なし。古いホームセルが含まれている LSM がオンラインになると、セルがチェックされてステータスが修正されます。

2335 I

Volume vol_id missing, home cell was cell_id, drive was drive_id, unable to examine location

説明: このテープカートリッジは、ACSLS が想定する場所で見つかりませんでした。ホームセルまたはドライブのいずれかを回復プロセス時に検査できませんでした。ACSLS が記録されているすべての場所の検査を終えるまで、このボリュームはステータスのない状態でデータベースに残されます。

変数:

- `vol_id` は欠落しているカートリッジのボリューム識別子です。
- `cell_id` は記録されているカートリッジのホームセルです。
- `drive_id` は記録されているカートリッジのドライブです。
- `location` は ACSLS が検査できなかった場所 (セル、ドライブ、またはセルとドライブ) です。

ユーザーの対応: 少なくとも 1 つの記録されている場所を検査できませんでした。LSM がオンラインになったときに、ACSLS はカートリッジの回復を自動的に試行します。次の場合、ステータスのない状態は解決されます。

- カートリッジ回復によって、記録されている場所の 1 つでカートリッジが発見された場合。ボリュームレコードはカートリッジの場所を反映して更新されます。
- 記録されているすべての場所をカートリッジ回復でチェックでき、カートリッジが見つからなかった場合。この場合は、ボリュームレコードが削除されます。
- データベースからボリュームレコードを削除するために手動ボリューム削除が使用されます。

2336 I

Volume vol_id was not found and will be deleted.

説明: このテープカートリッジは、ACSLS によって記録されたいずれの場所でも見つかりませんでした。ボリュームレコードはデータベースから削除されます。このメッセージのあとに 1054 I メッセージが表示され、記録されているこのボリュームのホームセルとドライブ ID が示されます。

変数: `vol_id` は削除されるカートリッジのボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2338 E

mod_id: Invalid volume id vol_id

説明: このメッセージは無効なボリューム ID が入力されたときに発行されます。

変数:

- `mod_id` はエラーメッセージを発行したモジュールの名前です。
- `vol_id` は見つからなかったボリュームの識別子です。

ユーザーの対応: 正しいボリューム ID を使用してコマンドを再入力します。

2339 E

Volume vol_id: Media type mismatch, recorded as media_type, read as media_type.

説明: 指定のボリュームのメディアタイプが、ボリュームの場所の物理カタログから返されたタイプとは異なるタイプでデータベースに記録されています。これはラベルの剥離を示唆している場合があります。

変数:

- `vol_id` はカートリッジ回復で見つかったボリュームのシリアル番号です。
- `media_type` はボリュームのメディアタイプの指示子です。

ユーザーの対応: カートリッジラベルの貼り直しが必要になる場合があります。オペレータの介入が必要になる場合があります。

2340 E

surr_main (PID #####): Unable to set SO_REUSEADDR on SURROGATE LISTENER socket NNNNN

説明: サロゲートメインルーチンは、`setsockopt()` システムコールを使用して `SO_REUSEADDR` オプションを設定できませんでした。これは指定のポート番号上にあるソケットを再利用 (存在する場合) できるようにするオプションで、ACSL S を停止後すぐに再起動する場合などに使用できます。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートがオプションを設定しようとしているポート番号です。

ユーザーの対応:

1. `setsockopt` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、追加の「ゾンビ」ACSL S プロセス (`ap s | grep acs` を使用) を強制終了します。

4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLS ホストをリポートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2341 E

`surr_main (PID #####): Unable to bind SURROGATE LISTENER socket NNNNN`

説明: サロゲートメインルーチンは、ゲートウェイからのリクエストを受け入れるために使用するメインリスナーソケットを `bind()` システムコールを使用してバインドできませんでした。各サロゲートには、バインドを実行しようとしている一意のポート番号があります。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが `bind()` を実行しようとしているポート番号です。

ユーザーの対応:

1. `bind()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、追加の「ゾンビ」ACSLS プロセス (`a ps | grep acs` を使用) を強制終了します。
4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLS ホストをリポートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2342 E

`surr_main (PID #####): Listen error on SURROGATE LISTENER socket NNNNN`

説明: サロゲートメインルーチンは、ゲートウェイからのリクエストを受け入れるために使用するメインリスナーソケットでの `listen()` システムコールを完了できませんでした。各サロゲート

には、`listen()` を実行しようとしている一意のポート番号があります。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが `listen()` を実行しようとしているポート番号です。

ユーザーの対応:

1. `listen()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、追加の「ゾンビ」ACSL S プロセス (`ap s | grep acs` を使用) を強制終了します。
4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSL S ホストをリブートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2343 I

```
PID ##### surr_main (PID #####): Surrogate listening on port NNNNN
SURROGATE_QUEUE_AGE is set to NN minutes SURROGATE_TIMEOUT is set to
NNN seconds TRACING is <ON/OFF> QUEUE currently has NN active requests.
```

説明: このメッセージは、ライブラリ管理ゲートウェイシステムから ACSLS リクエストを受信するためにサロゲートが待機しているソケットポートを示します。これはサロゲートが開始し、正常に作成され、バインドされ、ソケット上でアクティブに待機しているときに発行されます。また、`SURROGATE_QUEUE_AGE` および `SURROGATE_TIMEOUT` にプログラムが使用している現在の値が示されます。これら 2 つの変数および `SURROGATE_PORT` は、`acsss_config` プログラムで設定される動的な環境変数です。プログラムトレースが「on」と「off」のどちらかに設定されているのかも表示されます。最後に、現在キューにあるリクエストの数が表示されます。このメッセージは、プログラムが `SIGHUP` 信号 (`kill -hup #####` など) を受信するときにも表示されます。サロゲートは実行を続行します。

変数:

- ##### は、メッセージを発行するサロゲートのプロセス ID です。

- *NNNNN* は、サロゲートが待機しているポート番号です。
- *NN* は、*SURROGATE_QUEUE_AGE* が設定された分数です。
- *NNN* は、*SURROGATE_TIMEOUT* が有効になるまでの秒数です。
- *NN* は、*QUEUE* 内のアクティブなリクエスト数です

ユーザーの対応: なし。

2344 E

surr_main (PID #####): Socket initialization failed for SURROGATE LISTENER socket NNNNN; rc=XX

説明: サロゲートメインルーチンは、ライブラリ管理ゲートウェイからのリクエストを受け入れるために使用するメインリスナーソケットでの *listen()* システムコールを完了できませんでした。各サロゲートには、*listen()* を実行しようとしている一意のポート番号があります。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- *NNNNN* は、サロゲートが待機しようとしているポート番号です。
- *XX* は、*listen()* コールからのリターンコードです。

ユーザーの対応: これは、ハードワークまたはネットワークの障害の可能性があります。

1. *listen()* コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. *kill.acsss* コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、追加の「ゾンビ」ACSLs プロセス (*apss | grep acs* を使用) を強制終了します。
4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを *netstat -a | grep NNNNN* を使用して確認します。 *NNNNN* はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、*rc.acsss* コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLs ホストをリブートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2345 W

surr_handler (PID #####): Due to above error, packet is dropped & GATEWAY CONNECTED socket (NNNNN) closed.

説明: サロゲートハンドルーチンで先にエラーが発生したため、現在の ACSLS リクエストの実行を完了できませんでした。したがって、サロゲートは特定のリクエストパケットを強制的に中止して、ライブラリ管理ゲートウェイサーブレットと通信するために使用していたソケット (*GATEWAY CONNECTED* ソケット) を閉じます。このエラーはサロゲートに対する致命的エラーであるとはみなされません。PC サロゲートはソケットを閉じ、キューエントリを削除し、稼働し続けます。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが閉じたソケット番号です。

ユーザーの対応:

1. このエラーメッセージに先行する、パケットが破棄されてソケットが閉じる原因となったエラーメッセージを探します。
2. ゲートウェイ、アダプタ、およびクライアントマシンでその他の関連するエラーを探します。
3. 元のクライアントシステムから送信された ACSLS コマンドの特定を試みます。
4. 可能な場合は、サロゲート、ゲートウェイ、およびアダプタのトレースをオンにした状態で、違反しているコマンドを再度送信します。
5. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2346 E

surr_handler (PID #####): Write of ipc data to GATEWAY CONNECTED socket NNNNN failed..

説明: ライブラリ管理ゲートウェイサーブレットに接続されているソケット (*GATEWAY CONNECTED* ソケット) にデータを書き込もうとして、サロゲートハンドルーチンでエラーが発生しました。*write()* システムコールが失敗しました。これは、すべてのデータが書き込まれる前にソケットが途中で閉じたために発生した可能性があります。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが書き込もうとしているソケット番号です。

ユーザーの対応: これは、ハードワークまたはネットワークの障害の可能性ががあります。

1. このエラーメッセージに先行する、原因を示している可能性のある関連エラーメッセージを探します。
2. ゲートウェイ、アダプタ、およびクライアントマシンでその他の関連するエラーを探します。
3. 元のクライアントシステムから送信された ACSLS コマンドの特定を試みます。
4. 可能な場合は、サロゲート、ゲートウェイ、およびアダプタのトレースをオンにした状態で、違反しているコマンドを再度送信します。
5. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2347 E

surr_handler (PID #####): Wrote XX rather than YY bytes of data to GATEWAY CONNECTED socket NNNNN.

説明: ライブラリ管理ゲートウェイサブレットに接続されているソケット (GATEWAY CONNECTED ソケット) にデータを書き込もうとして、サロゲートハンドラルーチンでエラーが発生しました。*write()* システムコールは、予定バイト数をソケットに書き込めませんでした。これは、ソケットが途中で閉じたことが原因である可能性があります。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- XX は、*write()* システムコールによって返されたバイト数です。
- YY は、サロゲートプログラムがソケットに書き込もうとしたバイト数です。
- NNNNN は、サロゲートが書き込もうとしているソケット番号です。

ユーザーの対応:

1. このエラーメッセージに先行する、原因を示している可能性のある関連エラーメッセージを探します。
2. ゲートウェイ、アダプタ、およびクライアントマシンでその他の関連するエラーを探します。
3. 元のクライアントシステムから送信された ACSLS コマンドの特定を試みます。
4. 可能な場合は、サロゲート、ゲートウェイ、およびアダプタのトレースをオンにした状態で、違反しているコマンドを再度送信します。
5. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2348 E

```
surr_handler (PID #####): Unable to create a GATEWAY CONNECTED socket via ACCEPT (SURROGATE LISTENER NNNNN).
```

説明: サロゲートハンドラーチンは、ゲートウェイサーブレットからのリクエストを受け入れるために使用するメインリスナーソケットでの `accept()` システムコールを完了できませんでした。各サロゲートには、`listen()` を実行しようとしている一意のポート番号があります。`GATEWAY CONNECTED` ソケットと呼ばれる `accept()` コールが成功した結果、ゲートウェイサーブレットの新しいソケット接続が作成されます。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが待機しようとしているポート番号です。

ユーザーの対応: これは、ハードワークまたはネットワークの障害の可能性があります。

1. `accept()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、その他の「ゾンビ」ACSLS プロセス (`ps | grep acs` を使用) を、`kill -9` で適切な ID を指定して強制終了します。
4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLS ホストをリブートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2349 E

```
surr_read_socket (PID #####): Read failed on GATEWAY CONNECTED socket NNNNN
```

説明: サロゲート読み取りソケットルーチンは、ライブラリ管理ゲートウェイサーブレットからのリクエストを受け入れるために使用するソケットでの `read()` システムコールを完了できませんでした。各サロゲートには、`listen()` を実行しようとしている一意のポート番号があります。`GATEWAY CONNECTED` ソケットと呼ばれる `accept()` コールが成功した結果、ゲートウェイサーブレットの新しいソケット接続が作成されます。`GATEWAY CONNECTED` ソケットは閉じられ、IPC サロゲートは稼働し続けます。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが読み取ろうとしているポート番号です。

ユーザーの対応:

1. `read()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、その他の「ゾンビ」ACSLs プロセス (`ps | grep acs` を使用) を、`kill -9` で適切な ID を指定して強制終了します。
4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLs ホストをリブートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。これはコマンドのタイムアウトの結果である可能性があり、ネットワークタイムアウトパラメータを増加すると、条件が緩和されます。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2350 E

`surr_read_socket (PID #####): Read X bytes from GATEWAY CONNECTED socket (NNNNN) but expected Y`

説明: サロゲート読み取りソケットルーチンは、ライブラリ管理ゲートウェイサブレットからのリクエストを受け入れるために使用するソケットでの `read()` システムコールを完了できませんでした。各サロゲートには、`listen()` を実行しようとしている一意のポート番号があります。GATEWAY CONNECTED ソケットと呼ばれる `accept()` コールが成功した結果、ゲートウェイサブレットの新しいソケット接続が作成されます。Y バイトを読み取ろうとしましたが、X バイトしか読み取れませんでした。サロゲートは実行を続行します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートが読み取ろうとしているポート番号です。
- X は、正常に読み取られたバイト数です。
- Y は、読み取ろうとしていたバイト数です。

ユーザーの対応:

1. `read()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
3. 次に、その他の「ゾンビ」ACSLS プロセス (`ps | grep acs` を使用) を、`kill -9` で適切な ID を指定して強制終了します。
4. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
5. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLS ホストをリブートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。これはコマンドのタイムアウトの結果である可能性があり、ネットワークタイムアウトパラメータを増加すると、条件が緩和されます。
6. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2351 E

`surr_read_socket (PID #####): select() call failed GATEWAY CONNECTED socket (NNNNN)`

説明: サロゲートハンドラルーチンは、`select()` システムコールで失敗しました。このルーチンは、ライブラリ管理ゲートウェイサブレットからのリクエストを受け入れるために使用するソケット上、および `acs1m` プロセスと通信するために使用するソケット上でブロックします。各サロゲートには、`listen()` を実行しようとしている一意のポート番号があります。GATEWAY CONNECTED ソケットと呼ばれる `accept()` コールが成功した結果、ライブラリ管理ゲートウェイサブレットの新しいソケット接続が作成されます。IPC サロゲートは終了します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NNNNN は、サロゲートに接続された、サロゲートのポート番号です。

ユーザーの対応:

1. `select()` コールが失敗した理由を示している可能性のある関連エラーを探します。
2. `acs1m` プロセスが失敗したかどうかを確認します。
3. `netstat -a | grep NNNNN` を使用して、ゲートウェイポートを確認します。
4. `kill.acsss` コマンドを使用して ACSLS システムを強制終了します。
5. その他の「ゾンビ」ACSLS プロセス (`ps | grep acs` を使用) を、`kill -9` で適切な ID を指定して強制終了します。

6. ソケットが別のプロセスによって使用されていないかを `netstat -a | grep NNNNN` を使用して確認します。NNNNN はエラーメッセージに表示されたソケット番号です。
7. ソケットが使用中である場合は、数分待ち、ソケットがタイムアウトになることを確認します。次に、`rc.acsss` コマンドを使用して ACSLS を再起動します。ACSLS ホストをリポートしてハングしているソケットを解放する必要がある場合があります。
8. ソケット、ファイル記述子、またはその他のネットワークリソースで、超えている UNIX システム制限を探します。
9. これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2352 W

```
surr_handler (PID #####): COMMAND (ACK | INTERMEDIATE | FINAL)
response discarded because original socket connection is no longer on
the queue. Advise increasing SURROGATE_QUEUE_AGE.
```

説明: ACSLS ライブラリマネージャーは、示されている `COMMAND` についてサロゲートハンドラーに返信しましたが、サロゲートはキューで未処理のリクエストおよびソケット接続を見つけることができませんでした。唯一の代替方法は、問題を報告し、ライブラリマネージャーからの応答を破棄 (無視) することでした。これは、ライブラリがコマンドを実行する時間が長すぎるために起こることがあります。たとえば、ハードウェアエラー、ドライブがマウント前にクリーニングされた、カートリッジがリクエストされたドライブから遠すぎる (別の LSM など) といった条件のため、マウントまたはマウント解除にかかる時間が長すぎる可能性があります。数分の経過後 (`SURROGATE_QUEUE_AGE`)、キュー上のリクエストは失効していると思われる、キューから削除されます。最終的に、ライブラリがテープをマウントまたはマウント解除すると、ライブラリマネージャーからの `FINAL` 応答パケットをキューで見つけてクライアントに転送することができなくなります。サロゲートは実行を続行します。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- `COMMAND` は、サロゲートが未処理のリクエストおよびソケット接続を見つけることができなかったときの ACS コマンドです。
- `SURROGATE_QUEUE_AGE` は、サロゲートがキューでリクエストを保持する時間を制御する動的な環境変数です。

ユーザーの対応:

1. ACS コマンドが遅延する原因となった可能性のある異常な条件を探します (上記の説明を参照)。

2. ハードウェアが正常に動作していないのか正しく構成されていないのかを判断します。
3. サロゲートがキューでリクエストを保持する時間を増加するには、`acsss_config` プログラムで `SURROGATE_QUEUE_AGE` 動的環境変数を増加します。
4. サロゲートを再起動して、変更を有効にします。

2353 E

surr_query_server (PID #####): Surrogate process unable to issue query server (NN seconds)

説明: サロゲートは、実行を開始してライブラリマネージャーがリクエストを受信できるようになってから、サロゲートがライブラリ管理ゲートウェイソケットからのリクエストの受け入れを開始する前に、`query server` リクエストをライブラリマネージャーに発行します。サロゲートは、サーバーが `RUN` または `RECOVERY` モードであることを期待しています。示されている秒数の待機後に、サロゲートは `query server` が完了できなかったと判断して放棄しました。サロゲートは異常終了し、`acsss_daemon` によって自動的に再起動します (最大 10 回)。

変数:

- ##### はエラーを発行したサロゲートのプロセス ID です。
- NN は、秒数です。

ユーザーの対応:

1. `acsss_event.log` で、`query server` リクエストを完了できない理由を説明している可能性のあるエラーを探します。
2. `cmd_proc` で `query server` リクエストを試行します。

2354 W

surr_query_server (PID #####): Surrogate waiting for ACSLS to come up

説明: サロゲートは、実行を開始してライブラリマネージャーがリクエストを受信できるようになってから、サロゲートがライブラリ管理ゲートウェイの待機ソケットを開いてリクエストの受け入れを開始する前に、`query server` リクエストをライブラリマネージャーに発行します。サロゲートは、サーバーが `RUN` または `RECOVERY` モードであることを期待しています。サロゲートは、クエリーサーバーが `RUN` または `RECOVERY` モードであることを返すまで、30 秒ごとにこのメッセージを発行します (最大 10 分間)。`RUN` または `RECOVERY` モードになると、サロゲートは起動し続けます。10 分が経過すると、サロゲートはエラー 2353 で異常終了します。これは、システムが `IDLE` モードで起動すると発生することがあります。

変数: ##### は、エラーを発行するサロゲートのプロセス ID です。

ユーザーの対応:

1. `acsss_event.log` で、`query server` が `RUN` または `RECOVERY` モードではない理由を説明している可能性のあるエラーを探します。
2. `cmd_proc` で `query server` リクエストを試行します。
3. `acsss_config` プログラムを使用して `ACSL` が `IDLE` モードで自動的に起動するように設定されているかどうかを確認します。
4. システムが `IDLE` モードである場合は、`START` コマンドを発行します。

2355 E

`ss_main: Too many SURROGATE processes specified through acsss_config .The maximum is 10 SURROGATE_Processes.`

説明: `acsss_daemon` は、開始するサロゲートプロセスの数を判別するために、`SURROGATE_PROCESSES` 動的環境変数を読み取ります。この数が 10 (最大許容数) を超えています。`ACSL` は終了します。

変数: `SURROGATE_PROCESSES` は、実行するサロゲートプロセスの数を制御する動的な環境変数です。

ユーザーの対応: 動的な環境変数 `SURROGATE_PROCESSES` の範囲が、サロゲートプログラムで現在サポートしているよりも大きく設定されています。`acsss_config` プログラムを使用して、`SURROGATE_PROCESSES` 変数を 10 未満の数値に定義します。

2356 W

`surr_handler (PID #####): NN surrogate requests (open socket) being processed; cannot accept more until some finish.Advise reducing SURROGATE_QUEUE_AGE.`

説明: サロゲートハンドラーは、ライブラリ管理ゲートウェイサーブレットからのリクエストを受け入れるために使用するメインリスナーソケットでの `accept()` システムコールを完了できませんでした。各 `SURROGATE` には、`listen()` を実行しようとしている一意のポート番号があります。成功した `accept()` コール (`GATEWAY CONNECTED` ソケットと呼ばれる) によって、ゲートウェイサーブレットの新しいソケット接続が作成されます。`accept()` システムコールによって返されるエラーコード (`errno`) およびメッセージは、`24 - TOO MANY OPEN FILES` です。

`SURROGATE` は、ライブラリ管理ゲートウェイによるサーブレットから `SURROGATE` ソケットへの接続試行を無視します。リクエストが完了して、オープンソケット接続が閉じられると、今後の接続試行は正常に完了します。`SURROGATE` は、このエラーで異常終了しません。ライブラリ管理ゲートウェイは接続試行を続けることができる (そして `acsss_event.log` が満杯に

なる)ため、このエラーメッセージは5分未満の頻度で `acsess_event.log` に表示されません。`SURROGATE` は実行を継続します。

変数:

- ##### は、エラーを発行する `SURROGATE` のプロセス ID です。
- `NN` は、オープンソケットの数です。
- `SURROGATE_QUEUE_AGE` は、リクエストがキューに残っている時間を制御する動的な環境変数です。

ユーザーの対応: 一般にこの問題は、ライブラリ管理ゲートウェイが ACSLS システムの処理できるより多くのリクエストを送信した (または送信が高速すぎた) という事、または ACSLS ライブラリシステムによるリクエストの処理が低速すぎることです。そのため、`SURROGATE` は、オープンファイル数 (ソケット数) の最大制限に達しました。

1. `acsess_event.log` で、ハードウェアまたは構成エラーを示している可能性のあるエラーを探します。
2. `cmd_proc` で `query request all` コマンドを試行して、ACSL S が未処理であるリクエスト数を確認します。
3. クライアントソフトウェアで多くのマウントまたはマウント解除リクエストが送信されているかどうかを確認します。
4. `SURROGATE` が未処理のリクエストをキューに保持する時間を削減する必要がある可能性があります。`acsess_config` プログラムで `SURROGATE_QUEUE_AGE` 動的環境変数を小さくします。
5. `SURROGATE` を再起動して、変更を有効にします。

2361 N

Volume vol_id: Media type incompatible with L5500. Not entered.

説明: このメッセージは、L5500 LSM のみに関係します。これは、L5500 CAP に互換性のないカートリッジを挿入しようとしたことを示します。LTO および 9840/9940 カートリッジのみが L5500 LSM と互換性があります。互換性のないメディアを挿入するリクエストは拒否されません。

変数: `vol_id` は、CAP に挿入されたボリュームです。

ユーザーの対応: カートリッジを CAP から取り出します。LTO または 9840/9940 カートリッジを置き換えます。

2362 N

Cell cell_id contains incompatible media: must be manually removed.

説明: このメッセージは、L5500 LSM のみに関係します。メッセージは、監査によって L5500 パネルで LTO カートリッジでも StorageTek 9840 または 9940 カートリッジでもないカートリッジが見つかったことを示します。LTO および 9840/9940 カートリッジのみが L5500 LSM と互換性があります。(これは、誰かが LSM を物理的に挿入し、パネル内にカートリッジを手動で配置したために発生した可能性があります。)

変数: *cell_id* は、L5500 内で互換性のないカートリッジが含まれるセルです。

ユーザーの対応: L5500 を手動で挿入し、互換性のないカートリッジを手動で取り除きます。

2364 W

Dropping remaining responses for command command, request sequence number request_seq_nbr from client client_IP_address because unable to return intermediate responses.

説明: ACSAPI クライアントは、ACSL S が複数の応答を返す原因となるリクエストを行いました。ACSL S CSI は、ネットワークの問題のため、またはクライアントが応答を受信しなかったため、応答の 1 つをクライアントアプリケーションに返すことができませんでした。このリクエストに対する応答の一部が不完全になるため、CSI はリクエストに対する残りの応答をすべて削除します。これによって、応答しないクライアントに残りの応答を再送しようとすることで CSI が妨げられないようにします。

リクエストに対するすべての応答が処理された場合、このメッセージのあとには、同じ *request_seq_nbr* を持つ 2366 または 2367 メッセージが続きます。

クライアントからの新しいリクエストはすべて処理され、応答がクライアントに返されます。指定されたリクエストに対する応答のみが削除されます。

変数:

- *command* は、*MOUNT* や *QUERY* などの削除されたリクエストです。
- *request_seq_nbr* は、リクエストを識別するためにクライアントシステムで SSI によって割り当てられたリクエストシーケンス番号です。
- *client_IP_address* は、リクエストを送信したクライアントシステムの IP アドレスです。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーの場合はありません。CSI は、すべてのクライアントアプリケーションからの新しいリクエストを引き続き処理します。

指定された IP アドレスのクライアントが応答を受信できなかった理由を判別します。クライアントのサーバーがリポートしたか、クライアントの SSI が終了したか、またはネットワークの間

題が発生した可能性があります。クライアントアプリケーションまたはネットワークの問題が解決された場合は、さらなるアクションは不要です。ACSL S は、クライアントからの新しいリクエストを引き続き処理します。

2365 W

Dropping remaining responses for command command, request sequence number request_seq_nbr from client client_IP_address. First response failed at time response_failed, and unable to return response_count responses since.

説明: ACSAPI クライアントは、ACSL S が複数の応答を返す原因となる監査、挿入、取り出し、またはイベント通知リクエストを行いました。ACSL S CSI は、ネットワークの問題のため、またはクライアントが応答を受信しなかったため、応答の 1 つをクライアントアプリケーションに返すことができませんでした。ACSL S CSI は、応答を引き続き返そうとしましたが、応答の再送の最大試行回数を超えました。CSI は、リクエストに対する残りの応答をすべて削除します。これによって、応答しないクライアントに残りの応答を再送しようとするので CSI が妨げられないようにします。

リクエストに対するすべての応答が処理された場合、このメッセージのあとには、同じ *request_seq_nbr* を持つ 2366 または 2367 メッセージが続きます。

クライアントからの新しいリクエストは、クライアントに返される応答とともにすべて処理されます。指定されたリクエストに対する応答のみが削除されます。

変数:

- *command* は、AUDIT や REGISTER などの削除されたリクエストです。
- *request_seq_nbr* は、リクエストを識別するためにクライアントシステムで SSI によって割り当てられたリクエストシーケンス番号です。
- *client_IP_address* は、リクエストを送信したクライアントシステムの IP アドレスです。
- *time_response_failed* は、応答を送信しようとして失敗した最初の時間です。
- *response_count* は、ACSL S が残りの応答を削除する前にクライアントに返すことができなかった応答の合計数です。

ユーザーの対応: ACSL S サーバーの場合はありません。CSI は、すべてのクライアントアプリケーションからの新しいリクエストを引き続き処理します。

指定された IP アドレスのクライアントが応答を受信できなかった理由を判別します。クライアントのサーバーがリブートしたか、クライアントの SSI が終了したか、またはネットワークの問題が発生した可能性があります。

クライアントアプリケーションまたはネットワークの問題が解決された場合は、さらなるアクションは不要です。ACSL S は、クライアントからの新しいリクエストを引き続き処理します。

2366 W

Unable to return response_count responses for command command, request sequence number request_seq_nbr from client client_IP_address. First response failed at time_response_failed

説明: ACSAPI クライアントは、ACSL S が複数の応答を返す原因となるリクエストを送信しました。ACSL S CSI は、ネットワークの問題のため、またはクライアントが応答を受信しなかったため、1 つ以上の応答をクライアントアプリケーションに返すことができませんでした。ACSL S CSI では最終的にリクエストに対する残りの応答が削除され、応答しないクライアントに残りの応答を再送しようとするので CSI が妨げられないようにします。

CSI がリクエストへの応答の削除を開始したときに、メッセージ 2364 または 2365 が報告されました。このメッセージは、リクエストへの最後の応答が処理されたあとで表示され、削除された応答の合計数を示します。*request_seq_nbr* で以前のメッセージを見つけることができます。

クライアントからの新しいリクエストは、クライアントに返される応答とともにすべて処理されます。指定されたリクエストに対する応答のみが削除されます。

変数:

- *response_count* は、ACSL S がクライアントに返すことができなかった応答の合計数です。
- *command* は、*DISPLAY* や *QUERY* などの削除されたリクエストです。
- *request_seq_nbr* は、リクエストを識別するためにクライアントシステムで SSI によって割り当てられたリクエストシーケンス番号です。
- *client_IP_address* は、リクエストを送信したクライアントシステムの IP アドレスです。
- *time_response_failed* は、応答を送信しようとして失敗した最初の時間です。

ユーザーの対応: ACSL S サーバーの場合はありません。CSI は、すべてのクライアントアプリケーションからの新しいリクエストを引き続き処理します。

指定された IP アドレスのクライアントが応答を受信できなかった理由を判別します。クライアントのサーバーがリブートしたか、クライアントの SSI が終了したか、またはネットワークの問題が発生した可能性があります。

クライアントアプリケーションまたはネットワークの問題が解決された場合は、さらなるアクションは不要です。ACSL S は、クライアントからの新しいリクエストを引き続き処理します。

2367 W

Unable to return response_count responses for command command, request sequence number request_seq_nbr from client client_IP_address. First response failed at time_response_failed. Final response never received and entry aged off queue.

説明: ACSAPI クライアントは、ACSL S が複数の応答を返す原因となるリクエストを送信しました。ACSL S CSI は、ネットワークの問題のため、またはクライアントが応答を受信しなかったため、1 つ以上の応答をクライアントアプリケーションに返すことができませんでした。ACSL S CSI では最終的にリクエストに対する残りの応答が削除され、応答しないクライアントに残りの応答を再送しようとするので CSI が妨げられないようにします。

CSI がリクエストへの応答の削除を開始したときに、メッセージ 2364 または 2365 が報告されました。このメッセージは、リクエストへの最後の応答が CSI に渡されなかったために表示されます。これは、削除された応答の合計数を示します。*request_seq_nbr* で以前のメッセージを見つけることができます。

クライアントからの新しいリクエストは、クライアントに返される応答とともにすべて処理されます。指定されたリクエストに対する応答のみが削除されます。

変数:

- *response_count* は、ACSL S がクライアントに返すことができなかった応答の合計数です。
- *command* は、*AUDIT* や *QUERY* などの削除されたリクエストです。
- *request_seq_nbr* は、リクエストを識別するためにクライアントシステムで SSI によって割り当てられたリクエストシーケンス番号です。
- *client_IP_address* は、リクエストを送信したクライアントシステムの IP アドレスです。
- *time_response_failed* は、応答を送信しようとして失敗した最初の時間です。

ユーザーの対応: ACSLS サーバーの場合はありません。CSI は、すべてのクライアントアプリケーションからの新しいリクエストを引き続き処理します。

指定された IP アドレスのクライアントが応答を受信できなかった理由を判別します。クライアントのサーバーがリブートしたか、クライアントの SSI が終了したか、またはネットワークの問題が発生した可能性があります。

クライアントアプリケーションまたはネットワークの問題が解決された場合は、さらなるアクションは不要です。ACSL S は、クライアントからの新しいリクエストを引き続き処理します。

2377 N

*ACS: acs_id; LMU error: Co_4400:st_parse_error: Request: request_type
Error: error_code - error_explanation*

説明: カートリッジ移動リクエストが関係しない ACSLS リクエストが失敗したとき、このメッセージは元のリクエストと失敗した理由の両方を説明します。このメッセージは、HLI 接続ライブラリ (SL8500、SL3000、9310 など) でのリクエストが失敗したときのみ報告します。頻繁に失敗する可能性のあるリクエストでイベントログが満杯になるのを回避するため、このメッセージでは次の障害が報告されません。

- 0310 - 解放リクエスト時に挿入を取り消しできない
- 0416 - リクエストが取り消された (処理中のリクエストが取り消されたとき)

変数:

- *acs_id* は、エラーが発生した ACS です
- *request_type* は、移動以外のリクエストのタイプです
- *error_code* は、内部の 4 桁のエラーコードです (2 桁のエラーカテゴリに続いて 2 桁のエラーコード)。
- *error_explanation* は、エラーを説明します。

ユーザーの対応: ACSLS は失敗したリクエストから自動的に回復します。そうでない場合、障害がクライアントアプリケーションに返されることがあります。このメッセージは、発生した内容、および問題の対処方法を理解するのに役立ちます。ライブラリアクションをリクエストした ACSLS コンポーネントは、障害応答を受信したときに、このメッセージに続いて関連メッセージを発行することがあります。

例:

次の Catalog (監査) 障害:

ACS:1

試行されたリクエスト: Catalog Cell - Catalog は、特定の場所 (セル、ドライブ、または CAP セル) を調べるためにライブラリに送信されるリクエストです。

```
2012-05-03 21:43:35 ACSLH[0]:  
2377 N Co_ProcessResponses.C 1 609  
ACS: 1; LMU error: Co_4400:st_parse_error:  
Request: Catalog Cell  
Error: 0401 - General procedure error: LSM is not ready
```

2378 N

ACS: acs_id; LMU error: Co_4400:st_parse_error: Error: error_code - error_explanation Request: request_type volser; vol_id, media domain: media_domain, media_type: media_type source: source_type source_location destination:destination_type destination_location stuck in location: stuck_location.

説明: ACSLS カートリッジ移動リクエストが失敗したとき、このメッセージは元のリクエストと失敗した理由の両方を説明します。ACSLs カートリッジ移動リクエストには、マウント、マウント解除、移動、挿入、取り出しが含まれます。このメッセージは、HLI 接続ライブラリ (SL8500、SL3000、9310 など) での移動リクエストが失敗したときのみ報告します。頻繁に失敗する可能性のあるリクエストでイベントログが満杯になるのを回避するため、このメッセージでは次の障害が報告されません。

- 0416 - リクエストが取り消された (処理中のリクエストが取り消されたとき)
- 0424 - ドライブが空である (マウント解除時)
- 0426 - ドライブが巻き戻されない (マウント解除時に返される。カートリッジをマウント解除するには、*force* オプションを指定します。)

変数:

- *acs_id* は、エラーが発生した ACS です。
- *error_code* は、内部の 4 桁のエラーコードです (2 桁のエラーカテゴリに続いて 2 桁のエラーコード)。
- *error_explanation* は、エラーを説明します。
- *request_type* は、移動リクエストのタイプです (マウント、マウント解除、移動、挿入、または取り出し)。
- *vol_id* は、移動するカートリッジのボリューム ID です。
- *media_domain* は、カートリッジのメディアドメインです (T10000 データの場合は T、LTO データカートリッジの場合は L など)。
- *media_type* は、カートリッジのメディアタイプです (T10000 データの場合は 1、LTO Gen 4 データカートリッジの場合は 4 など)。
- *source_type* は、移動の開始位置です。ソースタイプはセル、ドライブ、または CAP です。
- *source_location* は、移動のソース位置です。ソースの位置は、*cell (acs, lsm, panel, row, column)*、*drive (acs, lsm, panel, drive)*、または *CAP cell (acs, lsm, cap, row, column)* です。
- *destination_type* は、移動の終了位置です。宛先タイプはセル、ドライブ、または CAP です。

- *destination_location* は、移動の宛先位置です。宛先の位置は、*cell* (*acs, lsm, panel, row, column*)、*drive* (*acs, lsm, panel, drive*)、*drive w* 書き込み保護 (*acs, lsm, panel, drive*)、*CAP cell* (*acs, lsm, cap, row, column*) です。
- *stuck_location* で、失敗した移動のあとでカートリッジがソースに戻らなかった場合、*stuck in location*: 行が存在します。通常、ライブラリは、カートリッジをソースの位置に戻すことができます。次のようなスタック位置が表示されることがあります: *LSM* (*acs, lsm*) *Hand hand_nbr*、*LSM*(*acs, lsm*) *PTP Panel panel_nbr*、または *drive* (*acs, lsm, panel, drive*)。

ユーザーの対応: ACSLS は失敗した移動リクエストから自動的に回復します。そうでない場合、障害がクライアントアプリケーションに返されることがあります。このメッセージは、発生した内容、および問題の対処方法を理解するのに役立ちます。カートリッジ移動をリクエストした ACSLS コンポーネントは、障害応答を受信したときに、このメッセージに続いて関連メッセージを発行することがあります。

例: 以下のカートリッジ移動障害:

ACS: 0

エラー: マウント解除時 (次の行)、ドライブをアンロードできません。

試行した移動: *dismount, force* (*force* は、*rewind* および *unload* コマンドがドライブに送信されたという意味)。

関連するカートリッジ (LA9922)、メディアドメインおよびタイプ

ソースの位置 (試行した移動の開始) - ドライブ 0,0,1,8。

試行した移動の宛先 - セル 0,0,2,30,0

カートリッジは、ドライブ内でスタックしたままです (ドライブがカートリッジをアンロードできなかったため)。

2378 N Co_ProcessResponses.C 1 1389

ACS: 0; LMU error: Co_4400:st_parse_error:

Error: 0977 - LSM logical error: Unable to unload drive

Request: Dismount, forced rewind and unload

Volser: LA9922, media domain: 0, media type: P

Source: Drive 0,0,1,8

Destination: Cell 0,0,2,30,0

Stuck in location: Drive 0,0,1,8

2380 E

*Error di_status on SQL select * from logical_acs_table where logical_acs = logical_acs_id.*

説明: 指定された *logical_acs* を読み取ろうとして、予期しないエラーコードとともに失敗しました。

変数:

- *di_status* は、*logical_acs_table* での SQL select から返されたデータベースインタフェースのエラーステータスです。
- *logical_acs_id* は、SQL select が失敗した *logical_acs* です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2381 E

*Error di_status on SQL select * from logical_drive_table where physical_drive = drive_id.*

説明: 指定された物理ドライブと関連付けられている *logical_drive* を読み取ろうとして、予期しないエラーコードとともに失敗しました。

変数:

- *di_status* は、*logical_acs_table* での SQL select から返されたデータベースインタフェースのエラーステータスです。
- *drive_id* は、SQL select が失敗した *logical_drive* と関連付けられている物理ドライブ ID です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2382 E

*Error di_status on SQL select * from logical_drive_table where vol_id = vol_id.*

説明: 指定された論理ボリュームを読み取ろうとして、予期しないエラーコードとともに失敗しました。

変数:

- *di_status* は、*logical_acs_table* での SQL select から返されたデータベースインタフェースのエラーステータスです。
- *vol_id* は、SQL select が失敗したボリューム ID です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2383 E

Unexpected di_status: di_status received on update of logical_volume_table for volume vol_id

説明: 指定された論理ボリュームを更新しようとして、予期しないエラーコードとともに失敗しました。

変数:

- *di_status* は、*logical_acs_table* での SQL select から返されたデータベースインタフェースのエラーステータスです。
- *vol_id* は、SQL select が失敗したボリューム ID です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2384 W

*EXEC SQL Lock timeout on update of logical_volume_table * where volid = vol_id*

説明: データベースレコードのロック取得のタイムアウトにより、指定された論理ボリュームを更新しようとして失敗しました。

変数: *vol_id* は、SQL update が失敗したボリューム ID です。

ユーザーの対応: 操作を再試行します。データベースレコードのロックが解放されます。

2385 E

Error di_status on SQL update of logical_volume_table where vol_id = vol_id.

説明: 指定された論理ボリュームを更新しようとして、予期しないエラーコードとともに失敗しました。

変数:

- *di_status* は、*logical_acs_table* での SQL select から返されたデータベースインタフェースのエラーステータスです。
- *vol_id* は、SQL select が失敗したボリューム ID です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2386 W

No unassigned home cell locations in logical library logical_acs_id.

説明: この論理ライブラリで未割り当てのホームアドレスはありません。容量が増加されるか、またはその他の論理ボリュームが未割り当てになるか取り出されるまで、追加のボリュームは論理ライブラリに割り当てできません。論理ライブラリに割り当てられていて取り出されていたボリュームが物理 ACS に再度挿入される場合、容量が増加されるか、またはその他の論理ボリュームが取り出されるか未割り当てになるまで、そのボリュームは利用できません。

変数: *logical_acs_id* は、未割り当てのホームセル位置がない *logical_acs* です。

ユーザーの対応: 論理ライブラリを編集して論理ライブラリのセル容量を増加することで、論理ライブラリの容量を増加できます。論理ボリュームを論理ライブラリや物理ライブラリから取り出すことによって、またはボリュームを論理ライブラリから割り当て解除することによって、論理ボリュームのホームアドレスを解放できます。

2387 E

SQL select generate series for unassigned home address in logical _volume_table for logical library logical_acs_id, failed with di_status = di_status

説明: 指定された論理ライブラリ内の論理ボリュームで未割り当てのホームアドレスを決定しようとして、予期しないエラーコードとともに失敗しました。

変数:

- *logical_acs_id* は、未割り当てのホームアドレスを決定しようとして失敗した *logical_acs* です。
- *di_status* は、SQL 文から返されたデータベースインタフェースのエラーステータスです。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2400 E

EXEC SQL select failed on table table_name.

説明: テーブル *table_name* からレコードを選択する SQL 文を準備する ODBC コールに失敗しました。

変数: *table_name* は、レコードが選択されることになっていたテーブルの名前です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、データベースを再起動します。問題が続く場合は、システム管理者に連絡します。

2401 E

XML Error (error_message) with error code (code).

説明: XML 例外が発生しました。

変数:

- *error_message* は、XML 例外メッセージです
- *code* は、XML 例外からのエラーコードです。

ユーザーの対応: リクエスト内の XML の妥当性を確認します。

2402 E

XML Parsing Error (error_message).

説明: XML の解析中に SAX 例外が発生しました。

変数: *error_message* は、SAX 例外メッセージです。

ユーザーの対応: リクエスト内の XML の妥当性を確認します。

2403 E

Invalid DISPLAY type detected.

説明: 表示応答パケット内のタイプが無効です。

変数: なし。

ユーザーの対応: リクエスト XML、および表示プロセッサからの応答を保持します。問題が続く場合は、Oracle のサポートに連絡してください。

2404 I

Display tables could not be loaded.

説明: 構成中に表示参照テーブルをデータベースにロードできませんでした。

変数: なし。

ユーザーの対応: データベースを再起動します。問題が続く場合は、システム管理者に連絡します。

2405 E

EXEC SQL Cannot create database handle.

説明: データベースからレコードを格納するための変数を指定する ODBC コールが失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、データベースを再起動します。問題が続く場合は、システム管理者に連絡します。

2406 E

EXEC SQL Cannot register variables

説明: データベースからレコードを格納するための変数を指定する ODBC コールが失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動します。
2. 問題が続く場合は、データベースを再起動します。
3. 問題が続く場合は、システム管理者に連絡します。

2407 E

Unexpected XML parsing error occurred.

説明: XML4c API で予期しない解析エラーが発生しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、システム管理者に連絡します。問題が持続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2408 I

acsdisp failed, database query string too long.

説明: データベースにクエリーするにはデータベースクエリが長すぎるため、ODBC 経由で渡せません。

変数: なし。

ユーザーの対応: より短いクエリーを入力してください。

2409 E

Error while loading Module module_name.

説明: デバイスの使用中に *install_scsi_Linux.sh* スクリプトを実行しようとした。

変数: *module_name* は、モジュールの名前です。

ユーザーの対応:

1. すべてのデバイスの操作が完了するまで待機します。
2. *cmd_proc* から ACSLS サーバーをアイドル状態にします。
3. *kill.acsss* を使用して ACSLS サーバーを強制終了します。
4. *install_scsi_Linux.sh* を実行します。

2410 I

Module module_name successfully loaded.

説明: モジュールがロードされ、デバイスを接続する準備が整いました。

変数: *module_name* は、モジュールの名前です。

ユーザーの対応: なし。

2411 I

No SCSI medium changers are attached.

説明: この考えられる理由は、次のとおりです。

- SCSI デバイスがサーバーに接続されていません。
- SCSI デバイスは接続されていて、モジュールはロードされていますが、メディアチェンジャーデバイスを検出していません。

変数: なし。

ユーザーの対応: SCSI メディアチェンジャーを接続する場合:

- サーバーの電源を切ります。

- SCSI メディアチェンジャーを接続してから、サーバーをブートします。
- `install_scsi_Linux.sh` スクリプトを実行します。

2412 E

Could not generate major number for SCSI device.

説明: GNU/Linux には、256 個のメジャー番号 (0 - 255) という制限があります。これらはすべて、ほかのデバイスドライバによって使用されています。

変数: なし。

ユーザーの対応: `rmmmod` を使用して、不要なデバイスドライバモジュールを削除します。`install_scsi_Linux.sh` を実行します。

2413 I

Node node_name assigned for Model-model_name Channel-channel_num Id-id_num.

説明: この情報メッセージは、ハードウェアが GNU/Linux OS ファイルシステムにマップされる方法を説明します。指定された `channel_num` および `id_num` でサーバーに接続された SCSI メディアチェンジャーに割り当てられた、ファイルシステム上のノード名が表示されます。`acsss_config` を介して、この情報を使用して SCSI ライブラリを構成できます。

変数:

- `node_name` は、ファイルシステム上のノードの名前です。
- `model_name` は、サーバーに接続されている SCSI デバイスの名前です。
- `channel_num` は、SCSI バスに接続されたチャンネルを識別します。
- `id_num` は、SCSI デバイスに割り当てられた識別子を表します。

ユーザーの対応: なし。

2414 E

Failed to create the node_name.

説明: スクリプトは SCSI デバイス用の特殊ファイルの作成に失敗しました。

変数: `module_name` は、モジュールの名前です。

ユーザーの対応:

1. `rm` を使用して不要なノードを削除します。
2. `install_scsi_Linux.sh` を実行します

2415 E

Failed to remove the Module module_name.

説明: デバイスの使用中にスクリプトはモジュールを削除しようとしてしました。

変数: *module_name* は、モジュールの名前です。

ユーザーの対応:

1. すべてのデバイスの操作が完了するまで待機します。
2. *cmd_proc* から ACSLS サーバーをアイドル状態にします。
3. *kill.acsss* を使用して ACSLS サーバーを強制終了します。
4. *install_scsi_Linux.sh* を実行します。

2416 E

Device information file module_info_file not found.

説明: モジュールのロード中に *module_info_file* が見つからなかったか削除されました。

変数: *module_info_file* は、サーバーに接続された SCSI デバイスに関する情報が含まれているファイルの名前です。

ユーザーの対応:

1. *install_scsi_Linux.sh* を再度実行します。
2. サーバーをリブートします。

2420 E

EXEC SQL failed to fetch from cursor.

説明: *cursor* を使用してデータベースから行をフェッチする SQL 文を準備するための ODBC コールが失敗しました。

変数: *cursor* は SQL 文を実行するためのデータベースハンドルです。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動する必要があります。システム管理者に連絡します。

2421 W

DB status [err_num] detected on update for client id client_id.

説明: データベース内のクライアントレコードを更新しようとしてしましたが失敗しました。

変数:

- `err_num` はエラー番号です。
- `client_id` は更新されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2422 W

DB status [err_num] detected on insert for client id cInt_id.

説明: データベースにクライアントレコードを挿入しようとしたが失敗しました。

変数:

- `err_num` はエラー番号です。
- `cInt_id` は挿入されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します

2423 E

EXEC SQL failed to insert client_id cInt_id into clienttable.

説明: データベースにクライアントレコードを挿入する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数: `cInt_id` は挿入されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。

3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2424 E

EXEC SQL lock timeout on update of clienttable where client_id = cInt_id

説明: ロックされているクライアントレコードを clienttable から更新しようとしたますが、失敗しました。

変数: *cInt_id* は更新されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応:

1. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2425 E

EXEC SQL failed to update clienttable where client_id = cInt_id

説明: クライアントレコードを更新する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数: *cInt_id* は更新されるクライアントの識別子です。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2426 E

DB status [err_num] detected on operation for lib_cmpnt cmpnt_id

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0(*lmu_id*), 0,0,0 (*panel_id* または *ptp_id*), 0,0,0,0 (*hand_id*) など) のライブラリコンポーネント *lib_cmpnt* (LMU, PTP, HAND, PANEL など) の挿入、削除、更新などのデータベース操作を実行しようとして失敗しました。

変数:

- *err_num* はエラー番号です。
- *lib_cmpnt* は、LMU、PTP、HAND、PANEL などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*), 0,0,0,0(*hand_id*) など)。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2427 E

EXEC SQL lock timeout on delete from table_name where lib_cmpnt = cmpnt_id

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id*) または 0,0,0,0(*hand_id*) など) のライブラリコンポーネント *lib_cmpnt* (LMU、PTP、または HAND) について、*table_name* (*lmutable*、*ptptable*、または *handtable*) からロックされたレコードを削除しようとして失敗しました。

変数:

- *table_name* は、行が削除される必要のあるデータベーステーブルの名前です。
- *lib_cmpnt* は、LMU、PTP、HAND などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*) など)。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2428 E

EXEC SQL delete from table_name failed, where lib_cmpnt = cmpnt_id

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*) など) のライブラリコンポーネント (LMU、PTP、HAND など) について、*table_name* (*lmutable*、*ptptable*、*handtable* など) からレコードを削除する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数:

- *table_name* は、行が削除される必要のあるデータベーステーブルの名前です。
- *lib_cmpnt* は、LMU、PTP、HAND などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_name* は、行が削除される必要のあるデータベーステーブルの名前です。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2429 E

EXEC SQL select from table_name failed, where lib_cmpnt = cmpnt_id

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*) など) のライブラリコンポーネント (LMU、PTP、または HAND) について、*table_name* (*lmutable*、*pttable*、*handtable* など) からレコードを選択する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数: *table_name* は、アクセス制御一時データベーステーブルの名前です。

オプションは次のとおりです。

- *clientinfo.temp*: これは、IP アドレスをクライアントユーザー名にマップします。これは、*internet.addresses* ファイルからロードされます。
- *lib_cmpnt* は、LMU、PTP、HAND などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*) など)。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

2430 E

Table table_name loading failed.

説明: ACSLS は、アクセス制御データベーステーブルを再構築する前に、アクセス制御データファイルを一時データベーステーブルにロードします。アクセス制御データファイルを指定された一時アクセス制御データベーステーブルにロードしようとして失敗しました。

変数: *table_name* は、アクセス制御一時データベーステーブルの名前です。

オプションは次のとおりです。

- *clientinfo.temp*: これは、IP アドレスをクライアントユーザー名にマップします。これは、*internet.addresses* ファイルからロードされます。
- *cmdaccess.temp*: コマンドアクセス制御の場合、これはユーザーにコマンドへのアクセスを付与します。これは、*command.COMMAND.allow* および *command.COMMAND.disallow* ファイルからロードされます。
- *volaccess.temp*: ボリュームアクセス制御の場合、これはあるユーザーのボリュームへのほかのユーザーによるアクセスを制御します。これは、*users.COMMAND.allow* ファイルからロードされます。
- *volownership.temp*: これは、ボリューム所有権を設定するためのポリシーを定義します。これは、*ownership.assignments* ファイルからロードされます。

ユーザーの対応:

1. ACSLS が実行中の場合、*acsss_config* をユーザー *acsss* として実行し、アクセス制御テーブルを再構築するためのオプションを選択します。
2. ACSLS が実行中でない場合、*acsss enable* を *user acsss* として実行します。
3. 問題が続く場合は、ロードしようとしているアクセス制御テーブルの重複するキーがある可能性があります。重複しているキーは、常に 2 つのフィールドの複合キーです。重複したキーを検索するには:
 - a. 特定のロード障害を識別するメッセージを */tmp/ac_err.log* で探します。
 - b. 影響を受けるファイル内で重複しているキーを検索します。

• *clientinfo.temp*: 複合キーは、*internet.addresses* ファイル内の IP アドレスとユーザー名 (ID) で構成されます。重複する IP アドレスとクライアント名は、*internet.addresses* ファイルをデータベースにロードするための準備でこのファイル进行处理するときに識別されている必要があります。

• *clientinfo.temp*: 複合キーは、*internet.addresses* ファイル内の IP アドレスとユーザー名 (ID) で構成されます。重複する IP アドレスとクライアント名は、*internet.addresses* ファイルをデータベースにロードするための準備でこのファイル进行处理するときに識別されている必要があります。

• `cmdaccess.temp`: 複合キーは、`command.ALL.allow`、`command.ALL.disallow`、`command.COMMAND.allow`、および `command.COMMAND.disallow` ファイルの各行からのコマンド名およびユーザー ID で構成されます

メモ:

`allow` および `disallow` は属性であり、キーの一部ではありません。`allow` と `disallow` の両方のファイル内に同じコマンドとユーザーの組み合わせがあると、重複しているキーが発生します。

• `volaccess.temp`: 複合キーは、`users.ALL.allow`、`users.ALL.allow`、`users.COMMAND.allow`、および `users.COMMAND.disallow` ファイルからの所有者 ID と各ユーザー ID で構成されます。

メモ:

`allow` および `disallow` は属性であり、キーの一部ではありません。`allow` と `disallow` の両方のファイル内に同じ所有者とユーザーの組み合わせがあると、重複しているキーの原因となります。重複しているキーは、1 人の所有者に対して同じユーザーが 2 回指定されているときも発生します。

• `volownership.temp: ownership.assignments` ファイル内で行が繰り返されている可能性があります。ファイルをデータベースにロードするための準備でこのファイルを処理するときに、問題が捕捉されている必要があります。

4. 重複しているキーを識別できない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。Oracle Support に問い合わせてください。

`acsss_config` を使用して `AC_CMD_ACCESS` および `AC_VOL_ACCESS` を `FALSE` に設定することで、アクセス制御を一時的に無効にできます。これにより、問題を診断している最中に ACSLS を有効にできます。

2431 E

Table table_name rebuilding failed.

説明: アクセス制御データベーステーブルが再構築される間にロックされるようにするため、ACSLS は、アクセス制御データファイルを一時データベーステーブルにロードし、この一時テーブルを使用してアクセス制御データベーステーブルを再構築します。このメッセージは、指定されたアクセス制御データベーステーブルを再構築する試行が失敗したことを示します。

変数: `table_name` は、ACSLS が再構築に失敗したアクセス制御一時データベーステーブルの名前です。

ユーザーの対応:

1. ACSLS が実行中の場合、`acsss_config` をユーザー `acsss` として実行し、アクセス制御テーブルを再構築するためのオプションを選択します。
2. 問題が続く場合は、問題を解決する方法の詳細についてメッセージ 2430 の情報を参照してください。
3. これでも問題を解決できない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2432 I

Access Control tables have been rebuilt.

説明: ACSLS は、アクセス制御テーブルの再構築に成功しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2440 E

EXEC SQL lock timeout: on insert into table_name,where identifier = id.

説明: `identifier` 識別子 (`client_id`、`lmu_id`、`ptp_id`、`panel_id` または `hand_id`) が `client1 (client_id)`、`0,0(lmu_id)`、`0,0,0(ptp_id)` または `panel_id`、または `0,0,0,0(hand_id)` である (`id` の値) ロックされたテーブル `table_name` (`clienttable`、`lmutable`、`ptptable`、`paneltable`、`handtable` など) にレコードを挿入しようとして失敗しました。

変数:

- `table_name` は行を挿入するデータベーステーブルの名前です。
- `identifier` は、`client_id`、`lmu_id`、`ptp_id`、`panel_id`、`hand_id` などの識別子です。
- `id` は、`client1(client_id)`、`0,0(lmu_id)`、`0,0,0(ptp_id)` または `panel_id`、`0,0,0,0(hand_id)` などの識別子の値です。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2441 E

EXEC SQL failed lock to insert into table_name, where identifier = id.

説明: *identifier* 識別子 (*lmu_id*、*ptp_id*、*panel_id*、または *hand_id*) が値 *id* (0,0(*lmu_id*)、0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*)、または 0,0,0,0(*hand_id*)) であるテーブル *table_name* (*lmutable*、*ptptable*、*paneltable*、*handtable* など) にレコードを挿入する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数:

- *table_name* は、行が削除される必要のあるデータベーステーブルの名前です。
- *identifier* は識別子です (*ptp_id*、*panel_id*、または *hand_id*)。
- *id* は、識別子の値です (0,0(*lmu_id*)、0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*)、0,0,0,0(*hand_id*))。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2442 E

EXEC SQL lock timeout: on update table_name, where identifier = id.

説明: *identifier* 識別子 (*lmu_id*、*ptp_id*、*panel_id*、または *hand_id*) の値が *id* (0,0(*lmu_id*)、0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*)、または 0,0,0,0(*hand_id*)) であるロックされたテーブル *table_name* (*lmutable*、*ptptable*、*paneltable*、または *handtable*) について、データベース内のレコードを更新しようとして失敗しました。

変数:

- *table_name* は、行が削除される必要のあるデータベーステーブルの名前です。
- *identifier* は、*lmu_id*、*ptp_id*、*panel_id*、*hand_id* などの識別子です。
- *id* は、識別子の値です (0,0(*lmu_id*)、0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*)、0,0,0,0(*hand_id*))。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。

3. 存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2443 E

EXEC SQL update of table_name failed, where identifier = id.

説明: *identifier* 識別子 *lmu_id*、*ptp_id*、*panel_id*、または *hand_id* が値 *id* (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*), または 0,0,0,0(*hand_id*)) であるテーブル *table_name* (*lmutable*、*ptptable*、*paneltable*、*handtable* など) について、データベース内のレコードを更新する SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数:

- *table_name* は、行が削除される必要のあるデータベーステーブルの名前です。
- *identifier* は識別子です (*lmu_id*、*ptp_id*、*panel_id*、または *hand_id*)。
- *id* は、識別子の値です (0,0(*lmu_id*), 0,0,0(*ptp_id* または *panel_id*), 0,0,0,0(*hand_id*))。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションサーバーを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合はデータベースを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
3. 存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2444 E

EXEC SQL fetch from handtable failed.

説明: *handtable* からレコードをフェッチする SQL 文を準備するための ODBC コールに失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応:

1. アプリケーションを再起動し、問題が存続するかどうかを確認します。
2. 存続する場合は、データベースを再起動します。
3. 問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集します。その後、Oracle Support に問い合わせてください。

2445 E

PTP *ptp_id, configuration failed to verify*

説明: ACSLS は、回復中にハードウェアとデータベースの間で不一致を検出しました。PTP 情報は、データベースに追加またはデータベースから削除される必要があります。

変数: PTP 識別子は、*ptp_id* です。

ユーザーの対応: 回復処理が終了したあと、ライブラリサーバー *acsss_config* プログラムを再実行して、データベース内のライブラリ構成を再定義します (使用しているプラットフォーム用の管理者ガイドを参照)。

2446 E**HAND** *hand_id, configuration failed to verify*

説明: ACSLS は、回復中にハードウェアとデータベースの間で不一致を検出しました。ハンド情報は、データベースに追加またはデータベースから削除される必要があります。

変数: HAND 識別子は、*hand_id* です。

ユーザーの対応: 回復処理が終了したあと、ライブラリサーバー *acsss_config* プログラムを再実行して、データベース内のライブラリ構成を再定義します (使用しているプラットフォーム用の管理者ガイドを参照)。

2447 I**lib_cmpnt** *cmpnt_id is operative.*

変数:

- *lib_cmpnt* は、PTP、HAND、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です
(0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*), 0,0,0(*cap_id*), 0,0,7,1(*drive_id*) など)。

ユーザーの対応: なし。

2448 W**lib_cmpnt** *cmpnt_id is inoperative.*

説明: このメッセージは、識別子 *cmpnt_id* が 0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*), 0,0,0(*cap_id*), または 0,0,7,1(*drive_id*) であるライブラリコンポーネント *lib_cmpnt* (PTP、HAND、DRIVE、CAP など) が動作不能になったときに発行されます。

変数:

- *lib_cmpnt* は、PTP、HAND、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です
(0,0,0(*ptp_id*), 0,0,0,0(*hand_id*), 0,0,0(*cap_id*), 0,0,7,1(*drive_id*) など)。

ユーザーの対応: なし。

2449 I

CAP CAP_id: CAP closed.

説明: 値 *CAP_id* の CAP が閉じられました。

変数: *CAP_id* は閉じられた CAP です。

ユーザーの対応: なし。

2450 I

lib_cmpnt cmpnt_id serial number changed.

説明: このメッセージは、識別子 *cmpnt_id* (0,0(*lsm_id*), 0,0,7,1(*drive_id*) など) のライブラリコンポーネント (LSM または DRIVE) のシリアル番号に変更があったことを示します。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM、DRIVE などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、0,0 (*lsm_id*) や 0,0,7,1 (*drive_id*) などのライブラリコンポーネント識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2451 I

Drive drive_id type changed.

説明: 値 *drive_id* の DRIVE 識別子のタイプが変更されました。

変数: *drive_id* は、DRIVE 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2452 I

LMU lmu_id type changed.

説明: 値 *lmu_id* の LMU 識別子のタイプが変更されました。

変数: *lmu_id* は、LMU 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2453 I

LSM lsm_id type changed.

説明: 値 *lsm_id* の LSM 識別子のタイプが変更されました。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子の値です

ユーザーの対応: なし。

2454 I

lib_cmpnt cmpnt_id added.

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0,7,1(*drive_id*) など) のライブラリコンポーネント (DRIVE など) がデータベースに追加されました。

変数:

- *lib_cmpnt* は、DRIVE などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* はライブラリコンポーネントの識別子 (0,0,7,1(*drive_id*) など) です。

ユーザーの対応: なし。

2455 I

lib_cmpnt cmpnt_id removed.

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0,7,1(*drive_id*) など) のライブラリコンポーネント (DRIVE など) が削除されました。

変数:

- *lib_cmpnt* は、DRIVE などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* はライブラリコンポーネントの識別子 (0,0,7,1(*drive_id*) など) です。

ユーザーの対応: なし。

2456 W

lib_cmpnt cmpnt_id maintenance required.

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0,0(*lsm_id*) など) のライブラリコンポーネント (LSM など) が保守モードになっています。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* はライブラリコンポーネントの識別子 (0,0 (*lsm_id*) など) です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、サポートに連絡します。

2457 I

lib_cmpnt cmpnt_id HLI Compatibility Level changed.

説明: 識別子 *cmpnt_id* (0(*acs_id*), 0,0(*lmu_id*) など) のライブラリコンポーネント (ACS、LMU など) の HLI 互換性レベルが変更されました。

変数:

- *lib_cmpnt* は、ACS、LMU などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、*acs_id* や *lmu_id* などのライブラリコンポーネント識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2458 I

LMU lmu_id is now standalone.

説明: 値が *lmu_id* の LMU のステータスは、スタンドアロン LMU のステータスです。

変数: *lmu_id* は、LMU 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2459 I

LMU lmu_id is now active.

説明: 値が *lmu_id* の LMU のステータスは、アクティブ LMU のステータスです。

変数: *lmu_id* は、LMU 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2460 I

LMU lmu_id is now standby.

説明: 値が *lmu_id* の LMU のステータスは、スタンバイ LMU のステータスです。

変数: *lmu_id* は、LMU 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2461 I

Server system configuration changed.

説明: このメッセージは、サーバーシステム構成が変更されたときに発行されます。

ユーザーの対応: なし。

2462 I

Volume vol_id entered.

説明: このメッセージは、値 *vol_id* のボリュームがライブラリに挿入されたときに発行されます。

変数: *vol_id* は、ボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2463 I

Volume vol_id reactivated.

説明: このメッセージは、存在しなかった値 *vol_id* のボリュームが再アクティブ化されたときに発行されます。

変数: *vol_id* は、ボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2464 I

Volume vol_id ejected.

説明: このメッセージは、値 *vol_id* のボリュームがライブラリから取り出されたときに発行されます。

変数: *vol_id* は、ボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2465 I

Volume vol_id absent.

説明: このメッセージは、値 *vol_id* のボリュームが存在しないとマークされたときに発行されます。

変数: *vol_id* は、ボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2466 W

Cleaning cartridge vol_id usage limit exceeded.

説明: 値 *vol_id* のクリーニングカートリッジは、最大使用上限を超えました。

変数: *vol_id* は、ボリューム識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2467 I

Cleaning cartridge vol_id is spent.

説明: 値 *vol_id* のクリーニングカートリッジのクリーニング容量が消費されました (使い果たされました)。クリーニングカートリッジの使用状況は、その最大使用を超えて更新され、消費済みクリーニングカートリッジとしてマークされます。

変数: *vol_id* はクリーニングカートリッジの識別子です。

ユーザーの対応: クリーニングカートリッジを取り出します。

2468 E

lib_cmpnt cmpnt_id reported a Unit Attention.

説明: ライブラリコンポーネントのエラーが報告されました。このメッセージは、イベント通知コンポーネントからのものです。問題の詳細は、先行するメッセージを参照してください。ライブラリコンポーネントは Unit Attention Status が報告されたあとも引き続き動作しますが、機能低下モードになることがあります。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です (*lsm_id*、*cap_id*、*drive_id* など)。

ユーザーの対応: 以前のメッセージで報告された具体的なステータスを確認し、報告された問題に対応します。これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2469 E

lib_cmpnt cmpnt_id reported a hardware error.

説明: LSM は、ハードウェアエラーを報告しました。このメッセージは、イベント通知コンポーネントからのものです。具体的なハードウェアエラーを報告する、ACSLH *scsilh* からの先行するメッセージを探します。ライブラリコンポーネントはハードウェアエラーが報告されたあとも引き続き動作しますが、機能低下モードになることがあります。

変数:

- *lib_cmpnt* は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- *cmpnt_id* は、ライブラリコンポーネントの識別子です (*lsm_id*、*cap_id*、*drive_id* など)。

ユーザーの対応: 以前に報告された具体的なステータスを確認し、報告された問題に対応します。これによって問題が修正されない場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2470 I

LSM lsm_id access door closed..

説明: 値 *lsm_id* の LSM のアクセスドアが閉じられました。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2471 I

LSM lsm_id access door opened.

説明: 値 *lsm_id* の LSM のアクセスドアが開きました。

変数: *lsm_id* は LSM 識別子の値です。

ユーザーの対応: なし。

2473 E

Failed to add lib_cmpnt cmpnt_id into the examine list.

説明: ACSLS は、ライブラリコンポーネント (LSM、CAP、DRIVE など) を検査するときに内部エラーを検出しました。再帰的な検査を回避するために、検査される各コンポーネントはリストに追加されます。このエラーは、メモリー割り当ての障害によってコンポーネントをリストに追加できないときに報告されます。

変数:

- `lib_cmpnt` は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- `cmpnt_id` は、ライブラリコンポーネントの識別子です (`lsm_id`、`cap_id`、`drive_id` など)。

ユーザーの対応:

- ACSLS を再起動します - エラーの報告が持続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2474 E

Failed to delete lib_cmpnt cmpnt_id from the examine list.

説明: ACSLS は、ライブラリコンポーネント (LSM、CAP、DRIVE など) を検査するときに内部エラーを検出しました。コンポーネントは、検査が完了したときに検査リストから削除されません。このエラーメッセージは、コンポーネントがリストから削除されていないことを示します。

変数:

- `lib_cmpnt` は、LSM、DRIVE、CAP などのライブラリコンポーネントタイプです。
- `cmpnt_id` は、ライブラリコンポーネントの識別子です (`lsm_id`、`cap_id`、`drive_id` など)。

ユーザーの対応: 示されているコンポーネントをチェックして、`vary` が問題を修正できるかどうかを確認します。エラーが持続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2475 I

Volume vol_id found in location_type location_id, reactivated with type=vol_type access_count=access_count pool=pool_id owner=owner_id.

説明: 指定されたボリュームはデータベースで存在しないまたは取り出し済みとしてマークされていましたが、ACSLS はそれをライブラリ内で見つけました。ボリュームは再アクティブ化され、重要な情報は保持されています。

変数:

- `vol_id` は、存在しないまたは取り出し済みのボリュームです。
- `location_type` は、カートリッジが見つかった場所タイプ (ドライブまたはセル) です。
- `location_id` は、ACSLS がカートリッジを見つけた具体的な `drive_id` または `cell_id` です。
- `vol_type` は、ボリュームタイプ (データ、スクラッチ、またはクリーニング) です。

- `access_count` は、ボリュームが存在しないとマークされる前のアクセス数です。
- `pool_id` は、ボリュームが存在しないとマークされる前に属していた `pool_id` です。
- `owner_id` は、ボリュームが存在しないとマークされる前の所有者です。

ユーザーの対応: なし。

2476 W

Volume vol_id, not found in location_type location_id and was marked absent.

説明: 各ボリュームにはホームセルがあり、ACSL S はそれをドライブにマウント済みであると記録できます。ACSL S は、指定されたボリュームを記録された場所で見つけることができず、重要な情報を保持するためにデータベースで存在しないとマークしました。

変数:

- `vol_id` は、存在しないボリュームです。
- `location_type` は、ボリュームが記録されたのに ACSL S が見つけることができなかった場所タイプ (ドライブまたはセル) です。
- `location_id` は、ボリュームが記録されたのに見つけられなかった具体的な `drive_id` または `cell_id` です。

ユーザーの対応: なし。ACS または LSM の監査によって存在しないボリュームが見つかることがあります。

2477 W

LSM lsm_id is full; volume vol_id cannot be recovered and is marked absent.

説明: ACSL S は LSM の回復中にプレイグラウンド/移動中のセルまたは PCP セルでこのボリュームを検出しました。この LSM 内の新しいホームセルにボリュームを移動することによってボリュームを回復しようとしていました。ただし、LSM が満杯であったためボリュームは回復できず、このボリュームはデータベースで存在しないとしてマークされました。

変数:

- `lsm_id` は回復している LSM を識別します。
- `vol_id` は、存在しないボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. LSM からボリュームを取り出します。

2. LSM をオフラインにしてからオンラインに戻し、ボリュームを回復します。

2478 W

LSM Misplaced cartridge detected, volume vol_id cannot be recovered and is marked absent.

説明: ACSLS は LSM の回復中にプレイグラウンド/移動中のセルまたは PCP セルでこのボリュームを検出しました。この LSM 内の新しいホームセルにボリュームを移動することによってボリュームを回復しようとしていました。しかし、宛先セルにカートリッジが含まれていたため移動は失敗しました。ボリュームは回復されず、データベースで存在しないとしてマークされています

変数: *vol_id* は存在しないボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. 問題が間違って配置されたカートリッジではないことを確認します。
2. そうでない場合は、ライブラリの実際の内容を表示するために、LSM を監査して ACSLS データベースを更新します。
3. LSM をオフラインにしてからオンラインに戻し、ボリュームを回復します。

2479 I

Volume identifier vol_id already found absent.

説明: 手動ボリューム削除ユーティリティー (*del_vol*) はデータベースで存在しないとしてすでにマークされているボリュームに対して実行されましたが、削除オプション (*-d*) が指定されませんでした。ボリュームは存在しないステータスのままです。

変数: *vol_id* は存在しないボリュームを識別します。

ユーザーの対応: なし。

2480 E

EXEC SQL Unable to mark volume vol_id as absent because of a database error.

説明: ACSLS はライブラリのボリュームを検出できませんでした。存在しないとしてマークを付けようとしていましたが、ACSL S データベースインタフェースは *volumetable* 更新に異常ステータスを返しました。データベースの更新に失敗しました。

変数: *vol_id* は存在しないボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. ACSLS を停止します (*kill.acsss*)。
2. データベースを停止します (*db_command stop*)。
3. ハングしている ACSLS プロセスを停止します。
4. ACSLS を再起動します (1 回)。
5. 問題が解決しない場合は、テーブル *volumetable* が存在し、*acsss* ユーザーにそのテーブルを更新するための適切な権限があることを確認する必要があります。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2481 E

EXEC SQL Unable to mark volume vol_id as ejected because of a database error.

説明: ACSLS はボリュームを取り出し、「取り出し済み」としてマークしようとした。ACSLS データベースインタフェースは、*volumetable* 更新に対して異常ステータスを返しました。データベースの更新に失敗しました。

変数: *vol_id* は取り出し済みボリュームを識別します。

ユーザーの対応:

1. ACSLS を停止します (*kill.acsss*)。
2. データベースを停止します (*db_command stop*)。
3. ハングしている ACSLS プロセスを停止します。
4. ACSLS を再起動します (1 回)。
5. 問題が解決しない場合は、テーブル *volumetable* が存在し、*acsss* ユーザーにそのテーブルを更新するための適切な権限があることを確認する必要があります。関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

2482 E

Volume vol_id was not found and will be marked absent.

説明: ACSLS は、指定されたボリュームをホームセルで見つけませんでした。ボリュームがドライブにマウント済みであると記録された場合、ACSLS はそれをドライブで見つけませんでした。ボリュームは、データベースで存在しないとマークされます。ACS または LSM の監査によって存在しないボリュームが見つかることがあります。

変数: *vol_id* は、ACSLS が見つけなかったボリュームを識別します。

ユーザーの対応: なし。

2483 I

program: Will attempt to dismount volume vol_id from drive drive_id.

説明: このメッセージは、失敗したマウントリクエスト中にカートリッジがドライブ内でスタックしている可能性のある状態が発生したときに発行されます。マウント解除は、カートリッジおよびドライブの回復を試みます。

変数:

- *program* は、メッセージを発行したプログラムです。
- *vol_id* は、このマウントリクエストにおけるボリュームの識別子です。
- *drive_id* は、このマウントリクエストにおけるドライブの識別子です。

ユーザーの対応: なし。ドライブを回復するために、マウント解除の強制実行リクエストが自動的に生成されます。

2488 E

EXEC SQL lock timeout on delete from table.

説明: データベースからロックされたレコードを削除しようとしたが失敗しました。

変数: *table* は、ロックされたテーブルの名前です

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、データベースを再起動します。

2489 E

EXEC SQL delete from table failed.

説明: *table* からレコードを削除しようとして失敗しました。

変数: *table* は、テーブルの名前です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します - 問題が存続する場合は、データベースを再起動します。

2490 E

EXEC SQL select count(col_name) from table failed.

説明: *table* からのレコード数を数えようとして失敗しました。

変数:

- *col_name* は、テーブル内のいずれかの列の名前です。
- *table* は、テーブルの名前です。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、データベースを再起動します

2500 E

Illegal value illegal_port_number.Must be numeric.

説明: ポート番号に入力した番号が非数値です。

変数: *illegal_port_number* は、インバウンド ACSLS クライアントリクエスト用の固定ポートとして使用するために入力された、無効なポート番号です (*acsss_config* 内)。

ユーザーの対応: 有効な数値の番号を入力します。

2501 E

Out-of-bounds value illegal_port_number:CSI_or SSI_INET_PORT.

説明: ACSLS CSI または SSI ネットワーキングコンポーネント用の正規のポート範囲外にある値を入力しました。

変数: *illegal_port_number* は、インバウンド ACSLS クライアントリクエスト用の固定ポートとして使用するために入力された、無効なポート番号です (*acsss_config* 内)。

ユーザーの対応: 1024 - 65535 の値を入力します。

2502 E

Unable to allocate socket for RPC TCP service.

説明: ACSLS は、ネットワーク通信用のソケットを割り当てできませんでした。原因は、一般にシステムリソース関連です (開いている記述子が多すぎるなど)。

変数: なし。

ユーザーの対応: システム管理者に問い合わせてください。

2503 E

Unable to set SO_REUSEADDR on socket.

説明: ACSLS は、ソケットを通信用に再利用できるようにするクリティカルフラグをソケットで変更できませんでした。これは、通常は、システムリソースの詳細に関連しています。

変数: なし。

ユーザーの対応: システム管理者に問い合わせてください

2504 E

Unable to bind socket to port port_number.

説明: これは、ポートがソケットにバインドされていなかったことを示します。主な原因は、ポートがすでに使用されていることが考えられます。

変数: *port_number* は、インバウンド ACSLS クライアントリクエスト用の固定ポートとして使用するために入力されたポート番号です (*acsss_config* 内)。

ユーザーの対応: ACSLS でネットワーク通信用に使用されるポート番号を別の (未使用の) ポートに変更してみます。システム管理者に問い合わせてください。

2505 E

Failed on attempt to get socket name.

説明: ACSLS は、ネットワーク通信用に使用されるソケットの名前を取得できませんでした。主な原因は、内部のシステム障害が考えられます。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動します。

2522 E

ACSL database backup area unavailable.

説明: リクエストされたバックアップディレクトリは使用できません。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2550 W

For volume vol_id, the home cell cell_id has an inconsistent cell status cell_status. ACSLS will recover the cartridge automatically.

説明: 指定されたボリュームをマウントしようとしたしましたが、ホームセルのステータスは整合性がありませんでした。ACSL は、カートリッジを自動的に回復します。

変数:

- *vol_id* は、マウントしようとしたボリュームを識別します。
- *cell_id* は、ボリュームのホームセルを識別します。

ユーザーの対応: なし。ACSL S はボリウムおよびホームセルを自動的に回復しようとし
ます

2551 I

Checking for LSM lsm_id status.

説明: このメッセージは、ACSL S の起動処理、または ACS、LSM、またはドライブをオンラインにする一環として、ライブラリハンドラが LSM ステータスリクエストをライブラリに送信するときに報告されます。

変数: *lsm_id* は、ライブラリからステータスがリクエストされた LSM を識別します。

ユーザーの対応: なし。このメッセージにより、顧客は ACSLS の起動またはライブラリのオンライン化の進行状況を追跡できます。

2552 I

*LSM lsm_id lsm_ready_status lsm_state access_door_status hand_n
operative_status, full_empty_status.*

変数:

- *lsm_id* は、ライブラリからステータスがリクエストされた LSM を識別します。
- *lsm_ready_status* は、LSM の Ready または Not Ready ステータスを記述します。
- *lsm_state* は、LSM のオンラインまたはオフライン状態を記述します。
- *access_door_status* は、アクセスドアのステータス (開いている、または閉じている) を記述します。
- *hand_n* は、LSM の各ロボットハンドを識別します。
- *operative_status* は、ハンドの動作可能または動作不能ステータスを記述します。
- *empty_full_status* は、ハンドの空またはフル状態を記述します。

ユーザーの対応: なし。このメッセージにより、顧客は ACSLS の起動またはライブラリのオンライン化の進行状況を追跡できます。

2553 E

*A drive in LSM acs_id,lsm_id is inoperative.Until this is corrected,
the drives in this LSM cannot come online.*

説明: SL8500 は、ACSL S からの「パネル別 LSM トランスポートステータス」リクエストに
応じて、「1002」エラー (ドライブ動作不能) を送信することがあります。

変数:

- *acs_id* は ACS 識別子です。
- *lsm_id* は LSM 識別子です。

ユーザーの対応:

1. 最新の SL8500 マイクロコードをインストールします。
2. これで問題が解決しない場合は、「1002」エラーの原因となっているドライブを特定し、そのドライブを取り外すか、動作可能なドライブと交換します。
3. 動作不能ドライブを取り外したり交換したりできない場合は、*acs_id*, *lsm_id* でオフラインであるドライブを使用しないでください。

2554 W

LSM lsm_id not found in the configuration.

説明: 指定された LSM が構成で見つかりませんでした。

変数: Module は、このメッセージを表示した ACSLS モジュールです。

- *lsm_id* は、構成で存在しない LSM です。

ユーザーの対応: なし。

2556 N

Module: config_command command canceled.

説明: 動的構成ユーティリティー *config_command* を取り消しました。

変数: 取消しコマンドを処理するモジュール。ここでは *cfg_main* です。

config_command は、取り消した具体的な動的構成リクエストです。次のいずれかが可能です。

- *config lsm lsm_id*。
- *config acs new*。
- *config acs acs_id*。
- *config acs acs_id delete*。
- *config* ポート *acs_id*。

ユーザーの対応: なし。動的構成コマンドをふたたび再入力できます。

2557 1

Module: Volume vol-id re-entered into library to cell location_id, reactivated with type=vol_type access_count=access_count pool=pool_id owner=owner_id..

説明: 指定されたボリュームはデータベースで存在しないまたは取り出し済みとしてマークされていましたが、ライブラリに再挿入しています。ボリュームは再アクティブ化され、その重要な情報は保持されました。

変数: Module は、このメッセージを表示した ACSLS モジュールです

- *vol_id* は、存在しないまたは取り出し済みのボリュームです。
- *module* はメッセージを表示した ACSLS モジュールです。
- *location_id* は、ACSLs が再挿入されているカートリッジを移動する、新しいホームロケーションです。
- *vol_type* は、ボリュームタイプ (データ、スクラッチ、またはクリーニング) です。
- *access_count* は、ボリュームが存在しないとマークされる前のアクセス数です。
- *pool_id* は、ボリュームが存在しないとマークされる前に属していた *pool_id* です。
- *owner_id* は、ボリュームが存在しないとマークされる前の所有者です。

ユーザーの対応: なし。

2558 N

Modifier: LSM READY received for LSM identifier lsm_id, Modifier modifier_number.

説明: LSM がオンラインに設定されました。

変数: Modifier は、このメッセージを表示した ACSLS モジュールです。

- *lsm_id* は、オンラインである LSM の LSM 識別子です。
- *modifier_number* は、LSM READY 修飾子であり、次の値を取ることができます。
 - 1 は、LSM Ready Normal です。
 - 2 は、LSM Recover Intransit cartridge です。
 - 3 は、LSM Ready with CAP Open です。

ユーザーの対応: なし。

2559 I

New robotic hand hand_id detected in LSM lsm_id; and added to the database.

説明: ACSLS は、LSM で新しいロボットハンドを検出し、このハンドをデータベースの `handtable` に追加しました。

メモ:

ロボットハンドがライブラリから削除されるときに、これらのハンドによるレコードはデータベースから削除されません。

変数: `lsm_id` は、LSM 識別子です。`hand_id` は、ハンド識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2560 E

DB status [db_status] detected on cap mode update.

説明: ACSLS データベースで `cap_mode` を手動に更新しようとして失敗しました。

変数: `db_status` は、データベースによって返されたステータスを識別します。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、データベースを再起動します。

2561 E

EXEC SQL Lock timeout on update captable.

説明: ACSLS データベースで `cap_mode` を手動モードに更新しようとして失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: アプリケーションサーバーを再起動します。問題が続く場合は、データベースを再起動します。

2562 W

Additional Connect request received for port port_id that is already connected. Request ignored.

説明: 2 番目の接続リクエストが SCSI ライブラリによって受信されたときに、リクエストが無視され、警告メッセージが製品ログに記録されました。

変数: `port_id` は、ACSLs からライブラリへのポートの識別子です。

ユーザーの対応: なし。

2563 E

LSM lsm_id type changed from lsm_type_db to lsm_type_lib; LSM remains offline.

説明: LSM タイプが *lsm_type_db* から *lsm_type_lib* に変更され、報告された LSM ステータスは NOT READY です。LSM がオフラインとしてマークされます。

変数:

- *lsm_id* は、タイプが変更された LSM 識別子です。
- *lsm_type_db* は、データベース内に存在する状態の LSM タイプです。
- *lsm_type_lib* は、ライブラリによって報告された状態の LSM タイプです。

ユーザーの対応: LSM が準備完了ではない理由を判断し、問題に対処して LSM をオンラインにします。

2564 I

Please update your ACSLS library configuration using Dynamic Config or acsss_config.

説明: ACS *acs_id* または LSM *lsm_id* のライブラリ構成が変更されました。ACSLs 構成が更新されるまで、関係のある ACS または LSM はオフライン [診断] のままです。

変数: なし。

ユーザーの対応: 動的構成または *acsss_config* を使用して、この ACS または LSM の ACSLS 構成を更新します。

2565 E

Invalid ACSLS database version acsls_db_version. Must be less than or equal to max_supported_db_version.

説明: インポートしている ACSLS データベースのバージョンは、この ACSLS リリースでサポートされていません。

変数:

- *acsls_db_version* は、ACSLs データベースがエクスポートされたバージョン番号です。
- *max_supported_db_version* は、この ACSLS リリースにインポートできる最高のデータベースバージョンです。

ユーザーの対応:

1. この ACSLS リリースでサポートされる形式で以前の ACSLS データベースをエクスポートします。
2. データベースの互換バージョンをインポートします。

2566 N

cl_ipc_read: Invalid packet parameters, host_id.

説明: 認識できないパラメータのあるパケットを受信しました。パケットは無視されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: 関連メッセージ 2638 に注意してください。不明なインターネットソースがこのポートにトラフィックを送信しようとしている場合は、最寄りのネットワークセキュリティ管理者に問い合わせてください。

2567 N

lm_input: Invalid format of message received.Message ignored.

説明: このメッセージは、メッセージ 2566 とともに現れることがあります。メッセージは削除されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: メッセージ 2566 を参照してください。

2611 E

%s Cannot connect to Library manager database.Status code (%d).

説明: データベースに接続できません。

変数: %s は、ファイルの名前です。

ユーザーの対応: なし。

2633 I

ACSLS recovery initiated.

説明: データベース回復プロセスを開始しています。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2634 I

ACSLS backup started.

説明: ACSLS のバックアップが開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2635 I

ACSLS recovery started.

説明: ACSLS の復元が開始しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2638 N

cl_ipc_read: Message from unknown Internet host ignored.

説明: 承認されていないホストからのパケットが ACSLS によって受信されました。ホスト ID が認識されないため、パケットは無視されます。

変数: なし。

ユーザーの対応: このメッセージが存続する場合は、最寄りのネットワークセキュリティー管理者に問い合わせてください。「snoop」を使用して割り込みしているパケットに関する詳細情報を抽出できます。「root」としてコマンド「snoop port 50003」を実行します。

2649 E

ACSLS recovery failed.

説明: ACSLS の回復に失敗しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2661 I

ACSLS recovery aborted. ACSLS database and control files are not restored.

説明: 信号の干渉が原因による復元の中止です。ACSLS データベースまたは制御ファイルを開始する前に、信号が受信されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2662 E

ACSL recovery aborted. ACSLS database and control files are in an inconsistent state. ACSLS startup may fail. Perform a fresh recovery to avoid unforeseen errors.

説明: 信号の干渉が原因による復元の中止です。ACSL データベースまたは制御ファイルの回復の進行中に、信号が受信されました。ACSL は使用できないため、新規の回復が必要です。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2663 I

ACSL database and control files recovery completed.

説明: データベースおよび制御ファイルの成功した回復。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2664 E

ACSL recovery aborted. ACSLS database is not restored.

説明: 信号の干渉が原因による復元の中止です。ACSL データベースの回復の開始前に、信号が受信されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2665 E

ACSL recovery aborted. ACSLS database is in an inconsistent state. ACSLS startup may fail. Perform a fresh recovery to avoid unforeseen errors.

説明: 信号の干渉が原因による復元の中止です。ACSL データベースの回復の進行中に、信号が受信されました。ACSL は使用できないため、新規の回復が必要です。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2666 I

ACSL recovery completed.

説明: 回復の成功です。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2667 E

ACSL recovery aborted.ACSL control files are not restored.

説明: 信号の干渉が原因による復元の中止です。制御ファイルの回復の開始前に、信号が受信されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2668 E

ACSL recovery aborted.ACSL control files are in an inconsistent state.ACSL startup may fail.Perform a fresh recovery to avoid unforeseen errors.

説明: 信号の干渉が原因による復元の中止です。制御ファイルの回復の進行中に、信号が受信されました。ACSL は使用できないため、新規の回復が必要です。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2669 E

ACSL backup aborted.ACSL database and control files are not backed up.

説明: 信号の干渉が原因によるバックアップの中止です。制御ファイルまたはデータベースのバックアップの進行中に、信号が受信されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2670 W

ACSLs backup aborted.ACSLs backup tape will not be usable.

説明: 信号の干渉が原因によるテープへのバックアップの中止です。制御ファイルまたはデータベースのバックアップの進行中に、信号が受信されました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

2676 W

A fully qualified host name for hostname is not found in /etc/hosts.

説明: ルーチンは、システムの `/etc/hosts` ファイルを検索して、ローカルホストマシンの名前の完全修飾表現を探しました。完全修飾表現は、`somehost.somedomain.com` という形式です。

変数: なし。

ユーザーの対応: PostgreSQL データベースでは、ローカルマシンの完全修飾ホスト名がローカルの `/etc/hosts` ファイル内に出現する必要があります。通常、この表現は `loghost` レコードの 2 番目のフィールドで見つかります。例:

```
127.65.43.21 myhost.mydomain.com myhost loghost
```

2700 E

Java version %s is downlevel!Minimum java version version %s is required for ACSLS.

説明: ACSLS は、現在構成されている Java バージョンと併用できません。

変数: `%s` は、Java バージョンレベルです。

ユーザーの対応: 『ACSLs インストールガイド』を参照して、適切な Java バージョンおよびインストール手順を確認します。

2701 W

Java version %s is downlevel!Setting link /usr/java to %s.

説明: 構成済みの Java バージョンはダウンレベルでしたが、スクリプトはシステムで互換性のあるバージョンを見つけることができました。ACSLs で必要な Java バージョンを示すように `/usr/java` リンクが自動的に変更されました。

変数: `%s` は、Java バージョンレベルです。

ユーザーの対応: ダウンレベルの Java バージョンを採用するその他のアプリケーションをインストール済みである場合を除き、アクションは必要ありません。そのような場合は、競合するアプリケーションをアップグレードするか、そのアプリケーションに必要な Java バージョンへの別のポインタを設定するか、または競合するアプリケーションをシステムから削除することにより、不一致を解消する必要があります。

5002 E

Received incorrect byte count from input socket: byte_count.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *byte_count* は、読み取りバイト数です。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。

5003 E

Received invalid request type: req_type.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *req_type* は、無効なリクエストの値です。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。

5004 E

Received invalid Sense Code: sense_code.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *sense_code* は、ハードウェアによって送信された値です。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。

5005 E

Received invalid Status request type: req_type

説明: ハードウェアから予期しない応答が検出されました。

変数: *req_type* は、無効なステータスリクエストの値です。

ユーザーの対応: 関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5006 E

Unexpected LH failure. Sense code is sense_code.

説明: ハードウェアから予期しない応答が検出されました。

変数: *sense_code* は、ハードウェアによって送信された値です。

ユーザーの対応: ハードウェアがオンラインであることを確認します。詳細は LSM のログを確認してください。

5007 E

Unexpected LSM failure. Sense code is sense_code.

説明: ハードウェアから予期しない応答が検出されました。

変数: *sense_code* は、ハードウェアによって送信された値です。

ユーザーの対応: ハードウェアがオンラインであることを確認します。詳細は LSM のログを確認してください。

5008 E

Received 0 bytes from device: dev_name.

説明: SCSI デバイスドライバが適切にインストールされていない可能性があります。

変数: *dev_name* は、開いているデバイスの名前です (*/dev/mchanger4* など)。

ユーザーの対応: ハードウェアがオンラインであることを確認します。詳細は LSM のログを確認してください。

5009 E

No data received after forking process.

説明: *scsilh* は、*scsiDP* と通信できませんでした。SCSI デバイスドライバが適切にインストールされていない可能性があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: ハードウェアがオンラインであることを確認します。詳細は LSM のログを確認してください。

5010 E

Failed to create UNIX process for device: dev_name.

説明: *scsilh_im* は、*scsiDP* と通信できませんでした。

変数: *dev_name* は、開いているデバイスの名前です (*/dev/mchanger4* など)。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動しても問題が続く場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5011 E

Failed to set up read/wait for process.

説明: *scsilh* で内部エラーが発生しました。

変数: なし。

ユーザーの対応: ACSLS を再起動しても問題が続く場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5012 E

Starting new UNIX process dev_name

説明: *scsiDP* は異常終了したため、*scsilh_im* によって再起動されました。

変数: *dev_name* は、開いているデバイスの名前です (*/dev/mchanger4* など)。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5013 E

Received incorrect byte count from shared memory: byte_count.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *byte_count* は、読み取りバイト数です。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5014 E

Error received from call to smc library: error_code.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *error_code* は、*smc* ライブラリから返されたエラーコードです。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5015 E

Failed to write to socket: socket_name.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *socket_name* は、ソケットの名前です。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5016 E

Timed out on request: req_name.

説明: ハードウェアの応答が想定よりも長くかかりました。

変数: *req_name* は、リクエストの名前です。

ユーザーの対応: ハードウェアがオンラインであることを確認します。詳細は LSM のログを確認してください。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5017 E

Received too many (nnn) bytes in response to internal command: req_name.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数:

- *nnn* は受信したバイト数です。
- *req_name* は読み取ったバイト数です。

ユーザーの対応: コマンドを再試行します。問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

5018 E

Unexpected startup data received from process: aString.

説明: コンポーネント間の内部通信が失敗しました。

変数: *aString* はハードウェアから読み取った文字列です。

ユーザーの対応: ハードウェアがオンラインであることを確認します。詳細は LSM のログを確認してください。コマンドを再試行し、問題が存続する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、サポートに連絡します。

5019 E

Recovering scsiDP: aString.

説明: ライブラリと ACSLS 間の通信エラーが発生しました。

変数: *aString* は *scsiDP* プロセスの説明です。

ユーザーの対応: なし。これらのメッセージが頻繁に表示される場合は、ケーブルに問題が発生している可能性があります。

5020 E

Tried to access drive while cleaning cartridge installed.

説明: クリーニングカートリッジがドライブのクリーニングを行なっているときに、カートリッジをマウントしようとした。

メモ:

これはテープドライブの清掃を自動的に行う SCSI またはファイバ接続のライブラリで表示されるメッセージです。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。ACSLs はマウントを自動的に再試行します。マウントの再試行回数を超え ACSLS の自動再試行が失敗に終わると、マウントコマンドがふたたび発行されます。

6001 I

Logical ACS logical_acs_id (name) added using physical ACS acs_id.

説明: 管理者によって論理ライブラリが作成されました。

変数:

- *logical_acs_id* は新しい論理ライブラリに割り当てられた論理 ACS 番号です。
- *name* は論理ライブラリに指定された名前です。
- *acs_id* は物理ライブラリの ACS 識別子です。

ユーザーの対応: なし。

6002 I

Logical ACS logical_acs_id removed.

説明: 構成から論理ライブラリが削除されたため、クライアントアクセスはできなくなりました。論理ライブラリ内のドライブとボリュームの割り当ては解除されたため、ACSAPI での使用や、別の論理ライブラリへの割り当てでの使用が可能になりました。

変数: *logical_acs_id* は削除された論理ライブラリを識別します。

ユーザーの対応: なし。

6021 I

Logical Drive logical_location (serial_number) added using physical Drive drive_id.

説明: ドライブが論理ライブラリに割り当てられました。このドライブに論理的な場所が自動的に割り当てられます。このドライブの ACSAPI での使用や、別の論理ライブラリへの割り当てでの使用ができなくなりました。

変数:

- *logical_location* はドライブに割り当てられた論理的な場所を識別します。
- *serial_number* はドライブのシリアル番号 (ある場合) を識別します。
- *drive_id* は物理ドライブを識別します。

ユーザーの対応: なし。

6022 I

Logical Drive logical_location removed.

説明: ドライブの論理ライブラリへの割り当てが解除されました。これによりドライブスロットが解放されるため、ほかのドライブを割り当てることができます。このドライブの ACSAPI での使用や、別の論理ライブラリへの割り当てでの使用が可能になりました。

変数: *logical_location* はドライブに割り当てられていた論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6032 I

Initiator initiator removed.

説明: ACSLS サーバーに接続されていた *initiator* (FC クライアントポート) が管理者によってデータベースから削除されました。イニシエータを削除する機能により、もう接続されていないクライアントの古いエントリを削除できます。

変数: *initiator* は削除された FC クライアント (*WWN* およびその別名で識別) です。

ユーザーの対応: なし。構成済み ACSLS の *target* ポートでイニシエータを発見した場合、ACSL S はこれらを自動的に (再) 追加します。

6034 I

Target target removed.

説明: ACSLS サーバーで *target* モード操作に構成されていた FC ポートが管理者によってデータベースから削除されました。ターゲットを削除する機能により、もう構成されていない古いエントリを削除できます。

変数: *target* は WWN およびその別名によって識別される FC ターゲットポートです。

ユーザーの対応: なし。*target* モード操作のターゲットが構成されている場合、ACSLS は *getHba.sh* ユーティリティを使用して自動的にこれらを (再) 追加します。

6041 I

Mapping added to logical_acs_id for (initiator, target, lun).

説明: FC クライアントから論理ライブラリを認識できるようにマッピングが作成されました。マッピングではクライアントが論理ライブラリを認識するときの *target* ポートと *LUN* を定義します。

変数:

- *logical_acs_id* はマッピングが追加された論理 ACS 番号です。
- *initiator* は WWN およびその別名で識別される FC クライアントです。
- *target* は WWN およびその別名で識別される FC ターゲットポートです。
- *lun* はこのクライアント接続に関連付けられている LUN (論理ユニット番号) です。

ユーザーの対応: なし。クライアントが論理ライブラリを使用できるようになりました (ライブラリを検出するためのクライアントシステム構成が必要になる場合があります)。

6053 I

Logical Volume vol_id mounted from logical drive logical_location..

説明: ボリュームとドライブ (双方とも論理ライブラリに割り当てられている) を含むマウント操作が FC クライアントによって実行されました。

変数:

- *vol_id* はマウントされたボリュームを識別します。
- *logical_location* はドライブの論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6054 I

Logical Volume vol_id dismounted from logical drive logical_location.

説明: ボリュームとドライブ (双方とも論理ライブラリに割り当てられている) を含むマウント解除操作が FC クライアントによって実行されました。

変数:

- *vol_id* はマウント解除されたボリュームを識別します。
- *logical_location* はドライブの論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6055 I

Logical Volume vol_id moved to new home location logical_location.

説明: FC クライアントの操作によって、論理ライブラリ内のボリュームが新しい保管場所に移動されました。

変数:

- *vol_id* は移動されたボリュームを識別します。
- *logical_location* はボリュームの新しい論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6056 I

Logical Volume vol_id ejected from logical ACS logical_acs_id.

説明: FC クライアントの操作によって、論理ライブラリ内のボリュームがインポートまたはエクスポートの場所に移動されました。ボリュームの論理ステータスがこの操作を反映して更新されるため、クライアントはボリュームにアクセスできなくなります。

メモ:

物理的な取り出し操作は実行されず、ボリュームの論理ライブラリへの割り当ては解除されません。

変数:

- *vol_id* は移動されたボリュームを識別します。
- *logical_acs_id* はボリュームの割り当て先である論理 ACS 番号です。

ユーザーの対応: なし。必要であればボリュームを物理的に取り出すこともできますが、論理ライブラリへの割り当ては解除されません。その後ボリュームを再挿入すると、クライアントはそのボリュームにアクセスできるようになります。

6070 I

Logical Volume vol_id corrected for eject.

説明: 論理ライブラリに割り当てられているボリュームを含む、物理的な取り外し操作が行われたことを ACSLS が検出しました。この操作を反映するためボリュームの論理ステータスと場所が更新されます。ボリュームの論理ライブラリへの割り当ては解除されませんが、このボリュームにクライアント操作でアクセスすることはできません。

変数: *vol_id* は更新されたボリュームを識別します。

ユーザーの対応: なし。ボリュームを再挿入すると、クライアントはそのボリュームにアクセスできるようになります

6071 I

Logical Volume vol_id corrected for enter (new location is logical_location).

説明: 論理ライブラリに割り当てられているボリュームを含む、物理的な挿入操作が行われたことを ACSLS が検出しました。ボリュームに新しい論理的な場所が割り当てられ、FC クライアント操作に使用できるようになりました。

変数:

- *vol_id* は更新されたボリュームを識別します。
- *logical_location* はボリュームの新しい論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6072 I

Logical Volume vol_id corrected for mount (new location is logical_location).

説明: 論理ライブラリに割り当てられているボリュームを含む、物理的なマウント操作が行われたことを ACSLS が検出しました。この操作を反映するためボリュームの論理ステータスと場所が更新されます。

変数:

- *vol_id* は更新されたボリュームを識別します。
- *logical_location* はボリュームの新しい論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6073 I

Logical Volume vol_id corrected for dismount (new location is logical_location).

説明: 論理ライブラリに割り当てられているボリュームを含む、物理的なマウント解除操作が行われたことを ACSLS が検出しました。この操作を反映するためボリュームの論理ステータスと場所が更新されます。

変数:

- *vol_id* は更新されたボリュームを識別します。
- *logical_location* はボリュームの新しい論理的な場所を識別します。

ユーザーの対応: なし。

6600 E

Response received but packet size too small (byte_count should be at least min_size); Dropping packet!

説明: ACSLM GUI は ACSLM から小さすぎるメッセージを受け取りました。GUI は、十分な情報が含まれていなかったため、メッセージの解釈を試行しませんでした。これは、ネットワークまたはソフトウェアのいずれかに問題がある可能性があります。

変数:

- *byte_count* はメッセージのバイト数です。
- *min_size* は有効な読み取り可能なメッセージの最小サイズです。

ユーザーの対応: ネットワーク障害に起因する問題でないかどうかを確認します。問題がネットワーク障害に起因するものでなければ、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

6601 E

Response received for unknown sequence number sequence_num; Dropping packet!

説明: ACSLS GUI が ACSLS から応答を受信しましたが、既存リクエストに関連付けられていないシーケンス番号でした。この応答は無視されます。

変数: *sequence_num* は応答パケットに含まれていたシーケンス番号です。

ユーザーの対応: なし。

6650 I

Communication with ACSLM at internet_addr: port_num setup.

説明: ACSLS GUI と ACSLM プロセスの間に IPC 通信リンクが確立されました。このリンクは、GUI オペレータがリクエストしたライブラリ操作を実行するために使用されます。

変数:

- *internet_addr* は ACSLM が実行されているサーバーのアドレスです。
- *port_num* は ACSLM プロセスの識別に使用されるポート番号です。

ユーザーの対応: なし。

7000 I

SMCE startup beginning.

説明: SMCE サブシステムが初期化プロセスを開始しました。このサブシステムによって FC クライアントが発行したコマンドがサポートされます。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

7001 I

SMCE startup complete.

説明: SMCE サブシステムが初期化プロセスを完了しました。FC クライアントからのコマンドの受け入れが可能になりました。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。

7002 I

SMCE mapping: Initiator: initiator, Target: target, Lun: lun, acsID: logical_acs_id.

説明: 開始イベント (Not Ready から Ready への遷移) を通知するため、論理ライブラリにアクセスできるすべての FC クライアントに Unit Attention が報告されました。これは、一定期間使用不能だった論理ライブラリが稼働を開始したことをクライアントに通知するものです。

変数:

- *initiator* は WWN およびその別名で識別される FC クライアントです。
- *target* は WWN およびその別名で識別される FC ターゲットポートです。

- *lun* はこのクライアント接続に関連付けられている *LUN* (論理ユニット番号) です。
- *logical_acs_id* は論理ライブラリの論理 ACS 番号です。

ユーザーの対応: なし。

7100 I

SMCE shutdown requested.

説明: SMCE サブシステムが停止プロセスを開始しました。このサブシステムを停止すると、FC クライアントからのコマンドの受け入れができなくなります。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。FC クライアントのサポートを再開するには、*acsss enable* コマンドを発行します

7101 I

SMCE shutdown complete.

説明: SMCE サブシステムが停止プロセスを完了しました。このサブシステムを停止すると、FC クライアントからのコマンドの受け入れができなくなります。

変数: なし。

ユーザーの対応: なし。FC クライアントのサポートを再開するには、*acsss enable* コマンドを発行します。

7900 E

SMCE terminated abnormally.

説明: SMCE サブシステムの開始または実行中に回復不能なエラーが発生しました。このサブシステムで FC クライアント操作をサポートする必要があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: SMCE サブシステムは Solaris サービス管理機能 (SMF) によって自動的に再起動されます。*acsss status* コマンドを使用して、*smce* サービスがオンラインであることを確認します。サービスがオンラインになっていない場合、サービスのログファイルでエラーまたは診断情報を確認します。ログファイルの場所は *acsss 1-status* コマンドで取得できます。

7901 E

SMCE command failed abnormally.

説明: FC クライアントから受信した SCSI メディアチェンジャーコマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドが正常に完了しなかったか、完了しても SMCE サブシステムが最終の応答をクライアントに送信できなかった可能性があります。

変数: なし。

ユーザーの対応: 失敗した操作に関する情報をクライアントシステムで確認します。必要であれば失敗した操作をクライアントシステムから再試行します。この問題は、クライアントと ACSLS サーバー間の FC 接続が原因で発生することがあります。クライアントオペレーティングシステムから論理ライブラリデバイスを認識できていることを確認します。クライアントソフトウェアの再構成が必要になる場合があります。

クライアントから論理ライブラリを認識できる状態でもコマンドの実行時に問題が発生する場合は、関連する ACSLS データ ([「Oracle Support の診断情報の収集」](#)を参照) を収集し、Oracle Support に連絡します。

第2章 ステータスコード

この章には、すべてのリターンステータスおよびコンポーネントステータスの情報が含まれています。

すべての STATUS コードの説明を次に示します。STATUS 列挙型は `db_defs_api.h` に定義されています。読者が特定の STATUS 値を見つけやすいように、このリストはアルファベット順になっています。

STATUS_ACS_FULL

説明: このリターンステータスは、マウント解除および挿入リクエスト関数に固有です

- マウント解除リクエストにおいて、カートリッジをマウント解除するために使用可能なセル位置がデータベース内に見つかりません。
- マウント解除リクエストにおいて、カートリッジをマウント解除するために使用可能なセル位置がデータベース内に見つかりません。
- 挿入リクエストにおいて、テープカートリッジに使用可能なセルが ACS 内がない場合、テープカートリッジは挿入されず、CAP 内に残ります。

STATUS_ACSLM_IDLE

説明: これは、ACSL S での STATE_IDLE の入力時に送信される要求外メッセージです。この要求外メッセージは、idle リクエスト関数に固有です。

STATUS_ACS_NOT_IN_LIBRARY

説明: リクエストに指定された `acs_id` は構文的には有効ですが、現在の構成に存在しません。

このリターンステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_ACS_OFFLINE

説明: これは、ACS がオフラインに変更された際に送信される要求外メッセージです。

この要求外メッセージは、idle および vary リクエスト関数に固有です。

STATUS_ACS_ONLINE

説明: vary OFFLINE リクエストで (FORCE オプションの有無にかかわらず)、オンラインの ACS に対して最後のオンラインポートを指定しました。指定された `port_id` に関してはこのステータスが返されます。

このリターンステータスは、idle および vary リクエスト関数に固有です。

STATUS_ACTIVITY_END

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_ACTIVITY_START

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_AUDIT_ACTIVITY

説明: このリターンステータスは、audit および query リクエスト関数に固有です。

監査リクエスト関数が中間応答を返すたびに、リクエスト元に *eject_enter* 応答が返され、そこにはこの *message_status* 値が入力され、*audit_int_status* フィールドに適切なステータスが入力されます。

- 照会リクエストにおいて、LSM が監査中です。
- 照会リクエストにおいて、CAP が監査中です。

STATUS_AUDIT_FAILED

説明: audit リクエスト関数が何らかのエラー状態のため失敗または終了するたびに、リクエスト元に中間応答が返され、そこにはこの *message_status* 値が入力され、*audit_int_status* フィールドに適切なステータスが入力されます。

このリターンステータスは、audit リクエスト関数に固有です。

STATUS_AUDIT_IN_PROGRESS

説明: 現行の audit リクエストによってロックされているセルに、リクエストがアクセスしようとして失敗しました。監査リクエストが進行中のとき、アクティブに監査されているセル位置は、ほかのリクエストプロセスから一時的にアクセスできなくなります。

挿入リクエストにおいて、テープカートリッジに使用可能なセルが ACS ライブラリ内になく、監査が進行中 (使用可能なセルへのアクセスがこれによって拒否されている可能性がある) の場合、テープカートリッジは挿入されず、CAP 内に残ります。

このリターンステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に固有です。

STATUS_AUTOMATIC

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CANCELLED

説明: リクエスト取り消しプロシージャによってリクエストが取り消されました。現行のプロセスは停止されます。このステータスは、取り消し可能なすべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

- 挿入リクエストにおいて、cancel リクエストを受信すると操作の連続モードは終了します。cancel リクエストが保留中の enter リクエストに対して発行された場合、そのリクエストは中止されます。cancel リクエストが現行の enter リクエストに対して発行された場合、そのリクエストの挿入処理は停止され、最終応答のカウント値には処理されたボリューム識別子の数が反映されます。挿入されたカートリッジは取り出されません。CAP 内にカートリッジが残っている場合、ACSLM は ACSSA に STATUS_REMOVE_CARTRIDGES 要求外メッセージを発行し、オペレータがカートリッジを取り除くまで待ってから、最終応答を返します。
- ロックリクエストにおいて、リソースはロックされません。コンポーネントステータスは STATUS_VALID に設定されます。lock リクエストがテープカートリッジまたはライブラリドライブリソースが使用可能になるのを待機しているときに、保留中のロックが clear_lock リクエストによってクリアされると、ACSLM は保留中の lock リクエストが取り消された場合と同様に最終応答を発行します (リターンステータスは STATUS_CANCELLED に設定される)。ただし、クリアされたリソースのコンポーネントステータスは STATUS_CANCELLED に設定されます。
- cancel リクエストが現行の query リクエストに対して発行された場合、そのリクエストの照会処理は停止されます。query リクエストが最新のもの (保留中ではない) 場合、カウントは、cancel リクエストの受信前に処理された識別子の数を表します。
- cancel リクエストが現行の set_cap リクエストに対して発行された場合、ACSLM (ACS ライブラリマネージャー) は CAP 属性の設定を停止し、cancel リクエストより前に処理された CAP 識別子の数をカウントに設定します。
- cancel リクエストが現行の set_clean リクエストに対して発行された場合、そのリクエストの set_clean 処理は停止され、カウントには処理されたボリューム識別子の数が反映されます。クリーニングのために設定されているテープカートリッジはリセットされません。

STATUS_CAP_AVAILABLE

説明: このリターンステータスは、query リクエスト関数に固有です。

- query リクエストにおいて、LSM が使用可能です。
- query リクエストにおいて、CAP が使用可能です。

STATUS_CAP_DOOR_OPEN

説明: これは、ACSLM サーバーが CAP_DOOR_OPEN イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

このステータスは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されています。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CAP_FULL

説明: これは、ACSL S サーバーが CAP FULL イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CAP_INOPERATIVE

説明: これは、ACSL S サーバーが CAP INOPERATIVE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CAP_IN_USE

説明: このリターンステータスは、監査、取り出し、および挿入リクエスト関数に固有です。

- 監査操作において、cap_id に ANY_CAP が指定されました。また、cap_id に指定された LSM にはゼロ以外の優先度を持つ CAP がありませんでした。リクエストは拒否され、セルは監査されません
- 監査操作において、cap_id に ANY_ACS または ANY_LSM が指定されました。また、指定された acs_id にはゼロ以外の優先度を持つ CAP がありませんでした。
- 監査、挿入、または別の取り出し操作において、明示的に指定された CAP 識別子は別のリクエストによって使用されています。カートリッジは取り出しも挿入もされません。
- eject または enter リクエストにおいて、cap_id に ANY_CAP が指定されている場合、cap_id に指定された LSM にゼロ以外の優先度の CAP がないと、リクエストは拒否されます。カートリッジは取り出しも挿入もされません。
- eject または enter リクエストにおいて、cap_id に ANY_LSM が指定されている場合、cap_id に指定された ACS にゼロ以外の優先度を持つ使用可能な CAP がないと、リクエストは拒否されます。カートリッジは取り出しも挿入もされません。
- eject または enter リクエストにおいて、cap_id に ANY_ACS が指定されている場合、取り出し対象に指定されたカートリッジが入っている ACS にゼロ以外の優先度を持つ使用可能な CAP がないと、リクエストは拒否されます。カートリッジは取り出しも挿入もされません。

-
- eject または enter リクエストにおいて、cap_id に ALL_CAP が指定されている場合、LSM にゼロ以外の優先度を持つ使用可能な CAP がないと、リクエストは拒否されます。カートリッジは取り出しも挿入もされません。

STATUS_CAP_NOT_IN_LIBRARY

説明: リクエストに指定された cap_id は構文的には有効ですが、現在の構成に存在しません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_CAP_OFFLINE

説明: 指定されたコンポーネントが OFFLINE または OFFLINE_PENDING の ACS または LSM に含まれているか、指定された CAP が OFFLINE または OFFLINE-PENDING 状態になっているため、リクエストを完了できません。

set_cap リクエストにおいて、CAP の状態が STATE_DIAGNOSTIC の場合、CSI からの set_cap リクエストでは CAP の挿入処理モードを変更できません。診断状態にある CAP の処理モードを set_cap で変更しようとする、モードは変更されず、その CAP のコンポーネントステータスにこのステータスが返されます。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_CARTRIDGES_IN_CAP

説明: これは、ACSL S サーバーが CARTRIDGES IN CAP イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CELL_EMPTY

説明: これは、ACSL S サーバーが CELL EMPTY イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CELL_FULL

説明: これは、ACSL S サーバーが CELL FULL イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CELL_INACCESSIBLE

説明: これは、ACSL S サーバーが CELL INACCESSIBLE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CELL_RESERVED

説明: これは、ACSL S サーバーが CELL RESERVED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CLEAN_DRIVE

説明: これは、ACSL S サーバーが CLEAN DRIVE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CLEAN_DRIVE_COMPLETE

説明: これは、ACSL S サーバーが CLEAN DRIVE COMPLETE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_COMMAND_ACCESS_DENIED

説明: ユーザーは、このコマンドを実行することを許可されていません。

このリターンステータスは、コマンドへのアクセスが拒否されているときにコマンドを呼び出そうとした結果です。

STATUS_COMMUNICATION_FAILED

説明: これは、ACSL S サーバーが COMMUNICATION FAILED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_COMPLETE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_CONFIGURATION_ERROR

説明: ACSLM は、データベースと物理ライブラリ構成の間に不整合を検出しました。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_COUNT_TOO_LARGE

説明: `message_header` 内のカウントフィールドが、この特定のリクエストに対して予期される最大の数より大きい値です。

確認応答は返されません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_COUNT_TOO_SMALL

説明: `message_header` 内のカウントフィールドが、この特定のリクエストに対して予期される最小の数より小さい値です。

確認応答は返されません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_CURRENT

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DATABASE_DEADLOCK

説明: これは、ACSL S サーバーが DATABASE DEADLOCK イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DATABASE_ERROR

説明: ACSLM はリクエストを処理中にデータベースの整合性エラーを検出しました。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_DEADLOCK

説明: このステータス値は、lock_drive または lock_volume に関して返される可能性があります。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DEGRADED_MODE

説明: これは、ACSL S サーバーが DEGRADED MODE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DIAGNOSTIC

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DISK_FULL

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DISMOUNT_ACTIVITY

説明: これは、ACSL S サーバーが DISMOUNT ACTIVITY イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DONE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DOOR_CLOSED

説明: これは、ACSL S サーバーが DOOR CLOSED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DOOR_OPENED

説明: これは、ACSL S サーバーが DOOR OPENED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DRIVE_AVAILABLE

説明: このリターンステータスは、clear_lock、dismount、query、および unlock リクエスト関数に固有です。

- dismount リクエストにおいて、テープカートリッジが入っていないライブラリドライブからテープをマウント解除しようとしてしました。
- query リクエストにおいて、指定されたドライブにテープカートリッジが入っていないか、ドライブがマウント解除後に解放されています。
- query_lock リクエストにおいて、指定されたドライブはロックされていません。
- unlock リクエストにおいて、ロックされていない drive_id のロックを解放しようとしてしました。

STATUS_DRIVE_IN_USE

説明: このリターンステータスは、dismount、mount、mount_scratch、query、および vary リクエスト関数に固有です。ライブラリドライブのカートリッジがアンロードされませんでした。

- ロックされたテープカートリッジをマウント解除しようとしてしましたが、そのテープカートリッジの正しいロック識別子が含まれておらず、message_options FORCE が使用されませんでした。
- ロックされたライブラリドライブからテープカートリッジをマウント解除しようとしてしましたが、正しいロック識別子が含まれていませんでした。
- マウントリクエストにおいて、ライブラリドライブにテープカートリッジが入っている場合、そのライブラリドライブに対する後続のマウントリクエストは拒否されます。
- マウントリクエストにおいて、ロックされたライブラリドライブをマウントリクエストでマウントしようとする場合、そのライブラリドライブのロック識別子を含めないと、リクエストは拒否されます。
- mount_scratch リクエストにおいて、指定されたドライブが mount_scratch リクエストに指定されたものとは異なる lock_id でロックされている場合、mount_scratch リクエストは拒否されます。
- query 応答において、ドライブにテープカートリッジが入っているか、ドライブがマウント用に予約されています。
- query_lock 応答において、リクエストはロックされたコンポーネントに対して発行されました。
- vary_OFFLINE リクエストで (FORCE オプションの有無にかかわらず)、現在使用されているライブラリドライブを指定しました。

STATUS_DRIVE_NOT_IN_LIBRARY

説明: リクエストに指定された *drive_id* は構文的には有効ですが、現在の構成に存在しません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_DRIVE_OFFLINE

説明: 指定された *drive_id* が OFFLINE または OFFLINE-PENDING 状態になっているため、リクエストを完了できません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_DRIVE_RESERVED

説明: これは、ACSL S サーバーが DRIVE RESERVED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DUPLICATE_IDENTIFIER

説明: これは、ACSL S サーバーが DUPLICATE IDENTIFIER イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_DUPLICATE_LABEL

説明: enter または venter リクエストにおいて、重複するテープカートリッジラベルが CAP 内に見つかった場合、重複するラベルを持つテープカートリッジは CAP 内に残り、ACS ライブラリには挿入されません。

STATUS_EJECT_ACTIVITY

説明: このリターンステータスは、query リクエスト関数に固有です。

- query リクエストにおいて、カートリッジが LSM から取り出されています。
- query_cap リクエストにおいて、カートリッジが CAP から取り出されています。

STATUS_ENTER_ACTIVITY

説明: このリターンステータスは、query リクエスト関数に固有です。

- query リクエストにおいて、カートリッジが LSM に挿入されています。
- query リクエストにおいて、カートリッジが CAP に挿入されています。

STATUS_EVENT_LOG_FAILURE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_EVENT_LOG_FULL

説明: これは、ACSL S サーバーが EVENT LOG FULL イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_IDLE_PENDING

説明: idle リクエストが FORCE オプションなしで発行され、ACSL M では現行または保留中のリクエストが未処理になっています。

このリターンステータスは、idle リクエスト関数に固有です。

STATUS_INCOMPATIBLE_MEDIA_TYPE

説明: このステータスコードは次の状況で返されます。

- mount リクエストにおいて、指定されたボリュームのメディアタイプに、指定されたドライブとの互換性がない場合。
- mount_scratch リクエストにおいて、リクエストに指定されたメディアタイプが常にクリーニングカートリッジである場合。
- set_clean リクエストにおいて、カートリッジが決してクリーニングカートリッジでない場合にテープ属性をクリーニングカートリッジに設定しようとしたとき、あるいは、カートリッジが常にクリーニングカートリッジである場合にクリーニング属性を削除しようとしたとき。
- set_scratch リクエストにおいて、カートリッジが常にクリーニングカートリッジである場合に、カートリッジをスクラッチカートリッジに設定しようとしたか、最初からリセットしようとしたとき。

STATUS_INCORRECT_ATTRIBUTE

説明: このリターンステータスは、define_pool、query、set_cap、set_clean、および set_scratch リクエスト関数に固有です。

- define_pool リクエストにおいて、OVERFLOW 以外のプール属性が指定されました。あるいは、リクエスト内の high_water_mark が low_water_mark より大きくありません。
- query (type clean) リクエストにおいて、指定されたテープカートリッジがクリーニングカートリッジではありません。
- set_cap リクエストにおいて、CAP の優先度が NO_PRIORITY と MAX_PRIORITY の範囲内の値に設定されていない場合、リクエストは拒否されます。属性は設定されません。

-
- `set_cap` リクエストにおいて、CAP のモードが `MODE_SAME`、`MODE_AUTOMATIC`、または `MODE_MANUAL` でない場合、リクエストは拒否されます。属性は設定されません。
 - `set_clean` リクエストにおいて、`set_clean` でスクラッチ属性を変更しようとする、リクエストは拒否され、このステータスが返されます。
 - `set_scratch` リクエストにおいて、リクエストされたボリュームがクリーニングカートリッジとしてマークされている場合、そのボリュームに対する `set_scratch` リクエストは拒否されます。このイベントは、リクエストに指定されたほかのボリュームに対する `set_scratch` 操作には影響を与えません。

STATUS_INCORRECT_CAP_MODE

説明: 明示的な挿入リクエスト (標準、連続、または仮想ラベルモード) で、自動挿入モードが割り当てられている CAP 識別子を指定した場合、リクエストは拒否されます。カートリッジは挿入されません。

このリターンステータスは、挿入リクエスト関数に固有です。

STATUS_INCORRECT_LOCKID

説明: このリターンステータスは、`clear_lock`、`unlock`、および `vary` リクエスト関数に固有です。

- `NO_LOCK_ID` 以外の `lock_id` でリソースのロックを解放しようとしたが、リソースは現在、指定された `lock_id` でロックされていませんでした。
- `vary` リクエストで (`FORCE` オプションの有無にかかわらず)、ロックされたライブライドライブを指定する場合、そのライブライドライブのロック識別子を含めないと、ドライブは変更されません。

STATUS_INCORRECT_STATE

説明: このリターンステータスは、変更リクエスト関数に固有です。

- `vary acs` リクエストにおいて、ACS の状態を変更するリクエストは、下位のすべての LSM および CAP の状態を変更するリクエストとして解釈されます。現在の状態が原因で変更できない LSM または CAP がある場合は、下位のすべての LSM および CAP が元の状態のままになり、その ACS に関してはこのステータスが返されます。
- `vary lsm` リクエストにおいて、LSM の状態を変更するリクエストは、下位のすべての CAP の状態を変更するリクエストとして解釈されます。現在の状態が原因で変更できない CAP がある場合は、下位のすべての CAP が元の状態のままになり、その LSM に関してはこのステータスが返されます。

STATUS_INPUT_CARTRIDGES

説明: これは、ACSL S サーバーが INPUT CARTRIDGES イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_INSERT_MAGAZINES

説明: これは、ACSL S サーバーが INPUT MAGAZINES イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_INVALID_ACS

説明: リクエストに指定された *acs_id* は構文的に正しくありません。変更リクエスト関数において、*cap_id* に *ANY_ACS* が指定されています。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_CAP

説明: このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

リクエストに指定された *cap_id* の CAP 番号の部分が範囲外です (*MIN_CAP* と *MAX_CAP* の間である必要があります)。または、*ANY_CAP* が不適切なコンテキストで使用されているか、*ALL_CAP* が不適切なコンテキストで使用されています。

- 取り出し操作において、*cap_id* に *ALL_CAP* が指定されている場合、*ANY_ACS* または *ANY_LSM* も指定されていると、リクエストは拒否されます。カートリッジは取り出されません。
- 挿入リクエストにおいて、*cap_id* に *ALL_CAP* が指定されている場合、*ANY_ACS* または *ANY_LSM* も指定されていると、リクエストは拒否されます。挿入リクエストにおいて、*cap_id* に *ALL_CAP* が指定されている場合、*extended_options* に *CONTINUOUS* が指定されていないと、リクエストは拒否されます。カートリッジは挿入されません。
- vary リクエスト関数において、CAP 識別子に *ANY_CAP* または *ALL_CAP* が指定されています。

STATUS_INVALID_COLUMN

説明: リクエストに指定された *subpanel_id* または *panel_id* の COLUMN 値が範囲外です。MIN_COLUMN と MAX_COLUMN の間である必要があります。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_COMMAND

説明: このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。message_header の COMMAND フィールドが、次に示す有効なコマンドのいずれでもありません。

COMMAND_AUDIT、COMMAND_CANCEL、COMMAND_CLEAR
_LOCK、COMMAND_DEFINE_POOL、COMMAND_DELETE_POOL、COMMAND
_DISMOUNT、COMMAND_EJECT、COMMAND_ENTER、COMMAND
_IDLE、COMMAND_LOCK、COMMAND_MOUNT、COMMAND_MOUNT
_SCRATCH、COMMAND_QUERY、COMMAND_QUERY_LOCK、COMMAND
_SET_CAP、COMMAND_SET_CLEAN、COMMAND_SET_SCRATCH、COMMAND
_START、COMMAND_UNLOCK、または COMMAND_VARY。

確認応答は返されません。

STATUS_INVALID_COMM_SERVICE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_INVALID_DRIVE

説明: リクエストに指定された *drive_id* は構文的に正しくありません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_DRIVE_TYPE

説明: このステータス値は、システムにとって不明なドライブタイプが検出された場合に vary リクエストによって返されます。このドライブタイプはデータベース内で *UNKNOWN_DRIVE_TYPE* としてマークされ、ドライブのドライブ状態はオフラインに設定されます。

STATUS_INVALID_LOCKID

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

このステータスは、*cmd_proc* および ACSCP/ACSSA に固有です。

STATUS_INVALID_LSM

説明: リクエストに指定された *lsm_id* は構文的に正しくありません。

変更リクエスト関数において、CAP 識別子に *ANY_LSM* が指定されています。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_MEDIA_TYPE

説明: このステータス値は、システムにとって不明なメディアタイプがリクエストに指定されている場合に *mount_scratch* リクエストによって返されます。また、*ANY_MEDIA_TYPE* またはシステムに対して不明なメディアタイプがリクエストに指定されている場合に *query_mount_scratch* リクエストによって返されます。

STATUS_INVALID_MESSAGE

説明: リクエストに指定された `message_id` が範囲外です。MIN_MESSAGE と MAX_MESSAGE の間である必要があります。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_OPTION

説明: `message_header` の `message_options` フィールドが、次に示す有効なオプションのいずれでもありません: ACKNOWLEDGE、EXTENDED、FORCE、INTERMEDIATE、または READONLY。または、`message_header` の `extended_options` フィールドが、次に示す有効な `extended_options` のいずれでもありません: CONTINUOUS、RANGE、RESET、VIRTUAL、または WAIT。

`enter` リクエストにおいて、`extended_option` パラメータとして CONTINUOUS と VIRTUAL の両方が指定されている場合、リクエストは拒否されます。カートリッジは挿入されません。操作の連続ラベルモードと仮想ラベルモードは同時に指定できません。

確認応答は返されません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_PANEL

説明: リクエストに指定された `panel_id` は構文的に正しくありません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_POOL

説明: このリターンステータスは、`define_pool`、`delete_pool`、`mount_scratch`、および `set_scratch` リクエスト関数に固有です。

SAME_POOL という `pool_id` が `define_pool` リクエストに指定されました。

COMMON_POOL または SAME_POOL という `pool_id` が `delete_pool` リクエストに指定されました。

`mount_scratch` リクエストにおいて、プール識別子 SAME_POOL が指定されている場合、`mount_scratch` リクエストは拒否されます。

`set_scratch` リクエストに RESET が指定されている場合、リクエストに指定されたプール識別子 (SAME_POOL 以外) とリクエストされたボリュームのプール識別子が一致していないと、リクエストは拒否されます。

STATUS_INVALID_PORT

説明: リクエストに指定された `port_id` は構文的に正しくありません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_RANGE

説明: リクエストに指定されたボリューム範囲識別子は構文的に正しくありません。無効な文字が含まれているか、開始および終了の *vol_id* の固定部分が一致していないか、終了 *vol_id* の右端の数値フィールドが開始 *vol_id* の右端の数値フィールドより小さい値です。

eject リクエストにおいて、無効な *vol_range* 識別子が検出された場合、リクエストは拒否されます。カートリッジは取り出されません。

set_clean および *set_scratch* リクエストにおいて、無効なボリューム範囲が指定されている場合、リクエストは拒否され、ボリューム属性は変更されません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_ROW

説明: リクエストに指定された *subpanel_id* または *panel_id* の ROW 値が範囲外です。*MIN_ROW* と *MAX_ROW* の間である必要があります。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_INVALID_STATE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

このステータスは、*cmd_proc* および ACSCP/ACSSA に固有です。

STATUS_INVALID_SUBPANEL

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

このステータスは、*cmd_proc* および ACSCP/ACSSA に固有です。

STATUS_INVALID_TYPE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

このステータスは、*cmd_proc* および ACSCP/ACSSA に固有です。

STATUS_INVALID_VALUE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

このステータスは、*cmd_proc* および ACSCP/ACSSA に固有です。

STATUS_INVALID_VERSION

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

このステータスは、*cmd_proc* および ACSCP/ACSSA に固有です。

STATUS_INVALID_VOLUME

説明: リクエストに指定された *vol_id* は構文的に正しくありません。

仮想挿入リクエストにおいて、リクエストに無効なボリューム識別子が含まれている場合、これらのラベルを割り当てられるはずのテープカートリッジは CAP 内に残り、ACS ライブラリには挿入されません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_IPC_FAILURE

説明: IPC レイヤーで致命的な通信障害が発生しました。もっとも可能性が高いのは、2つの内部コンポーネントが通信できなかったことです。

STATUS_LAST

説明: これは不正なステータスです。これが表示された場合は、SSI にバグがあります。これは内部使用のために予約されています。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_LIBRARY_BUSY

説明: 特定のリクエストに割り当てられた再試行とタイムアウト (*config* で設定される) が終了しましたが、ACSL M は ACS ライブラリと通信できませんでした。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_LIBRARY_FAILURE

説明: ACS ライブラリコンポーネントの障害が原因で、ACS ライブラリリソースを要求するリクエストが失敗しました。

取り出しで CAP からカートリッジの取り出しを始める前に、CAP のドアが開いているか作動不能であることが検出された場合、該当する要求外メッセージ *STATUS_CAP_DOOR_OPEN* または *STATUS_CAP_INOPERATIVE* が ACSSA に対して発行されます。追加のカートリッジは取り出されません。

複数のライブラリ障害により、取り出しまたは挿入処理が終了することがあります。発生したライブラリ障害はすべてイベントログに報告されますが、メッセージステータスでは1つの障害だけが返されます。

vary リクエストにおいて、vary OFFLINE リクエストで指定のデバイスをオフラインに変更しようとしているときにライブラリ障害が発生した場合、データベース内でデバイスの状態は OFFLINE に変更され、そのデバイスに関してはこのコンポーネントステータスが返されません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_LIBRARY_NOT_AVAILABLE

説明: ACSLM が *STATE_RECOVERY* になっているときに、ACSLM が *acs_query_server()* または *acs_query_mm_info()* 以外のリクエストを受信しました。あるいは、ACSLM が *STATE_IDLE* または *STATE_IDLE_PENDING* になっているときに、ACS ライブラリリソースを要求するリクエストが ACSLM に届きました。

idle リクエストにおいて、FORCE オプションなしで発行された場合、保留中の lock リクエストを除くすべての現行および保留中のリクエストが完了されます。保留中のロックリクエストは拒否されます。*cancel*、*idle*、*query*、*query_lock*、*start*、および *vary* を除き、新しいリクエストは拒否されます。ACSLM は *IDLE* 状態になります。現行および保留中のリクエストは中止されます。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_LOCATION_OCCUPIED

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSLS サポートに連絡してください。

STATUS_LOCK_FAILED

説明: このリターンステータスは、lock リクエスト関数に固有です。

- wait オプションを TRUE に設定して lock リクエストが発行された場合、無効またはライブラリ内にないリソースが指定されているときは、応答がすぐに返されます。コンポーネントステータス配列のエントリは、指定された識別子がエラーであることを示します。有効な識別子に関しては STATUS_VALID というコンポーネントステータスが返されます
- wait オプションを FALSE に設定して lock リクエストが発行された場合、使用可能でないリソース (たとえば、ロックされているリソースや使用中のリソース) が指定されているときは、リソースはロックされません。影響を受ける各ライブラリドライブリソースのコンポーネントステータスは STATUS_DRIVE_IN_USE に設定され、影響を受ける各テープカートリッジリソースのコンポーネントステータスは STATUS_VOLUME_IN_USE に設定されます。使用可能な各リソースのコンポーネントステータスは STATUS_VALID に設定されます。
- デッドロック状態を強制するリソースを lock リクエストで指定すると、リクエストは拒否されます。デッドロックを引き起こした特定のリソースは、STATUS_DEADLOCK とい

うコンポーネントステータスで返されます。デッドロックを引き起こさないリソースはすべて、STATUS_VALID というコンポーネントステータスで返されますが、リソースはロックされません。STATUS_DEADLOCK を含んでいるコンポーネントステータスレコードでは、タイプと識別子に、デッドロックをクリアするために解放する必要のあるデバイスが設定されます。

STATUS_LOCKID_NOT_FOUND

説明: 指定された *lock_id* には、現在リソースが割り当てられていません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_LSM_FULL

説明: これは、ACSL S サーバーが LSM FULL イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_LSM_NOT_IN_LIBRARY

説明: リクエストに指定された *lsm_id* は構文的には有効ですが、現在の構成に存在しません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_LSM_OFFLINE

説明: 指定されたコンポーネントがオフラインまたはオフライン保留中の LSM に含まれているか、指定された LSM が OFFLINE または OFFLINE-PENDING 状態になっているため、リクエストを完了できません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_MANUAL

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_MAX_PORTS

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_MESSAGE_NOT_FOUND

説明: リクエストに指定された *message_id* は有効ですが、ACSL M の現行または保留中のリクエストに関連付けられていません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_MESSAGE_TOO_LARGE

説明: ACSLM が受信したリクエストパケットは、ACSLM で計算された予期されるメッセージサイズより大きいサイズです。これが表示された場合は、実際のリクエストパケットに誤りがないか確認してください。

STATUS_MESSAGE_TOO_SMALL

説明: ACSLM が受信したリクエストパケットは、ACSLM で計算された予期されるメッセージサイズより小さいサイズです。これが表示された場合は、実際のリクエストパケットに誤りがないか確認してください。

STATUS_MISPLACED_TAPE

説明: このリターンステータスは、マウント解除、取り出し、およびマウントリクエスト関数に固有です。

- **dismount** リクエストにおいて、ACSLM はライブライドライブ内のテープカートリッジの外部ラベルを、リクエストに指定されたテープカートリッジの `vol_id` と比較します。ラベルが同じでない場合、マウント解除リクエストは拒否されます。ライブライドライブ内のテープカートリッジの `vol_id` が、データベース内に記録された `vol_id` と同じではありません。ライブライドライブ内のテープカートリッジの `vol_id` でデータベースが更新されます
- 取り出し操作において、ACSLM データベースで指定された場所に異なるテープカートリッジが入っている場合は、その格納場所に見つかったテープカートリッジの外部ラベルでデータベースが更新されます。
- **mount** リクエストにおいて、ACSLM はリクエストのボリューム識別子を使用して、ACS ライブラリ内でテープカートリッジを探します。ACSLM は、ライブラリ内に見つかったテープカートリッジの外部ラベルとメディアタイプを、リクエストのボリューム識別子と比較します。これらが同じでない場合、マウントリクエストは拒否されます。

STATUS_MISSING_OPTION

説明: ACSLM が受信したリクエストパケットでは、リクエストの `message_header` 部分にオプションが欠落しています。これが表示された場合は、実際のリクエストパケットに誤りがないか確認してください。

STATUS_MOUNT_ACTIVITY

説明: これは、ACSLS サーバーが MOUNT ACTIVITY イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSLS サポートに連絡してください。

STATUS_MULTI_ACS_AUDIT

説明: 識別子リストで複数の ACS を指定しましたが、cap_id が ANY_ACS に設定されていませんでした。

このリターンステータスは、audit リクエスト関数に固有です。

STATUS_NI_FAILURE

説明: ACSLM は CSI との接続を失いました。接続を確認し、クライアントが有効になっていることを確認してください。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_NI_TIMEDOUT

説明: CSI はクライアントからの応答の待機中にタイムアウトしました。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_NO_CAP_AVAILABLE

説明: これは、ACSL S サーバーが NO CAP AVAILABLE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_NONE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_NO_PORTS_ONLINE

説明: vary ONLINE リクエストで ACS を指定していますが、その ACS に接続されているポートがどれもオンラインではありません。このリターンステータスは、vary リクエスト関数に固有です。

STATUS_NORMAL

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_NOT_IN_SAME_ACS

説明: このリターンステータスは、audit、eject、および mount リクエスト関数に固有です。

-
- `audit` リクエストにおいて、同じ監査リクエスト関数内の明示的に指定された CAP 識別子と 2 つ目の識別子が、同じ ACS を指定していません。
 - `eject` リクエストにおいて、明示的に指定された CAP 識別子とボリューム識別子が、同じ ACS 内にありません。カートリッジは取り出されません。
 - `eject` リクエストにおいて、CAP 識別子に明示的に指定された ACS とボリューム識別子が同じ ACS 内にない場合、コマンドは拒否され、カートリッジは取り出されません。
 - `mount` リクエストにおいて、テープカートリッジとライブラリドライブが同じ ACS 内にない場合、マウントリクエストは拒否されます。

STATUS_OFFLINE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_ONLINE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_PENDING

説明: SSI から入力がないとき、ACS の応答はこのステータスを返します。この状況では再試行するコードを記述することをお勧めします。

STATUS_POOL_HIGH_WATER

説明: このリターンステータスは、`define_pool`、`mount_scratch`、`query`、および `set_scratch` リクエスト関数に固有です。

- `define_pool` リクエストにおいて、スクラッチプール内のボリュームの数が `high_water_mark` 以上になるように、既存のスクラッチプールの特性が変更されます。
- `mount_scratch` リクエストにおいて、スクラッチボリュームが選択されたあとで、スクラッチプールに残っているボリュームの数がプールの `high_water_mark` 以上である場合。選択したボリュームが指定したライブラリドライブにマウントされます。
- `set_scratch` リクエストにおいて、`set_scratch` リクエストが処理されたあとで、指定されたプール内のスクラッチボリュームの数が、`define_pool` リクエストで指定された `high_water_mark` 以上である場合。

STATUS_POOL_LOW_WATER

説明: このリターンステータスは、`define_pool`、`mount_scratch`、`query`、および `set_scratch` リクエスト関数に固有です。

- `define_pool` リクエストにおいて、スクラッチプール内のボリュームの数が `low_water_mark` 以下になるように、既存のスクラッチプールの特性が変更されます。

-
- `mount_scratch` リクエストにおいて、スクラッチボリュームが選択されたあとで、スクラッチプールに残っているボリュームの数がプールの `low_water_mark` 以下である場合。選択したボリュームが指定したライブライドライブにマウントされます。
 - `set_scratch` リクエストにおいて、`set_scratch` リクエストが処理されたあとで、指定されたプール内のスクラッチボリュームの数が、`define_pool` リクエストで指定された `low_water_mark` 以下である場合。

STATUS_POOL_NOT_EMPTY

説明: 指定されたスクラッチプールは空ではありません。

このリターンステータスは、`delete_pool` リクエスト関数に固有です。

STATUS_POOL_NOT_FOUND

説明: 指定されたスクラッチプールは存在しません。

このリターンステータスは、`delete_pool`、`define_pool`、`mount_scratch`、および `set_scratch` リクエスト関数に固有です。

STATUS_PORT_ALREADY_OPEN

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_PORT_FAILURE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_PORT_NOT_IN_LIBRARY

説明: リクエストに指定された `port_id` は構文的には有効ですが、現在の構成に存在しません。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_PROCESS_FAILURE

説明: ACSLM がリクエストを生成できなかったか、生成されたプロセスからプロセスエラーを受け取りました。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_QUEUE_FAILURE

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_READABLE_LABEL

説明: このリターンステータスは、`venter` リクエスト関数に固有です。

仮想挿入リクエストにおいて、外部ラベルのいずれかが読み取り可能な場合、読み取り可能なラベルを持つテープカートリッジは CAP 内に残り、ACS ライブラリには挿入されません。コンポーネントボリューム識別子には、外部ラベルのボリューム識別子が含まれています。

STATUS_RECOVERY_COMPLETE

説明: これは、ACSL S サーバーが RECOVERY COMPLETE イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_RECOVERY_FAILED

説明: これは、ACSL S サーバーが RECOVERY FAILED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_RECOVERY_INCOMPLETE

説明: このリターンステータスは、変更リクエスト関数に固有です。

- `vary` リクエストにおいて、LSM をオンラインまたは診断に変更しているときに、移動中のカートリッジの回収に失敗した場合、その LSM に関してはこのコンポーネントステータスが返されます。LSM はデータベース内でリクエストされた状態に変更されますが、回収されなかった移動中のカートリッジでは、パススルーポートの使用や、システム障害のあとでロボットがカートリッジハンドを空にする機能が制限される場合があります。変更リクエストが ACS を指定していた場合、このステータスは、少なくとも 1 つの LSM で移動中のカートリッジを正常に回収できなかったことを示します。
- `vary` リクエストにおいて、移動中のカートリッジの回収時に、ラベルの付いた移動中のカートリッジに使用できるストレージセルが見つからない場合、カートリッジは CAP に移動されます。CAP がいっぱいになっているか、移動中のすべてのカートリッジを受け入れることができない場合、移動中のカートリッジの回収は失敗し、その LSM に関してはこのコンポーネントステータスが返されます。
- `vary` リクエストにおいて、`vary online` または `diagnostic` リクエストが ACS を指定している場合、その LSM の 1 つ以上がオンラインまたは診断に移行できないか、移動中のカートリッジの回収が失敗すると、その ACS に関してはこのコンポーネントステータスが返されます。

-
- vary リクエストにおいて、vary online または diagnostic リクエストが ACS、LSM、または CAP を指定している場合に、CAP のドアが開いているか作動不能であることが ACSLM で検出されたとき、回収すべき移動中のカートリッジが LSM 内にあると、このコンポーネントステータスが返されます。

STATUS_RECOVERY_STARTED

説明: これは、ACSL S サーバーが RECOVERY STARTED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_REMOVE_CARTRIDGES

説明: これは、ACSL S サーバーが REMOVE CARTRIDGES イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_RETRY

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_RPC_FAILURE

説明: ACSLM は CSI/SSI との接続を失いました。接続を確認し、クライアントが有効になっていることを確認してください。

メモ:

これは STATUS_NI_FAILURE と同じものとして ACSL S リリース 3.0 で再定義されました。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_SCRATCH_NOT_AVAILABLE

説明: mount_scratch コマンドにおいて、mount_scratch リクエストを満たすために使用できるスクラッチボリュームがない場合、リクエストは拒否されます。

このリターンステータスは、mount_scratch リクエスト関数に固有です。

STATUS_STATE_UNCHANGED

説明: これは、ACSL S サーバーが STATE UNCHANGED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。

これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_SUCCESS

説明: このリターンステータスは、正常終了時に最終応答で返されます。

このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_TERMINATED

説明: これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_TRANSLATION_FAILURE

説明: これは一般的な CSI 障害です。クライアントとサーバーの間に XDR 変換の問題がある可能性を示しています。これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。確認応答は返されません。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_UNREADABLE_LABEL

説明: このリターンステータスは、audit、dismount、enter、mount、および venter リクエスト関数に固有です。

- audit リクエストにおいて、ストレージセル内のカートリッジのラベルが欠落しているか読み取り不能な場合で、仮想ラベルが割り当てられていないとき。このカートリッジはライブラリから取り出され、監査リクエスト元に送り返される中間応答の vol_status 部分にこのステータスが配置されます。
- dismount リクエストにおいて、カートリッジの外部ラベルが読み取り不能な場合、カートリッジに仮想ラベルが割り当てられていないと、リクエストは拒否されます。
- enter リクエストにおいて、テープカートリッジの外部ラベルが読み取り不能な場合、仮想挿入が指定されていないと、読み取り不能なラベルを持つテープカートリッジは CAP 内に残り、ACS ライブラリには挿入されません。
- mount リクエストにおいて、テープカートリッジのラベルが読み取り不能な場合、カートリッジに仮想ラベルが割り当てられていないと、マウントリクエストは拒否されます。
- venter において、リクエストに含まれているボリューム識別子が CAP 内の読み取り不能なカートリッジより少ない場合、ラベルを割り当てることができない読み取り不能なテープ

カートリッジは CAP 内に残り、ACS ライブラリには挿入されません。このコンポーネントステータスは、ボリューム識別子のない各ボリュームに対して設定されます。

STATUS_UNSUPPORTED_COMMAND

説明: message_header のコマンドフィールドは有効ですが、この特定のバージョンではサポートされていません。確認応答は返されません。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_UNSUPPORTED_OPTION

説明: message_header の message_options フィールドは有効ですが、この特定のリクエストではサポートされていません。あるいは、message_header の extended_options フィールドは有効ですが、この特定のリクエストではサポートされていません。確認応答は返されません。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_UNSUPPORTED_STATE

説明: message_header の状態フィールドは有効ですが、この特定のリクエストではサポートされていません。確認応答は返されません。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_UNSUPPORTED_TYPE

説明: message_header のタイプフィールドは有効ですが、この特定のリクエストではサポートされていません。確認応答は返されません。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_VALID

説明: ACSLM に送信されたリクエストは有効です。このステータスは確認応答とともに返されます。このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。

STATUS_VALUE_UNCHANGED

説明: 設定リクエストにおいて、指定された値が実際の値と同じです。このリターンステータスは、すべての設定リクエスト関数に固有です。

STATUS_VARY_DISALLOWED

説明: 変更リクエストで ACS、LSM、CAP、またはライブラリドライブを DIAGNOSTIC 状態に移行または DIAGNOSTIC 状態から移行するように指定していますが、リクエスト元が ACSSA ではありません。このリターンステータスは、vary リクエスト関数に固有です。

STATUS_VARY_IN_PROGRESS

説明: vary OFFLINE リクエストで、現在 RECOVERY 状態になっている ACS、LSM、または CAP を指定していました。vary ONLINE リクエストで、現在 OFFLINE-PENDING または RECOVERY 状態になっている ACS、LSM、または CAP を指定しています。このリターンステータスは、vary リクエスト関数に固有です。

STATUS_VOLUME_ACCESS_DENIED

説明: ユーザーは、指定されたボリュームへのアクセスを許可されていません。このリターンステータスは、アクセスが拒否されているときにボリュームにアクセスしようとした結果です。

STATUS_VOLUME_ADDED

説明: これは、ACSL S サーバーが VOLUME ADDED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_VOLUME_AVAILABLE

説明: このリターンステータスは、*clear_lock*、*query_lock*、および *unlock* リクエスト関数に固有です。

- *query_lock* リクエストにおいて、指定されたボリュームはロックされていません。
- *clear_lock* および *unlock* リクエストにおいて、ロックされていない *vol_id* のロックを解放しようとしていました。

STATUS_VOLUME_DELETED

説明: これは、ACSL S サーバーが VOLUME DELETED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_VOLUME_EJECTED

説明: これは、ACSL S サーバーが VOLUME EJECTED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_VOLUME_ENTERED

説明: これは、ACSL S サーバーが VOLUME ENTERED イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_VOLUME_FOUND

説明: このリターンステータスは、取り出しおよび仮想挿入リクエスト関数に固有です。

- 取り出し操作において、テープカートリッジが移動されている場合、テープカートリッジは移動中です。カートリッジは取り出されません。
- *venter* リクエストにおいて、リクエストに含まれているボリューム識別子が CAP 内のカートリッジより多い場合、指定された余分な各ラベルに対してこのコンポーネントステータスが設定されます。

STATUS_VOLUME_HOME

説明: このリターンステータスは、*query* リクエスト関数に固有です。照会リクエストにおいて、指定されたテープカートリッジはストレージセル内にあります。

STATUS_VOLUME_IN_DRIVE

説明: このリターンステータスは、*eject*、*mount*、および *query* リクエスト関数に固有です。

-
- 取り出し操作において、テープカートリッジがライブラリドライブ内にある場合、テープカートリッジは取り出されません。
 - `mount` リクエストにおいて、テープカートリッジがマウントされたあとは、どのライブラリドライブでもそのカートリッジをマウントする後続のリクエストは拒否されます。返されるドライブ識別子は、ボリュームがマウントされているライブラリドライブです。
 - `query` リクエストにおいて、指定されたテープカートリッジはライブラリドライブ内にあります。

STATUS_VOLUME_IN_TRANSIT

説明: このリターンステータスは、`query` リクエスト関数に固有です。`query` リクエストにおいて、指定されたテープカートリッジは移動中です (ホーム位置とテープドライブ (またはパススルーポート) の間にある)。

STATUS_VOLUME_IN_USE

説明: このリターンステータスは、`eject`、`mount`、`query`、`set_clean`、および `set_scratch` リクエスト関数に固有です。

- `eject` リクエストで、ロックされたテープカートリッジを取り出そうとする場合、そのテープカートリッジのロック識別子を含めないと、カートリッジは取り出されません。
- `mount` リクエストにおいて、データベース内でテープカートリッジが移動中としてマークされているときに、それに対してマウントリクエストが発行されると、このステータスで拒否されます。
- `mount` リクエストで、ロックされたテープカートリッジをマウントしようとする場合、そのテープカートリッジのロック識別子を含めないと、リクエストは拒否されます。
- `query` リクエストにおいて、指定されたテープカートリッジはライブラリドライブ内にあるかロックされています。
- `query_lock` リクエストにおいて、リクエストはロックされたコンポーネントに対して発行されました。
- `set_clean` リクエストにおいて、`set_clean` でテープカートリッジの属性を変更しようとしているが、テープカートリッジが別のプロセスによってロックされているか、テープカートリッジが使用中のとき、このステータスが返されます。
- `set_scratch` リクエストにおいて、リクエストされたボリュームが使用中としてマークされている場合、そのボリュームに対する `set_scratch` リクエストは拒否されます。このイベントは、リクエストに指定されたほかのボリュームに対する `set_scratch` 操作には影響を与えません。
- `set_scratch` リクエストにおいて、リクエストされたボリュームが別のクライアントによってロックされている場合、そのボリュームの正しいロック識別子を指定していない `set_scratch` リクエストは拒否されます。このイベントは、リクエストに指定されたほかのボリュームに対する `set_scratch` 操作には影響を与えません。

STATUS_VOLUME_NOT_FOUND

説明: これは、ACSL S サーバーが VOLUME NOT FOUND イベントを受信した際に送信される要求外メッセージです。これは、ACS ストレージサーバー内で使用するために予約されているステータス値です。これをユーザーに返すリクエストプロセスはありません。これが表示された場合は、ACSL S サポートに連絡してください。

STATUS_VOLUME_NOT_IN_DRIVE

説明: このリターンステータスは、dismount リクエスト関数に固有です。データベースを使用して、リクエストされた *vol_id* とリクエストされた *drive_id* が照合されます。リクエストされた *vol_id* がリクエストされたドライブ内がないことがデータベースで示された場合、マウント解除は失敗します。

STATUS_VOLUME_NOT_IN_LIBRARY

説明: このステータスは、すべての ACSAPI リクエスト関数に共通です。リクエストに指定された *vol_id* は構文的には有効ですが、データベース内に見つかりません。

- 取り出し操作中に、ボリューム識別子のリストに 1 つ以上の重複が含まれている場合、ACSLM はボリューム識別子の最初のインスタンスで、そのボリューム識別子を持つテープカートリッジを ACS ライブラリから取り出します。ボリューム識別子のほかのインスタンスでは、このステータスが返されます。
- 取り出し操作中に、データベースで指定された場所にテープカートリッジが入っていない場合、ボリュームが移動中でなく、ライブラリドライブ内にもないときは、データベースのエントリが削除されます。
- lock リクエスト中に、テープカートリッジリソースが使用可能になるまで保留しているときに、取り出しましたは監査リクエストによってテープカートリッジがシステムから取り除かれた場合、ロックリクエストはこのステータスで失敗します。失敗した識別子のコンポーネントステータスは STATUS_VOLUME_NOT_IN_LIBRARY に設定され、有効な識別子のコンポーネントステータスは STATUS_VALID に設定されます。

索引
